

爲メ設立シタルモノナリ爾來年ヲ閱スルコト二十二年其間組織ノ變更等アリト雖モ終始一貫紡績業ノ進歩發達ヲ圖リ其畫圖スル所國家經濟ノ消長ニ關スルモノ亦尠シトセス其主ナル事業左ノ如シ

- 一、職工僱使上ノ取締
- 二、原棉輸入
- 三、清國棉ノ検査
- 四、孟買棉花ノ回漕
- 五、海外棉業ノ視察
- 六、綿絲輸出資金ノ融通
- 七、製絲改良粗造防遏ニ關スル協約
- 八、製造額減少ニ關スル協約及取締
- 九、棉花輸入税及綿絲輸出税免除ニ關スル諸申請
- 十、綿絲輸出ノ獎勵
- 十一、棉花取引紛議仲裁
- 十二、工場法案清國關稅率其他ニ關スル公私團體ヨリ諮詢應答
- 十三、月報發刊及海外棉業ニ關スル通信
- 十四、紡績工業ニ關スル技術及經濟上ノ各種調査並研究

十五、會同

今本會ノ明治三十六年五月三十一日ニ於ケル現状ヲ擧クレハ左ノ如シ

入會社數	五十三會社
府 縣	三府十四縣
資本金總額	三五、五三一、四〇〇 ^円
資本拂込額	三〇、五〇九、八三八 ^円
諸積立金	四、三〇六、九五四 ^円
錘 數	
リング	一、二四九、三一〇
ミュノル	七、七六二〇
合 計	一、三二六、九三〇
織機臺數	五、〇一九
撚糸錘數	九四、二三八

兵庫縣日本藥物會

本會ハ明治二十六年ノ創立ニシテ夙ニ試驗場ヲ設ケ内國及海外諸國ニ於ケル良種ノ果樹ヲ栽培シテ斯業企圖者ノ參考ニ資シ又藥物雜誌ヲ發行スル等本邦ニ於ケル果樹ノ改良發達ヲ計リ斯業ノ爲メニ裨益ヲ與ヘタルコト尠カラズ我邦ノ經濟事情ニ於テ果樹ノ栽培ハ目下ノ

急務ニシテ亦將來有望ノ事業タルヘキヲ以テ次回ニ於テハ更ニ此種出品ノ多カラシム

京都博覽協會

本會ハ京都博覽會沿革誌ヲ出品セリ明治四年中有志相謀リ歐米ノ例ニ則リ博覽會ヲ開設シ大ニ人智ヲ啓發シ工藥物產ノ發達進步ヲ謀ランコトヲ企テ之ヲ京都府ニ稟申シタルニ大ニ之ヲ補助スル所アリ同年一月寺院ヲ假用シ三十三日間一種ノ博覽會ヲ開設シテ公衆ノ觀覽ニ供シ之ヲ京都博覽會ト稱ス之レ本邦ニ於ケル博覽會ノ嚆矢ニシテ且ツ京都博覽協會ノ濫觴タリ後博覽會社ナルモノヲ組織シ五年大ニ規模ヲ擴張シ三大刹ヲ以テ會場ニ充テ京都博覽會ヲ開設シ爾來毎年各種ノ會ヲ開設シテ昨三十五年ニ至ル迄三十有餘年間一歲モ休止シタルコトナシ今ヤ京都博覽協會ト稱シ益々事業ヲ擴張シテ將來ニ企畫スル所アリ本會カ時流ニ先シテ博覽會ヲ開設シ我カ國ニ博覽會ノ効用ヲ紹介シ更ニ其發達進步ヲ計リシハ我カ國産業ニ對スル功績實ニ尠カラズ

農會及郡市町村是

今回ノ内國勸業博覽會ニ於テ各級農會ニ向ツテ大ニ多トセサルヘカラサルハ米、大麥、小麥、裸麥、大豆、小豆、繭ノ七大農産物ヲ撰拔出品セルコト是レナリ由來農産品ノ出品程度精粗善惡混亂ノモノアラサリシナリ之ヲ矯正センカ爲メ明治三十四年ノ全國農事大會ニ於テ第五回内國勸業博覽會ニ出品スヘキ米、麥外三品ノ出品ニ限リ各級農會ニ於テ系統的ニ擇拔ヲ行ヒ最

後ノ府縣農會ノ撰拔ニ及第セルモノ、ミヲ出品スルコトニ決シ各府縣農會共ニ之ヲ勵行シ
 タリキ其結果今回ノ博覽會ニ於テ農産物中米麥外三種ニ限り一定ニシテ最モ精良ナル出品
 ヲ見ルヲ得タルハ第五回内國勸業博覽會ノ一大進歩ト云フモ敢テ過言ニアラサルナリ
 今回出品セル府縣農會ハ三府三十縣ニシテ其點數ハ三百九十三點ナリ即左ノ如シ

東京	京都	大阪	福岡	高松	鹿兒	熊本	大分	香川	三浦	靜岡	愛知	石川	滋賀	兵衛	宮城	奈良	長門	新山	岡山	宮崎	德島	群島	富山	廣島			
12	8	5	6	7	8	9	11	12	16	16	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
千	福	愛	鳥	崎	栃	靜	愛	石	滋	兵	宮	長	新	山	岡	宮	德	群	富	廣	島	山	馬	島	崎		
1	2	1	0	6	6	5	7	2	3	2	3	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
奈	長	新	山	山	形	山	崎	島	馬	山	島	野	良	野	良	野	良	野	良	野	良	野	良	野	良	野	良
1	4	2	1	0	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

合計三百九十三點

右ハ第一部及第九部ニ出品セルモノ所謂農會ノ出品セル總點數ナリ今之ヲ部類ニ依リテ分
 ラハ第一部ニ屬スルモノ三府十三縣八十點ニシテ第九部ニ屬スルモノ三府二十七縣三百十

三點ナリ右ノ總點數ヲ各級農會ニ從ヒ分類セハ左ノ如シ

東京	京都	大阪	福岡	高松	鹿兒	熊本	大分	香川	三浦	靜岡	愛知	石川	滋賀	兵衛	宮城	奈良	長門	新山	岡山	宮崎	德島	群島	富山	廣島		
12	8	5	6	7	8	9	11	12	16	16	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
千	福	愛	鳥	崎	栃	靜	愛	石	滋	兵	宮	長	新	山	岡	宮	德	群	富	廣	島	山	馬	島	崎	
1	2	1	0	6	6	5	7	2	3	2	3	1	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
奈	長	新	山	山	形	山	崎	島	馬	山	島	野	良	野	良	野	良	野	良	野	良	野	良	野	良	野
1	4	2	1	0	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
12	8	5	6	7	8	9	11	12	16	16	1	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
4	1	1	3	2	3	2	7	2	1	6	6	2	9	7	8	6	5	8	2	1	1	1	1	1	1	1

第五十五類
統計及經濟

東京	大阪	京都	神戶	名古屋	福岡	熊本	鹿兒島	大分	香川	三浦	愛知	石川	滋賀	兵庫	宮城	奈良	長門	新島	山形	福島	
都	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府	府
七	九	一	七	四	一	一	七	一	四	一	二	九	二	三	一	一	一	二	二	三	七
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七	三	三	八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
九	三	三	七	八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
九	三	三	八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
九	三	三	八	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一

三八七

右ノ内第九部ニ出品セルモノヲ其品種ニ依リ類別スレハ左ノ如シ

合	新山	島根	福島	千福	愛媛	鳥取	埼玉	栃木	岡山	廣島	宮崎	徳島	群島	富山
計	形	根	島	千	愛	鳥	玉	山	岡	廣	宮	徳	群	富
三														
一九二														
二一六														
八二														
三九三														

第五十五類
統計及經濟

三八六

昔ハ明治廿五年四月ヨリ三十四年三月ニ至ル十ヶ年ノ事蹟ヲ編纂セルモノナリ本府農會
ノ如キハ實ニ農會ノ本鐸ト稱スヘキモノナリ

大阪府 全國農事會ノ決議ニ準ヒ各郡一ヶ町村ヲ指定シ其町村是ヲ調査出品セシメタルモ
ノニシテ大阪府農會ノ出品ニ係ル其指定ノ町村ハ即左ノ如シ

- 豐能郡 根根莊村 中河内郡 惠我村
- 東成郡 田邊村 南河内郡 柏原村
- 西成郡 新庄村 泉北郡 東陶器村
- 三島郡 芥川村 泉南郡 田尻村
- 北河内郡 守口村

根根莊村ハ村是トシテ調査セルハ今回ヲ以テ嚆矢トスルモ元來該村ハ既ニ數年前ヨリ一
定ノ方針ヲ定メ凡テ村治ノ經營ヲナシツ、アルモノニシテ其調査書其モノハ完全ナリト
云フヘカラサルモ既ニ業ニ其實ヲ得タルノ形蹟ヲ認ム田邊村是ハ其調査ノ體裁頗ル良好
ニシテ亦其要ヲ得タリ

福岡縣 本縣各農會ヨリ出品セル郡町村是ハ實ニ饒多ニシテ七十有餘點ノ多キニ達シ全國
町村是出品數ノ殆ント三分ノ一ヲ占ム其出品及出品者ハ左ノ如シ

浮羽郡是及其成績各一點
八女郡是一點

浮羽郡各町村是十七點

水編村 大石村 江村 榑子村 星野村 吉井村 千年村 浮羽村 山春村 姬治村 福富村 川會村
柴刈村 船越村 竹野村 水分村 田主丸町

八女郡各町村是三十點

笠原村 下妻村 上坂川村 水田村 星野村 矢部村 白木村 忠見村 福島町 長峰村 大淵村 羽犬
塚村 八幡村 北山村 川崎村 古川村 光友村 北川内村 岡山村 黒木町 中廣川村 豐岡村 下廣
川村 中毛村 湯谷村 三河村 上妻村 木屋村 植山村 二川村

以上五十點 八女郡農會長 田中慶介

筑紫郡是一點

筑紫郡農會長 廣辻信次郎

筑紫郡各町村是貳拾貳點

太宰府町 那珂村 春日村 堅粕村 白佐村 千代村 三宅村 豐岡村 豐平村 山口村 安徳村 筑紫
村 那珂村 岩戸村 住吉村 大野村 山家村 水城村 八幡村 御笠村 唐田村 二日市村

以上貳拾貳點 各町村農會長

本縣ニ如此數多ノ郡町村是ヲ出品セルモノハ實ニ所以アルナリ全國ニ率先シテ町村是ノ
調査ニ着手セルハ本縣ニシテ其之ヲ開始セルハ實ニ現八女郡長ナル田中慶介其人ナリ同
人ハ明治二十五年二月ニ農商務省ヨリ轉シテ福岡縣浮羽郡長ニ拜命セシ人ナリ當時郡内
ノ有様ハ官民共ニ政熱ニ浮カレ上下察ケテ各自ノ分限ヲ顧ミス我意暴威ヲ振ヒ郡民ノ利
害ヲ賭シテ自己ノ名利ヲ購ハンコトニノミ浮レ爲メニ郡ヲ舉ケテ輕躁ニ流レ浮薄ニ落チ
一人トシテ培根ノ道ヲ講シ殖産ニ意ヲ傾ムクルモノナク從ツテ民力ハ日ニ疲弊困憊令ニ

シテ之ヲ救濟セスンハ民庶死地ニ陥ルノ有様ナリシ而シテ之ヲ救治スルノ策只根底ヨリ之ヲ改善スルノ一途アルノミ而シテ之ヲ根治スルニハ先ツ其病根疾原ヲ詳悉シテ徐ロニ之レカ療法投藥ヲ講スルニ如スト茲ニ於テ斷然俗論迂議ヲ卻ケ情弊ヲ打破シ町村ノ現況ヲ調査シ國家百年ノ町村是ヲ確立センコトヲ案出セリ然レトモ之レカ調査ニ要スル費用ナキヲ如何セン茲ニ於テ更ニ英斷ヲ行ヒ郡役所應員ヲ淘汰シ冗費ヲ減シ廳費ヲ大凡半減トシ以テ之カ調査費ニ充テ以テ二十七年六月ニ浮羽郡各町村是十六部郡是一部トヲ調査結了セリ三十一年同人轉シテ八女郡長ニ任セララル、ヤ直チニ郡費千五百圓ヲ支出シテ郡町村是調査費ノ補助トナシ同郡ノ各町村是ヲ調査經始シ三十二年三月ニ其調査ヲ結了セリ

町村是ハ是レ一ノ調査書ニ過キス如何ニ精細ニ調査ヲ遂ケ如何ニ立派ニ其是ヲ定ムルモ之ヲ實行セサルニ於テハ何等ノ要ヲナサ、ルナリ茲ニ於テ同人ハ右ノ調査書ヲ印刷シ之ヲ郡町村内ノ區長、議員、有志者、小學校教員等ニ配布シ、猶ホ郡長自ラ各町村ヲ巡回シ、毎戶一名ツ、ノ村民ヲ招集シ調査ノ結果ヲ示シ將來取ルヘキ町村是ヲ明示シ以テ其實行ヲ促シタリ

浮羽郡ハ五ヶ年ノ年限ヲ定メ町村是ヲ實行セシメタルニ其効果實ニ顯著ニシテ郡民大ニ其効徳ヲ唱フルニ至レリト八女郡ハ七年ノ計畫ニテ今猶實行中ナレトモ其効果ヲ得ル疑ヲ容レヌ

右ノ如キ次第ナルヲ以テ他郡町村モ亦之ニ倣フテ郡町村是調査ヲナスニ至レリ是レ本縣カ今回ノ博覽會ニ最モ多數ノ出品ヲナセル所以ナリ

浮羽郡各町村是ハ其調査條項ハ皆盡ク同一ニシテ頗ル完美セルモノトハ云フヘカラサルモ當時他ニ率先之ヲ造リタルモノトシテハ大ニ誇ルニ足ルナリ

浮羽郡是ハ其體裁別ニ見ルヘキモノナシ然レトモ恐クハ是レ本邦ニ於ケル郡是ノ濫觴ナランカ然レトモ浮羽郡町村是ノ實蹟ニ於テハ見ルヘキモノアリ田中慶介及之レニ從事セル諸氏ノ苦心ノ結果ト云ハサルヘカラス

八女郡是ハ浮羽郡是ヨリ後ニ出テタルモノナルモ其體裁及實質ニ於テハ實ニ郡是ノ要ヲ得タルモノトス田中慶介數年ノ經營苦心ノ鬱結茲ニ發セルモノニシテ精神ノ活動紙面ニ活潑タリ實ニ郡是ノ標範タリ

八女郡各町是ハ浮羽郡ノモノト異ナルコトナシ

筑紫郡是ハ八女郡是トハ同日ノ倫ニアラサルモ浮羽郡是ト相比スヘク郡是トシテヨリハ寧ロ各町村是ノ總計トテモ云フヘキモノナリ

筑紫郡各町村是ハ浮羽、八女郡ノモノト大差ナシ

高知縣 縣下農會ノ出品ニ係ル町村是ハ左ノ如シ

幡多郡 山奈村是

香美郡 立田村是

長岡郡 大篠村是

以上六村是ハ縣農會ノ出品

吾川郡 長濱村是

安藝郡 川北村是

高岡郡 佐川町是

土砂郡 布師田村是 土佐郡農會出品

佐川町是ハ能ク農家商家ノ經濟ヲ明カニシ之レカ將來ノ設備經營ノ法モ亦肯緊ヲ得真ニ

町是ノ要ヲ得タルモノト云フヘシ

鹿兒島縣 縣農會ノ出品ナリ即左ノ十一町村是トス

出水郡 野田村是

贈嶽郡 東志布志村是

日置郡 伊作村是

川邊郡 勝目村是

伊佐郡 東太良村是

肝屬郡 西串良村是

大島郡 手花部村是

鹿島郡 櫻島村是

熊毛郡 北種子村是

始娘郡 蒲生村是

操宿郡 喜入村是

右ノ内村是調査トシテ能ク其要ヲ得其肯綮ニ當レルモノハ野田喜入及伊作ノ三村是トス

大分縣

西國東郡 田原村是

南海郡 明治村是 村農會出品

東國東郡 旭日村是

北海郡 中臼杵村是 郡農會出品

右ノ内旭日村及中臼杵村ノ村是ヲ以テ其要ヲ得タルモノト認ム

三重縣 一志郡鶴村阿曇郡白子町ノ町村是ニシテ前者ハ村農會後者ハ郡農會ノ出品ニ係リ

兩者トモ調査ノ方法其要ヲ得タリ

靜岡縣

榛原郡 勝間田村是

安部郡 長田村是

田方郡 中郷村是

磐田郡 田原村是

濱名郡 有玉村是ハ町村農會ノ出品

以上郡農會出品

各町村是中勝間田村は其調査頗ル正確ニシテ能ク其要ヲ得殊ニ將來ノ部ニ於テ改良ス
 ヘキ點ヲ研究調査シタリト雖モ只風俗習慣等ノ調査ナキヲ遺憾トス
 愛知縣 本縣郡村農會ノ出品ハ福岡縣ニ次キ饒多ニシテ郡農會ノ出品ニ係ルモノ十二點町
 村農會ノ出品ニ係ルモノ七點左ノ如シ

- 愛知郡 鳴海町是
- 中島郡 稻澤町是
- 碧海郡 一ノ木町是
- 額田郡 藤川村是
- 渥美郡 野田村是
- 幡豆郡 西野村是
- 丹羽郡 時之島村是
- 西加茂郡 平井村是
- 知多郡 坂井村是
- 葉栗郡 太田島村是
- 海東郡 伊福村是
- 西春日井郡 鹿田村是
- 寶飯郡 桑富村是

以上郡農會ノ出品

- 渥美郡 豐岡村是
- 東春日井郡 新居村是
- 海西郡 東市口村是
- 南設樂郡 西郷村是
- 八名郡 豊津村是
- 額田郡 河合村是

以上村農會ノ出品

本縣ニ於ケル各町村是ノ調査ハ概テ其當ヲ得一般ニ頗ル精密ニシテ殊ニ耕作反別及勞力
 ノ分配等ノ調査ハ他ニ多ク見サル所且ツ統計ヲ利用シテ能ク事物ノ比較ヲ一目瞭然タラ
 シメ學事ノ如キ大ニ普及セルヲ見ルナリ

石川縣 皆縣農會ノ出品ニ係ルモノニシテ左ノ如シ

- 鳳至郡 柳田村是
- 羽咋郡 北邑知村是
- 河北郡 金川村是
- 江沼郡 作見村是
- 能美郡 沖杉村是
- 石川郡 一本木村是
- 珠洲郡 三崎村是

鹿島郡 矢田ツ村是
石川郡 安原村是

石川縣出品中安原村々是ハ村是調査トシテハ最モ率先セルモノニシテ之レカ調査ニ從事セル高田久兵衛ノ如キハ精意之レニ盡瘁セルヲ以テ其將來ノ設備經營ノ如キ能ク其肯綮ヲ得タリ宜ナリ今日他府縣町村ノ多クハ範ヲ之レニ取レルヲ今其成績ヲ見ルニ其功果實ニ顯著ナルモノアルヲ覺ユ安原村是ノ如キハ特リ調査ノ模範ヲ他ニ與エタルノミナラス亦併セテ其實踐ノ模範ヲモ示シタルモノト云ハサルヘカス

滋賀縣 本縣農會ノ町村是ノ出品ハ凡テ十二ニシテ即左ノ如シ
栗田郡 大寶村是
滋賀郡 雄琴村是
神崎郡 栗見莊村是
愛知郡 稻枝村是
伊香郡 北宮永村是
蒲生郡 金田村是
阪田郡 法性村是
犬上郡 日夏村是
甲賀郡 伴谷村是

野州郡 祇玉村是
高島郡 青柳村是
東淺井郡 七尾村是

各村是ノ調査ハ殆ント同一ニシテ其間等差アルコトナシ
兵庫縣 本縣ノ出品ヲ有馬郡農會ノ出品ナルハ多村農事調査報告書津名郡農會出品ノ津名郡是及育波村是トスハ多育波ノ二村ハ見ルヘキモノアリ
新潟縣 本縣農會ノ出品ハ左ノ十二町村是ナリ

古志郡 上北谷村是
中魚沼郡 吉田村是
岩船郡 西神納村是
南魚沼郡 吉田村是
中頸城郡 諏訪村是
東頸城郡 下保倉村是
西頸城郡 大野村是
北魚沼郡 天城下村是
中蒲原郡 橋田村是
北蒲原郡 中浦村是

三島郡 黑寺川村是
西蒲原郡 栗生津村是

本縣農會ハ彙キニ村是調査方針ナルモノヲ各郡ニ示シ之ニ準シテ調査セシモノナルカ如シト雖モ抑該方針ナルモノハ主トシテ農家一家ノ經濟ヲ基礎トセルモノ、如ク從ツテ町村經濟ニハ重キヲ措カサルカノ感アリ故ニ本縣ノ村是ハ專ラ農家現況ノ調査ナリ然レトモ特リ上北谷村ノ調査ハ能ク後來ノ取ルヘキ方針ヲ定ムルニ適切ナリト認ム

山形縣 南賜玉郡農會ノ出品ニ係ル鹽井村是及農村會ノ出品ニ掛ル東田川郡廣瀬村是ノ二點トス

島根縣 縣農會ノ出品ニシテ左ノ八村是トス

八束郡 志部村是
鹿足郡 朝倉村是
能 郡 赤江村是
那賀郡 有福村是
仁多郡 三澤村是
飯石郡 來島村是
迎摩郡 福光村是
邑智郡 矢上村是

福島縣 縣農會ノ出品ニ係ルモノニシテ左ノ七町村是トス

田村郡 小泉村是
河沼郡 廣瀬村是
岩瀬郡 西袋村是
大沼郡 横田村是
相馬郡 眞野村是
西白川郡 小田川村是
那麻郡 堂島村是

就中見ルヘキモノヲ小泉村是トシ之レニ次クラ横田村是トス殊ニ小泉村是ノ如キハ村是調査トシテハ頗ル其當ヲ得順序整然調査密ニシテ其數字ヲ擧クル能ク統計ニ叶ヒ資本生産收得歳入消費等ノ事項精細ニシテ一目瞭然タリ

千葉縣 本縣ノ出品ニ係ル村是ハ比較的少數ニシテ僅カニ千葉郡陸村是市原郡里見村是東葛飾郡手賀村是ノ三點ニ過キサレモ農會ノ成績ニ至リテハ十一點ノ多キニ達シ各府縣農會中最多ヲ占ム其目次左ノ如シ

海上郡農會事蹟 同郡農會出品
印旛郡農會事蹟 同
市原郡農會事蹟 同

千葉郡農會事蹟 全郡農會出品

長生郡農會事蹟 全

香取郡農會事蹟 全

匝瑳郡農會事蹟 全

山武郡農會事蹟 全

安房郡農會事蹟 全

競耕會事蹟 農產競耕會

千葉縣農會事蹟 縣農會

本縣ノ出品ニ係ル村是ハ僅カニ三ニ過キサレモ陸村是ノ如キハ其調査既ニ再回ニ及ヒ其方法ノ如キモ能ク要領ヲ摘要シ將來ノ施設能ク其肯綮ニ當レルヲ以テ今ヤ着々其成績ヲ舉クルニ至レリ農會ノ成績ハ何レモ良蹟ヲ舉ケタルモ郡農會トシテハ殊ニ其成績ノ顯著ナルハ千葉縣農會及千葉郡農會ニシテ之レニ次クハ長生郡香取郡海上郡安房郡匝瑳郡市原郡印旛郡等ノ農會トス就中千葉縣農會ノ創立ハ明治二十八年ナルモ銳意農事諸般ノ改良ニ盡瘁セル結果今ヤ其成績ノ大ニ見ルヘキモノアリ本會ノ如キハ農會ノ好模範ト稱スルモ過稱ニアラサルヘシ近來千葉ノ農業ハ他ニ一頭地ヲ抽キタルノ評アルモ蓋シ本縣各農會等ノ與リテ大ニカアル所タルコト疑ナシ今各級農會ノ實施セル事業ノ重ナルモノヲ舉クレハ

農事講話稻作改良蠶業改良關草栽培庭織練習耕地整理牛馬耕整理堆肥改良害虫驅除豫防害蟲試驗豚ノ改良共進會品評會會報發刊調查書發行種苗配付農事講習會ノ改良農事試驗組合ノ設備農事教育獎勵農事調査農事功勞者發表農事講習會ノ團體組織重要農產物調査農事視察員ノ派遣家畜獎勵地主會麥作改良信用組合ノ獎勵副產物ノ獎勵村是調査等ナリ
福井縣 郡農會ノ出品ニ係ル村是二點村農會ノ出品セルモノ三點都合五ヶ村是ナリ

足羽郡 上文珠村是 郡農會出品

板井郡 大關村是

遠敷郡 今富村是

敦賀郡 松葉村是 村農會出品

大野郡 下庄村是

本縣郡村農會出品ニ係ル村是ノ調査ハ概子頗ル緻密ニシテ殊ニ將來ノ計畫ノ如キ適切ナルヲ覺ユ

愛媛郡 本縣々農會ヨリノ出品村是四點ト余土村農會長ノ出品ニ係ルモノ一點ト都合五點ナリ

西宇和郡 三瓶村是

新庄郡 中萩村是 以上縣農會出品

越智郡 鴨部村是

國榮郡 福岡村是

溫泉郡 余土村是 同村農會長森恒太郎出品

縣農會ノ出品ニ係ル町村是ハ其體ヲ余土村是ニ受クルモ概子完全ナリト云フヲ得ス之ニ反シ余土村是ハ實ニ完全ナル村是ニシテ今回出品セル村是中蓋シ此上ニ出ツルモノアラサルナリ本村是ハ農會ノ決議ニ基キ單ニ博覽會ニ出品スルヲ目的トシ調査セルモノニアラスシテ村治上必要ヲ感シテ之レカ熱心精英ナル調査ヲナシタルモノ所謂其依リテ來ル所ヲ探リ其支出ヲ參伍シ以テ滿腔ノ熱血ヲ澆キテ以テ之レカ是ヲ定メタルモノナリ其之レヲ成就セルハ即世ニ盲目村長ヲ以テ稱セラルル余土村長森恒太郎其人ナリ故ニ其調査ハ自ら肯緊ヲ得斯然他ノ調査ト異ナル處アルヲ見ル將來ノ部ノ如キ其希望深遠ニシテ其之レニ對スル施設計畫頗ル剴切ニシテ能ク既往ト現在トニ鑑ミ生産及資本ノ活用ヲ購シ村治百年ノ基礎ヲ立テタルカ如キ村是トシテノ精神飛動スルカ如キ觀アリ聞クナラク本調査書ノ如キハ中國四國其他各府縣農會カ村是調査ノ模範トスル所タリト

鳥取縣 村是六點ニシテ皆村農會長ノ出品ナリ

岩美郡 美保村是

日野郡 山上村是

氣高郡 湖山村是

西伯郡 高麗村是

八頭郡 登米村是

東伯郡 瑞穂村是

右ノ村是ニハ特ニ秀優ノモノナシト雖モ概ネ相當ノ成績ヲ擧ケタルモノアリ

埼玉縣

北葛飾郡 彥成村是

南埼玉郡 鷺宮村是

兒玉郡 秋平村是

北埼玉郡 埼玉村是

入間郡 豐岡村是

入間郡 仙波村是

秩父郡 太田村是

比企郡 大河村是

北足立郡 小谷村是

兒玉郡農會事蹟

南埼玉郡農會事蹟

北埼玉郡農會事蹟

北比企郡農會事蹟

入間郡農會事蹟

北足立郡農會事蹟

埼玉縣農會事蹟

本縣出品ノ町村是ハ其調査ノ方法概テ同一ニシテ甲乙アルナク成績佳良ナリ
農會ノ事業成績モ稍見ルヘキモノアリ其重ナル事業ハ講習、耕地整理、牛馬耕獎勵品評會、農
事講習會、農事試驗、農事視察、農事調査等トス

栃木縣 町村是ノ出品アリ皆縣農會ノ出品ナリ

鹽谷郡 喜連川町是

芳賀郡 山前村是

足利郡 筑波村是

宇都宮 戸祭町是

右町村是中山前村是ハ調査特ニ正確ナリト認ム

岡山縣 本縣出品ノ町村是ハ郡農會ノ出品ニ係ルモノ四點縣農會ノ出品ニ係ルモノ十三點
都合十七點アリ即各郡一ヶ町村ヲ撰拔シテ調査出品セシメタルモノナリ

淺口郡 占見村是

川上郡 玉川村是

上房郡 上竹莊村是

以上郡農會ノ出品

吉備郡 淺尾村是

眞庭郡 月田村是

赤岩郡 瀧瀬村是

勝田郡 飯岡村是

御津郡 建部村是

英田郡 大野村是

英田郡 福岡村是

苦田郡 西加茂村是

以上縣農會出品

阿耆郡 新砥村是

久米郡 大井西村是

小田郡 吉田村是

兒島郡 八瀨町是

和氣郡 本莊村是

都窪郡 山手村是

本縣出品中淺尾、玉川、新砥ノ三村是ハ其調査分類將來ノ計畫等頗ル要ヲ得タリ本縣ノ町村
是ハ大體ニ於テハ同一筆法ニ出テ只僅カニ精粗ノ別アルノミ

熊本宮城香川、奈良、長野ノ五縣ハ各一町村是ヲ出品セルノミ

熊本縣宇土郡戶馳村是 同村農會出品
 宮城縣名取郡生田村是 長尾次郎左衛門出品(農會長)
 香川縣香川郡大野村是 香川郡農會出品
 長野縣高井郡日野村是 同村農會出品
 奈良縣生駒郡北倭村是 同村農會出品

右ノ内宮城縣生田村是ハ其調査詳密ニシテ有益ナリト認ム元來同村長農會長(長尾四郎右衛門)ナルモノハ特ニ公共ノ事業ニハ極メテ熱心ナル者ニシテ既ニ數年前ニ村是ヲ定メ著々之レカ實行ヲナシツ、アルモノナルヲ以テ調査トシテヨリモ寧ロ其成績トシテ大ニ見ルヘキモノアリ香川縣大野村是奈良縣北倭村是及長野縣日野村是ノ如キ共ニ見ルヘキモノアリ就中日野村ハ教育事業ニ盡力セルモノ、如シ

全國ヲ通シテ之レカ概評ヲ加フル時ハ今回出品ノ各郡町村是ノ調査ハ概子今回ノ博覽會ニ出品センカ爲メ標準全國農事會ハ石川縣安原村ノ村是ヲ調査ノ標準トシテ示サレタリ元來安原村ノ村是ハ當時或ル必要ヨリシテ調査セルモノニシテ之ヲ以テ全國ヲ通シテノ標準トセンニハ多クノ修正加除ヲ要スヘキモノナリ標準トセンニハ寧ロ愛媛縣余土村ノ調査ヲ以テ優レリトナスヲ定メ之レカ條項數字ヲ羅列シタルモノナレハ其現況ノ調査將來ノ計畫等極メテ不備ノモノアリ中ニハ町村是ト題スルノ價値ナキモノ少カラスト雖モ前文ニ記述セル如ク實ニ郡町村ノ方針ヲ定ムルニ適當ナルモノモ亦少ナカラス

開クトコロニ依レハ今回ノ博覽會出品物中農業ニ關スルモノ此町村是調査程各府縣郡町村

農會若クハ郡町村官衙役場等ニ困難ト反省トヲ與ヘタルモノアラサリシト云フ而シテ困難トハ之レカ調査ノ費用ト材料トヲ得ルノ一事ナリ費用ハ或ハ府縣農會ヨリ或ハ郡町村農會若クハ郡町村費ヨリ辛ウシテ之レヲ支出シ之レヲ調査スルニハ郡市町村吏員區長學務委員或ハ農會員有志者或ハ事項ニ依リテハ學校教員衛生員等ニ委任囑托シ時ニ或ハ縣郡農事巡回教師ノ援助ヲ得彼レニ諮シ之レニ問ヒ或ハ實際ニ或ハ各戸ニ或ハ地誌歴史ニ徴シ苦辛慘憺短カキモ三ヶ月長キハ八九ヶ月若クハ一週年ノ久シキニ亘リテ結了セルモノナリト故ニ其調査ハ不完全ナルモ初メテノ調査トシテハ良結果ヲ得タルモノト云ハサルヘカラス

然レトモ此調査ノ困難ト苦辛ハ如何ニ統計的思想調査の觀念ト之レカ調査ノ經驗ヲ當事者ニ與ヘタリシカ是レ此調査ノ間接ナル賜ノ一ナリ亦此調査ノ結果ハ如何ニ町村ノ經濟不確固ニシテ危殆ナルカノ念ヲ其町村民ノ頭腦ニ自覺セシメタリ是レ此調査ノ間接ナル賜ノ二ナリ今回出品ノ町村是ハ其數實ニ貳百七十點ナルモ其町村經濟ニシテ其入ル處其出ル處ヲ償フテ尙餘裕アルモノハ實ニ寥寥タルモノナリ多クハ其收ムル所其支出スル所ヲ償フ能ハサルノ悲境ニ沈淪シツ、アルナリ其甚シキニ至リテハ一ヶ年ノ收入三十萬圓ニ過キサル町村ニシテ尙年々三萬圓ノ支出超過ヲ來タシツ、アル村アルヲ見タリ如此町村ハ此儘今後十年繼續スルニ於テハ自然亡滅ヲ免レサルヘシ豈ニ寒心セサルヘケンヤ是レ今回ノ調査ニ依リテ得タル大恩賜ナリ

町村是調査ノ必要ハ今更辨ヲ要セス各府縣町村農會宜シク正確ナル調査ヲ遂ケ之レカ確實

ナル町村是ヲ定ムヘシ然レトモ町村是其モノハ一ノ調査ニ過キス故ニ能ク其方針ニ從ヒ着々之レカ實蹟ヲ擧クルニアラサレハ町村是調査ハ實ニ町村ノ一ノ厄介物ニ過キサレノミ町村農會ナルモノ能ク茲ニ留意アラントヲ希望ス

今回ノ出品ニ係ル府縣郡町村農會ノ事業成績ハ其數甚タ僅少ニシテ府縣農會成績三點郡農會成績十五點村農會若クハ之ニ準スル團體ノ成績二點都合二十一點ニ過キス一萬二千有餘ノ農會ノ設備アルニモ係ラス僅ニ二十一點ノ成績ヲ見ルトハ甚タ遺憾トスル所ナリ然レトモ此多數ノ各府縣ノ各級農會カ其成績ヲ有セサルニアラサルヘシ之等ノ成績ヲ博覽會ニ出品スルモ敢テ世人ノ一顧ヲ價セサルモノトノ誤解ヨリシテ如此少數ノ出品ヲ見ルニ至リタルモノナラン今後ハ務メテ右等團體ノ事業成績ヲ蒐集出品シ以テ廣ク世間ノ參考ニ供スルアラントヲ斯道ノ爲希望スル所ナリ

統計及爾他ノ出品

大阪府 大阪府農會ハ町村是調査ノ外各郡町村ノ農家經濟調査書十六點泉陽肥料共同組合及成績一點大阪府豐能郡歌垣村信用組合及成績一點ヲ出品セリ亦三島郡吹田村農會長ハ害蟲驅除統計一點泉南郡農事試驗場長ハ農歷一覽一點ヲ出品セリ
農家經濟調査ハ能ク府下各種農業家ノ事業ノ收支及一家ノ經濟ヲ明カニシ以テ將來農家生計上農業改良上ニ資スル所少カラス泉陽肥料共同組合及歌垣信用組合共ニ其成績佳良ナリ吹田農會長ノ害蟲驅除統計ハ能ク害蟲驅除ニ要セル人夫賃金油其他ノ事項ヲ明カニ

シ以テ他ニ害蟲驅除ニ從事スルモノニ裨益ヲ與フルコト少カラス農家曆一覽ハ能ク既往百年間ノ米作ト氣候トノ關係穀類ノ相場ノ高低等ヲ明カニシ將來斯業ヲ益スルコト少カラサルヲ信ス

福岡縣 山門郡農會及築上郡農會ハ各郡内ノ農事統計ヲ出品セリ

長野縣 縣農會ハ縣下產業組合一覽主產物收支比較圖縣下副產物調查書ハ十六種ノ產物ノ栽培產額製法販路等ヲ調査セルモノニシテ產業發達上大ニ効益アリ且ツ他方ノ參考ニ供シ益スルコト少カラス

愛媛縣 縣農會ハ縣内特有作物要覽農產地誌重要農產物統計作物季節表害蟲發生圖等ノ出品アリ共ニ一覽ニ價ス

京都府 相樂郡農會出品ノ相樂郡農會補助規程一點アリ相樂郡農會ハ三十三年ノ創立ナルモ創立以來農事試驗場ヲ設立シ樹苗養生ニ盡瘁シ品評會種子交換會農談會統計調查農事講習麥稗真田講習等種々ノ事業ヲ興起獎勵シ一方ニハ町村農會ノ活動ヲ促カシ並セテ一般農民ヲ保護獎勵スルノ道ヲ開クニアラサレハ農事ノ改良發達望ム可カラサルヲ以テ補助規程ヲ設ケ之ヲ實行シツ、アリ其補助規程ニ依レハ樹苗栽培耕地整理肥料共同購入共同苗代農學生徒學資町村農會小作米品評會等ハ其補助ヲ受クルモノトス

高知縣 農會出品ノ農事統計書新瀨縣農會ノ農產統計書千葉縣芳賀郡山前村農會ノ農家日誌同縣安房郡自作小作ニ關スル統計ハ價值アルモノナリ

取引所

取引所ノ成績ハ其出品僅ニ三取引所ニシテ皆株式會社組織ニ係リ其内一ハ株式取引所ニシテ其二ハ商品取引所ナリ其數ニ於テシカク少カリシト雖モ其實質ニ於テハ多少見ルニ足ルモノアリ今順次左ニ述ヘン

一、株式會社大阪堂島米穀取引所

大阪堂島米穀取引所ハ有益ナル統計表及堂島米商沿革ヲ出品シ以テ其取引ノ方法及成績ニ付審査ヲ請求セリ而シテ後者ハ元米商會所及舊家ノ古書舊記等ヨリ摘拔シ古老ノ言ニヨリ補ヒタルモノニシテ實ニ堂島史ノ好材料ナリ今大阪堂島米穀取引所ノ現狀ヲ述フルニ當リ江戸幕府時代ニ於ケル經濟史ニ一種ノ光彩ヲ放テル堂島市場沿革ノ概略ヲ述フルハ蓋シ無益ノ業ニアラザラン

天正ノ頃山城國八幡ノ住人與右衛門ナルモノ淀長堤四十八町ノ工事ニ成効シテ富巨萬ヲ累ネ大阪ニ來リテ居テ大川町ニ構ヘ多ク商品ヲ藏シ相場ノ變動ニヨリテ巨利ヲ博セシカ米ヲ藏スルコト最モ多ク遂ニ門前ニ市ヲ立テ、米粟ノ賣買ヲ爲セシカハ商人ノ來リ集ルモノ多ク遂ニ米市場ノ濫觴ヲ爲スニ至リ後寛永正保ノ頃ニ至リ二代目源右衛門三代目辰五郎等西國諸侯ノ積登セ來ル米ヲ引受ケ之ヲ賣捌キ代銀ヲ國元又ハ江戸ヘ仕送所謂町人藏元ノ起源ヲ爲セリ寛文ノ頃ニ至リテハ藏元數軒ニ及ヒシカ淀屋ヲ首班トシ市中ノ米商ハ多ク淀屋ニ集リ米穀ヲ賣買セシヨリ自然米價ノ高下ヲ競ヒ米相場ノコト此ニ起リヌ後元祿九年淀屋家

斷絶ノ後ト雖モ尙其邸址ニテ賣買ヲ爲シ喧噪ノ餘時ニ制止セララル、コトアリシカ元祿十年ニ至リ米市ヲ堂島ノ新開地ニ移シタリ是レ今日堂島米市場ノ濫觴ニシテ其賣買隆盛ニ赴キ入札ヲ以テ賣買スルノ方法ヲ見ルニ至リヌ、

正徳享保ノ頃江戸ノ住人三谷三左衛門中島藏之助冬木喜六江戸幕府ノ允可ヲ得堂島米座御爲替御用會所ヲ設立シ諸侯ノ大阪藏屋敷ヘノ廻米ヲ切手ニテ商人ヘ賣渡シ商人ハ該切手ト引換ヘニ藏米ヲ引取ル方法ヲ始メ仲買人ヲ五百名ト定メタリサレト此米切手ノ賣買モ現金取引ニシテ積登セノ正米延着ノ場合ニハ商人ノ困難甚タシク大ニ融通ヲ妨ケシカハ米商備前屋權兵衛此木屋長右衛門ノ兩人一定ノ標準ヲ定メ之レヲ建物米ト稱ヘ限月限日ヲ極メ延着日限迄ノ延賣買ヲ開キタリ是レ即チ帳合米ノ濫觴ニシテ最モ便宜ノ方法ナリシカハ漸次隆盛ノ運ニ向ヒ同業者多ギニ至リシヲ以テ相對振合ニテ決濟シ難ク遂ニ中間ニ支配人ヲ置キ之ヲ遺來兩替屋ト稱シテ之ニ帳合米ニ關スル出納ヲ一任スルコト、シ尙其延取引ナルコトヲ覆ハンカ爲メ兩替屋ノ帳簿上ニ於テハ正銀ト切手トノ出入ニ見做セリ享保六年米穀稔ラス米價暴騰セシカハ時ノ町奉行北條安房守之ヲ以テ堂島ニ於ケル不正ナル賣買ニ原因スルモノト爲シ仲買人數名ヲ逮捕シ尋問ノ末延取引ヲ禁止セリ其後享保七年私カニ延取引ヲ爲シテ處刑セラレタルモノアリカクテ爲替御用會所停止シタル後米會所ノ設立許可ヲ得タルモノアリシカハ堂島ノ米商河内屋儀兵衛等仲買人六百餘名ノ總代トシテ江戸ニ赴キ大ニ訴フル所アリ十五年三月ノ頃ヨリ加州侯亦隱ニ周旋スル所アリ閣老以下大岡越前守等ノ審

查ニ遇ヒ帳合米賣買ノ許可ヲ得タリ、又享保十六年以來大阪米仲買ニ烙印印付ノ株札ヲ渡シ加島屋等ヲ米年寄ニ命セリ

當時堂島市場ハ東中西ノ三方ニ分レ東ハ正米中央ハ帳合西方ハ虎市ニシテ時人之ヲ鱗相場ト稱ヘタリ(虎市トハ享保年間堂島永來町鹽屋庄次郎屋敷地ノ川口屋源兵衛ト稱スルモノ堂島蜷川通りノ竹叢中ニテ二十石建ノ取引ヲ爲セシニ始メルトシ)而シテ帳合ト虎市トハ毎日朝五ツ時ヨリ絶エス取引スレトモ正米ハ晝九ツ時ニテ終ルモノトシ帳合虎市ノ引方九ツ時ヲ火繩ト云ヒキ是レ火繩ノ火ノ消ユルヲ以テ空相場ノ勝負ヲ決セシカ故ナリ此他ニ尙、コノ市ト稱シテ仲買人カ遣來兩替屋ニ敷銀ヲ添ヘ預ケ米ヲ爲サスシテ密ニ相對取引ヲナシ又シラミト稱シテ仲買人ノ使役セル小者カ小額ノ金ヲ以テ堂島ノ相場ヲ標準トシテ其勝負ヲ爲シタルモノナリ當時ノ盛況想フヘシ

元文二年以來正米正銀取渡ノ方始マリ毎年三期ニ分チ正月ヨリノ建物ハ四月ニ卒リ五月ヨリノ建物ハ十月中旬ニ卒リ十月ヨリノ建物ハ十二月ニ卒リ建米ハ四月十七日ト十月十七日トノ兩度ニ米方年行司及仲買人投票ヲ以テ之ヲ定メタリ寛保元年仲買株札及烙印等ヲ改正シタリ

明和五年三月二十三日堂島仲買人ノ居宅竝立會場類燒シ一時休會セシモ奉行ハ年行司ヲ召シテ米相場ハ個人ノ相場ニアラス天下ノ相場ナルヲ諭シテ遂ニ二十七日ヨリ立會ヲ開始ス、當時町奉行屢々市場行政ヲ誤リ買占賣崩ノ爲メ恐惶ヲ惹起セシコト一再ナラス天保十三年

八月幕府令シテ株制及仲間組合ノ停止ヲ命シタリト雖モ堂島市場ハ諸國米價ノ基本トシテ之カ取引ヲ繼續セシメ米價ノ均衡ヲ保タシメタリ經濟界ニ於ケル堂島ノ勢力ノ大ナリシヲ以テ知ルヘシサレト嘉永六年ニ至リ張合米ノ作法漸ク紊亂シテ數日間立會ヲ休止スルノ已ムヲ得サルニ至リ文久年間ニ於テハ其弊害一層甚シク石建立會絶止スルニ至リシカハ仲買人等之ヲ憂ヒ方法ヲ規定シテ石建立會ヲ出願シ許可セラレタリサレト幕末戰塵ノ世ト爲リテ堂島市場亦記スルニ足ルモノナク明治二年二月正米賣買外ノ取引ヲ禁止セラレ米商等ノ困難一方ナラサリケレハ武富磯吉磯野小右衛門等米商會所再興ヲ計畫シ營業規則ヲ制定シテ大藏省ニ出願シ四年允許ヲ得同年四月一日ヲ以テ會所ヲ堂島ノ舊市場ニ設立シ定期米賣買ノ方法及規定ヲ制定シ難波倉米搦津米ヲ標準トシテ立會ヲ開始セリ明治六年油會所ヲ合併シテ米油會所ト稱ヘヌ明治七年十二月太政官布告ヲ以テ從來各地方ニ許可セラレ米油限月賣買ヲ廢シ自今米穀賣買相場取引ヲ爲サントスルモノハ七年十月ノ株式取引條例ニヨリテ其規則ヲ會社組織ニ改メ所轄官廳ヲ經テ大藏省ニ稟請シ是レカ許可ヲ受クヘク命シタレトモ其筋ニ請願シテ九年九月迄從前ノ組織ニテ繼續ノ許可ヲ得タリ明治九年八月一日太政官第五號ヲ以テ米商會所條例ノ布告アリ堂島市場繼續期間ノ滿期ニ際シテ鴻池善右衛門三井元之助磯野小右衛門等發起シテ新條例ニヨリ米商會所創立ヲ出願シテ許可セラレ九年十一月二日始メテ新條例ニ基キ株式組織ヲ以テ市場ヲ開始セリ明治十五年一月同年八月三十一日迄ノ營業繼續ヲ許可セラレ同年六月明治二十年八月三十一日ニ至ル五ヶ年間ノ

允可ヲ得タリ後取引所條例ノ發布アリテ株式組織タル米商會所ハ會員組織ニ變スヘクナレリサレト尙再三營業ノ繼續ヲ請願シテ許サレ二十六年ニ至リテ米商會所條例ハ廢止セラレテ更ニ取引所法公布セラレ尋テ取引所ノ資本金營業保證金等ニ關スル勅令及取引所法施行規則ヲ公布セラレタリ是ニ於テ此取引所法ニヨリテ新設取引所ニ繼續ノ出願ヲ爲シ其組織ヲ株式會社トシ名稱ヲ大阪堂島米穀取引所ト改メ明治二十六年十月ヨリ同三十六年九月三日迄ノ營業許可ヲ與ヘラレ今日ニ至レリ

同所創立以來資本金積立金仲買人員仲買人身元金及配當歩合左ノ如シ

年次	資本金	積立金	仲買人員	仲買人身元金	配當歩合
明治九年	七五、〇〇〇		六六	一一、一〇〇	
全十一年	七五、〇〇〇	三三三三	一五一	二九、九〇〇	四三四
全十一年	七五、〇〇〇	一、四六九、五六七	二二〇	三五、六〇〇	三、〇〇二
全十二年	七五、〇〇〇	六、六七五、〇〇〇	一九八	四四、六〇〇	六、一〇二
全十三年	七五、〇〇〇	八、五五〇、〇〇〇	四七	五六、四〇〇	二、〇五〇
全十四年	七五、〇〇〇	九、七〇〇、〇〇〇	五七	六八、四〇〇	一、八九〇
全十五年	七五、〇〇〇	一一、三〇〇、〇〇〇	六〇	七三、二〇〇	二、八三〇
全十六年	七五、〇〇〇	一二、八〇〇、〇〇〇	四九	六一、二〇〇	九〇〇
全十七年	七五、〇〇〇	一三、三〇〇、〇〇〇	五五	六八、四〇〇	九四〇
全十八年	七五、〇〇〇	一三、三〇〇、〇〇〇	六四	七五、六〇〇	九〇〇
全十九年	七五、〇〇〇	一三、三〇〇、〇〇〇	四三	六三、三〇〇	一、八九〇

年次	開市日數	賣買高	受渡高		
全二十年	七五、〇〇〇	一五、七〇〇、〇〇〇	三三	四九、五〇〇	一、一二五
全二十一年	七五、〇〇〇	一五、七〇〇、〇〇〇	三一	四六、五〇〇	八〇〇
全二十二年	七五、〇〇〇	一八、七〇〇、〇〇〇	三九	五八、五〇〇	一、九五〇
全二十三年	七五、〇〇〇	三三、七〇〇、〇〇〇	五四	八一、〇〇〇	三、三〇〇
全二十四年	七五、〇〇〇	四三、二五〇、〇〇〇	七四	一四八、〇〇〇	三、一五〇
全二十五年	七五、〇〇〇	五六、六五〇、〇〇〇	七五	一五〇、〇〇〇	三、六〇〇
全二十六年	一五〇、〇〇〇	一、八〇〇、〇〇〇	一一	二一六、〇〇〇	四、〇三五
全二十七年	一五〇、〇〇〇	四、八〇〇、〇〇〇	八六	一七二、〇〇〇	二、二〇〇
全二十八年	一五〇、〇〇〇	七、九〇〇、〇〇〇	一〇〇	一九八、〇〇〇	三、二〇〇
全二十九年	二五〇、〇〇〇	一一、五一六、〇〇〇	一一二	二二〇、〇〇〇	二、五〇〇
全三十年	二五〇、〇〇〇	一四、六六六、〇〇〇	七二	三六〇、〇〇〇	二、〇〇〇
全三十一	二五〇、〇〇〇	一七、一一六、〇〇〇	五五	二七五、〇〇〇	一、一〇〇
全三十二	二五〇、〇〇〇	一八、四〇〇、〇〇〇	四八	三四八、〇〇〇	一、八〇〇
全三十三	二五〇、〇〇〇	二〇、四〇〇、〇〇〇	四四	三一五、〇〇〇	一、二五〇
全三十四	二五〇、〇〇〇	二二、六五〇、〇〇〇	三四	二三八、〇〇〇	一、五五〇

明治九年以降開市日數賣買米高及受渡米高累年比較左ノ如シ

年次	開市日數	賣買高	受渡高
明治九年	四三	三二九、五四〇	八〇、五二〇
全十年	二七七	二五、九〇九、二七〇	七一、二八〇
全十一年	二八一	三一、三六八、一二〇	

鐵道會社株券	社債	四〇
水運會社株券	蒸汽五拾圓	二、〇〇四、二九六 ^分
	電氣五拾圓	二〇 ^分
紡績會社株券	五拾圓	一一一、三〇〇 ^分
	五拾圓	一〇一、二九二 ^分
其他諸會社株券	五拾圓	四
株式會社	大阪三品取引所	七七、〇二一

大阪三品取引所ハ同所沿革賣買高表、高低相場表、賣買摘要書、綿絲検査標準ヲ出品シ以テ其成績ヲ示セリ

明治二十六年三月取引所法ノ公布セラル、ヤ市ノ棉花綿糸木綿業者中ノ有志相謀リ前記三商品ノ取引所設立許可ヲ大阪府廳ニ申請セシニ時未タ同法施行細則發布以前ナリシヲ以テ却下セラレタリ後二十六年十月二十三日内外國産綿糸棉花木綿ノ三品賣買取引ノ目的ヲ以テ設立ノ認可ヲ申請シ同年十一月九日認可ヲ得明治二十七年二月二十一日營業ヲ開始セリ時ニ仲買人ノ營業免許ヲ得タルモノ五十二名ナリキ

創立以來營業成績及仲買人數累年比較左ノ如シ

年次	營業日數	仲買人員	資本金	資拂本込額	配當金	配當割合	積立金
明治二十七年上	一〇四 ^日	四五人	一五〇、〇〇〇 ^円	七五、〇〇〇 ^円	—	—	七五〇〇
全 二八年上	一四三	二七	一五〇、〇〇〇	七五、〇〇〇	—	—	—
全 二八年下	一四一	二二	七五、〇〇〇	七五、〇〇〇	三、〇〇〇 ^円	〇、八〇 ^割	一七七、五〇〇
全 二九年上	一四三	二〇	七五、〇〇〇	七五、〇〇〇	四、五〇〇	一、二〇	五八〇、〇〇〇
全 二九年下	一四〇	二二	三〇〇、〇〇〇	七五、〇〇〇	七、五〇〇	二、〇〇	一〇三、五〇〇
全 三十年上	一四三	二二	三〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	七、五〇〇	一、〇〇	一〇〇、〇〇〇
全 三十年下	一四一	一八	三〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	七、五〇〇	一、〇〇	一〇〇、〇〇〇
全 三一年上	一四三	一八	三〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	九、〇〇〇	一、二〇	一〇〇、〇〇〇
全 三一年下	一四五	一八	三〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	九、〇〇〇	一、二〇	一〇〇、〇〇〇
全 三二年上	一四二	二二	三〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	九、〇〇〇	一、二〇	一〇〇、〇〇〇
全 三二年下	一四三	二二	三〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	九、〇〇〇	一、二〇	一〇〇、〇〇〇
全 三三年上	一四二	二四	三〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	九、〇〇〇	一、二〇	一〇〇、〇〇〇
全 三三年下	一四二	一九	三〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	九、〇〇〇	一、二〇	一〇〇、〇〇〇
全 三四年上	一四一	三三	三〇〇、〇〇〇	二九九、二五〇	五、四〇〇	一、二〇	一〇〇、〇〇〇
全 三四年下	一四四	二六	三〇〇、〇〇〇	二九、八〇〇	三、七、八〇〇	四、二二	三〇〇、〇〇〇
全 三五年上	一四一	三一	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	五、四〇〇	三、三六	三〇〇、〇〇〇
全 三五年下	一四四	二八	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	一、八〇〇	一、二〇	一〇〇、〇〇〇
全 三五年下	一四四	二二	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	一、六、五〇〇	一、一一	四〇〇、〇〇〇

尙營業收支累年比較左ノ如シ

年次	收 入		支 出		損 益
	上	下	上	下	
明治二十七年	一四、〇八三・九八七	一三、九三六・九三三	益	一四七・〇五四	
全	一二、八三五・八一五	一三、一八九・七七三	損	三五三・九五八	
全	一一、〇〇八・六一九	七、二五七・六七七	益	三、七五〇・九四二	
全	一六、三八一・七五一	一〇、五七八・八三五	全	五、八〇二・九一六	
全	二七、〇三〇・一八三	一七、〇九七・一七五	全	九、九三三・〇〇八	
全	二三、一〇七・六八一	一三、五四四・四五三	全	九、五六三・二二八	
全	二四、一六五・〇〇四	一五、〇八七・〇一〇	全	九、〇七七・九九四	
全	三四、一四六・〇一二	二二、五二八・六四八	全	一一、六一七・三六七	
全	二九、六一七・二五一	一九、一〇三・四九〇	全	一〇、五一三・七六一	
全	二八、三〇六・六二七	一六、五五一・四〇二	全	一一、七五五・二二五	
全	二九、三九七・四八九	一七、〇〇七・九一七	全	一一、三八九・五七二	
全	五二、〇七二・〇五〇	二九、八九九・〇七〇	全	二二、一七二・九八〇	
全	一六三、四二六・二七六	九〇、四六六・四二五	全	七二、九五九・八五〇	
全	一一四、七二三・五三〇	六五、六七三・九一四	全	四九、〇四九・六一六	
全	一二九、五一五・七六〇	七〇、二九八・六三八	全	五九、二一七・一二二	
全	八〇、五七〇・二八〇	五五、二四七・一六九	全	二五、三三三・一一一	
全	五三、七二七・七七〇	三三、四三一・〇一六	全	二一、二九六・七五四	
全	五七、七九一・〇一〇	三四、八〇〇・五八七	全	二二、九九〇・四二三	

創立以來買買高累年比較左ノ如シ

年次	綿		絲		棉 花		白 木 綿	
	上	下	上	下	上	下	上	下
明治二十七年	七二、九七〇	七四、三二五	三、九〇〇、二六五	六、〇六三、〇〇〇				
全	五八、四二五	八八、五三一	二六九、二五〇	一〇、六一一、〇〇〇				
全	八八、五三一	一九六、三三三	三〇七、〇〇〇	六、三二五、〇〇〇				
全	一九六、三三三	一四〇、八三〇	二八八、〇〇〇	一一、一一八、〇〇〇				
全	一四〇、八三〇	一五八、〇五八	二六、〇〇〇	一〇、六三二、〇〇〇				
全	二七四、二七〇	二四〇、八四五	九、〇一一、〇〇〇	六、八八八、〇〇〇				
全	二四〇、八四五	二四九、六六五	二、〇九四、〇〇〇	一一、九五〇、〇〇〇				
全	二四九、六六五	二二六、六三〇	四、〇〇〇	一、二一六、八〇〇				
全	二二六、六三〇	四二三、五一五	九七〇、〇〇〇	三六二、四〇〇				
全	四二三、五一五	一、二八九、一六〇	一一、〇〇〇	三、六〇〇				
全	一、二八九、一六〇	九一九、九八五	一八、〇〇〇	一七八、八〇〇				
全	九一九、九八五	八八一、四七〇	八、〇〇〇	五、四〇〇				
全	八八一、四七〇	四八七、三一〇	二二、一五八、四〇〇	九、六〇〇				
全	四八七、三一〇	二七九、八四〇	一四、九二四、〇〇〇	七、二〇〇				
全	二七九、八四〇	三六四、七三〇	一八、三八六、五〇〇	四、八〇〇				
全	三六四、七三〇		四、四五四、〇〇〇	九、九一、二〇〇				
全				八、四〇〇				

斯ノ如ク當取引所ハ創業日尙淺ク營業ノ基礎定マラサルトキニ際シ明治二十七八年戰役後

ノ經濟界擾亂ニ遭遇セシモ當業者ハ苦辛慘愴途ニヨク今日ニ至リ綿絲棉花木綿ノ賣買ニ於テ優ニ東西ノ經濟界ニ重キヲ爲シ且ツ當取引所ハ綿絲受渡検査法ヲ改正シテ機械的検査ト爲シタル以來検査提供品中所定ノ標準ニ合格セサルモノニ對シテハ製造者ニ注意シ之カ改良ヲ爲サシムルノ方針ヲ執ルコト、シ検査濟ノ綿糸ハ三品雜牌ナル名稱ノ下ニ海外市場ニ輸出シテ信用ヲ博シ内地紡績業者及外國貿易ノ爲メニ資スル所尠カラス今左ニ綿糸検査標準ヲ掲ク

左ノ條項ニ該當スルモノヲ以テ十六手二十手標準糸トス

第一項 一玉ノ量目一貫二百四十匁以上トス

第二項 一錠ノ糸數ハ平均凡八十筋ヲ以テ相當トス

但シ甚シキ不同アルモノハ不合格トス

第三項 總一周ノ長サハ五十四吋トス

第四項 整調ハ之ヲ上中下ノ三等ニ區別シ中等以上ヲ以テ合格トス

第五項 滓及光澤ハ百點ヲ以テ最高點ト爲シ八十點以上ヲ以テ相當品トス

第六項 水氣ハ天然水氣ノ外四十匁以上タルヘカラス

但シ天然水氣ハ五パーセントト見做ス

第七項 撚度多ケレハ強力モ強ク撚度少ケレハ強力弱キコト一般ノ定則ナリ故ニ撚度ト強

力トハ相對照シテ査定スルモノナレトモ撚度ハ一時ニ付キ凡ソ十六手ハ十三以上十六

以下二十手ハ十七以上二十以下トシ強力ハ五十磅以上ヲ以テ合格トス

但シ撚度強力等ノ試験ハ水氣含有ノ絛ヲ充分ニ乾燥シタル上空氣中ニ二十四時間放置

シタル後試験スルモノトス

第八項 牽伸力ハ一時十分ノ一以上トス

第九項 計算上ノ番手ニ甚シキ相違アルモノハ不合格トス

第十項 中括ハ總テ共糸トス

第十一項 前各項ノ外右撚十六手ニ限り商票信用ヲ參酌スヘシ其參酌ノ方法ハ役員會ニ於

テ之ヲ定ム

愛知縣 枇杷島蔬菜市場

枇杷島青物問屋組合ハ枇杷島蔬菜市場ノ組織及成績ヲ出品シ枇杷島ノ名稱德川家康及舊尾張藩トノ關係市場ノ變遷及問屋組合市場ノ現況輸出品ノ種類價格等ヲ示セリ同市場ハ優ニ三百餘年ノ歴史ヲ有シ三尾ノ蔬菜ヲ吞吐シテ取引ヲ敏活ナラシメ同地方ニ於ケル蔬菜ノ産額ヲ多カラシメ又其組織頗ル整頓シ經濟上功績洵ニ大ナリ

東京府 東京廻米問屋市場

本市場ノ出品ハ東京集散米統計及米價表ニシテ之ヲ左ノ三種トス

一 深川出入米在米市場賣買高統計

二 深川廻米產地別表

三十五年間正米之價格表

抑モ東京ニ於ケル廻米問屋ノ業ハ舊幕府及諸侯ノ廻米止ミテ後其業漸ク擴大トナリシモ各營業者ハ市内ノ所々ニ散在シ個々單獨ニ營業ヲ爲シ十六年ニ至リ組合ヲ設ケ東京日本橋兜町ニ賣方ナルモノアリテ各問屋ハ此賣方ニ托シ販賣セシメタル所追々其業ノ盛ナルニ隨ヒ團體一致ノ利益ト保管倉庫地ニ隔離スルノ不便ヲ感シ乃チ十九年ニ至リ倉庫所在地ナル深川ニ地ヲトシ組合共同ノ販賣市場ヲ設立セルモノ今日ノ東京廻米問屋市場是レナリ
東京全市ノ需要米ハ前表ニ掲ケタルモノ、外尙ホ他ノモノアリ是レハ主トシテ關東地廻リ米ト稱シ近地方ノ產出カ種々ノ供給法ニ依リ絶エス市中ニ入込ムモノニテ其數常ニ明知セラレス、營業者ノ概算ハ大要全供給米中深川ヲ六七割トシ他ヲ三四割ナルヘシト云フ然レトモ其廻送法ノ區々ニシテ其數ノ知り難キヨリ東京ノ廻米及在米トシテ常ニ一般ノ注意シ參考トスル所ノモノハ前表ニ掲ケタル深川集散米ノ事狀如何ナリ

氣象觀測

氣象觀測ニ關スル出品人ハ十八ニシテ公立測候所一四個人四ナリ

一、公立測候所ノ出品

從來ノ内國勸業博覽會ニ於ケル測候所ノ出品ハ概テ其地ノ氣候ノ模様ヲ圖示シ又ハ其附近ノ山上ノ觀測ヲ比較スルニ止リタルモ今回ノ出品ハ大ニ其趣ヲ異ニシ或ハ氣候ト農事害虫等トノ關係ヲ研究シタル成績ヲ掲ケ又ハ全縣下氣候ノ梗概ヲ顯シ或ハ熊本測候所香川縣多

度津測候所等ノ九州四國等全島ヲ一括シタル模様ヲ示シ大ニ世ノ參考ト爲ルヘキ材料ヲ供給シタリ加之大阪名古屋神戸等ノ測候所ニ於テハ能ク全斑ノ調査ヲ爲シタル報告書ヲ製シ又測候所設立以前ニ於ケル氣象觀測ヲモ調査シ有益ナル結果ヲ得又銚子測候所ノ氣象表ノ如キハ其體裁ニ大ニ工夫スル所アリ觀者ヲシテ倦厭ノ心ヲ生セシメサルニ注意シタル等從來ニ比シテ頗ル進歩ノ點アルヲ認メタリ但出品諸圖ノ簡潔ヲ主トシタル爲メカ説明不充分ニシテ其判斷ヲ觀者ニ任シタルカ如キ觀アルハ聊カ不満足ニ感セラレタリ

二、個人ノ出品

個人ニシテ氣象觀測ヲナシ其成績ヲ出品シタル者ノ多キコト今回ノ如キ未タ曾テアラサル所ニシテ千葉縣ノ鶴岡造酒右衛門三重縣ノ伊藤繼次郎ノ如キ必要ナル器械ヲ備ヘテ觀測シタルニアラスト雖モ其功勞賞スヘク殊ニ後者ノ如キ二十年間日々晴雨等氣象ニ注意シテ記錄ヲ作り氣候調査ノ好材料ヲ供シタルノ篤志賞スヘク又愛知縣ノ佐々木友八郎ノ如キ山林所有者ニシテ獨力ヲ以テ適當ノ器械ヲ備ヘ十八年間ノ永キニ亘リ日々正確ノ氣象觀測ヲ爲シ斯學ニ貢獻スル所尠カラス其他大阪府ノ住友吉左衛門亦獨力ヲ以テ地方測候所ト同一ノ觀測ヲ爲シ別子銅山上下ノ氣象ヲ比較シテ其相違スル所ヲ明ニシ創業以來未タ數年ニ過キスト雖モ其功勞洵ニ謝スヘシ是レ蓋シ氣象講究ノ必要カ漸ク世ニ知ラレタルノ結果ニシテ洵ニ賀スヘキ現象ナリ

其三 運輸交通貨物包裝等ノ方法及成績
一、海運業

海運業ノ成績ニ關スル出品ハ今回ヲ以テ嚆矢トス而シテ其出品數比較的多ク大ニ帝國海運事業ノ發達ヲ示スニ足リ今回ノ博覽會ニ於テ特筆スヘキモノ、一ニ屬ス今出品者ヲ擧クレハ左ノ如シ

- 東京 日本郵船株式會社
- 大坂 大坂商船株式會社
- 大坂 大家七平
- 神奈川 東洋汽船株式會社
- 大坂 廣海二三郎
- 一、日本郵船株式會社
- (い) 資本金

明治十八年十月三菱會社共同運輸會社ノ兩會社ヲ合併シテ日本郵船會社ヲ創立ス當時ノ資本金一千一百萬圓ニシテ明治二十三年九月二十五萬圓ヲ減シテ一千七十五萬圓トナシ二十五年更ニ百九十五萬圓ヲ減シテ八百八十萬圓トナシ翌二十六年新ニ施行セラレタル商法ニ準據シ純然タル株式組織ノ民設會社トナシ二十九年六月二千二百萬圓ニ増資シ其新株一千三百二十萬圓ハ三十一年七月全額拂込濟トナリ現ニ拂込資本二千二百萬圓ナリ

(ろ) 航路及航海運數

同社創立以來數年間ハ其航路ハ内地沿岸及東洋近海諸港ニ止マリシカ二十六年十一月孟買航路ヲ開始シ二十九年三月歐洲航路ヲ開始シ同年八月米國航路ヲ同年十月濠洲航路ヲ開始セリ諸航路中其最モ長キヲ歐洲線ノ一萬一千九百七海里トシ世界ノ海運業者間ニ於テ巋然一頭角ヲ露セリ

明治三十六年三月三十一日現在同社航路ノ數左ノ如シ

命令航路 私設航路 合計	國內		國外		合計
	遠信省 其他	其他	遠信省 其他	其他	
	四	五	一	八	一八
	三	二	三	一	七
	五	七	四	九	一六
	二	一	二	三	六

航海運數累年比較左ノ如シ

十八年十月一日ヨリ十九年九月三十日マテ	一、四〇八、七三三
十九年十月一日ヨリ二十年九月三十日マテ	一、四二二、三九九
二十年十月一日ヨリ二十一年九月三十日マテ	一、四五九、二三五
二十一年十月一日ヨリ二十二年九月三十日マテ	一、五六三、二四五
二十二年十月一日ヨリ二十三年九月三十日マテ	一、五三〇、一六九
二十三年十月一日ヨリ二十四年九月三十日マテ	一、四五〇、八七〇
二十四年十月一日ヨリ二十五年九月三十日マテ	一、四九八、一〇八

小汽船	三三八	一〇九一・九四	五七六・三三	四六四・六二
倉庫	一	一四四・〇〇	一三五・三六	
解船	二二二			

現今ニ於ケル所有船舶ヲ創業當時ニ比スルニ總噸數合計ニ於テ三倍シ一艘平的一千噸弱ヨリ三千百七十五噸ヲ増加シタリ

(に) 營業收支

同社營業總收支金額累年比較ヲ舉クレハ左ノ如シ但シ年度ハ其年十月ヨリ翌年九月ニ至ル

年次	收 入	支 出
明治十八年	四、五四六、六五五	三、六六六、六五五
明治十九年	五、一六〇、一七二	四、二八〇、一七二
明治二十年	五、六一七、九一二	四、一三六、八四〇
明治二十一年	五、九〇四、八三二	四、五一五、五八三
明治二十二年	五、九三七、〇〇三	四、六八五、六九五
明治二十三年	五、三四六、二三五	四、二九四、〇〇三
明治二十四年	四、九七五、八七七	四、一〇四、六五九
明治二十五年	五、一四五、八六二	四、二一八、二一四
明治二十六年	六、五一四、二〇七	四、九二五、五〇〇

年次	營業收入	營業支出
明治十七年	一、五四九四、八二九	一〇、七二三、八八三
明治十八年	一、二四三、六〇四	九、五八一、八一
明治十九年	一〇、六〇〇、八七四	一〇、七二七、九七九
明治二十年	一四、八四六、三三六	一二、五四五、八二九
明治二十一年	一六、六七五、五八四	一三、九五八、一一〇
明治二十二年	二一、一一六、一八二	一六、三六〇、七五九
明治二十三年	二二、二八一、四一六	一七、八三七、二五四
明治二十四年	二二、六一九、四一五	一八、〇四四、九三九
明治二十五年	一一、五三七、六一五	九、三〇四、四九五

(一) 營業收入

明治十八年度ヨリ三十四年度ニ至ル同社運送荷物ノ數量及賃金ハ左ノ如シ

年次	運送賃	荷物噸數
明治十八年	二、七〇三、〇七五	八六七、五三二
明治十九年	三、一三八、四五三	一、〇四四、五七九
明治二十年	三、二八五、四七九	一、二一二、六五〇
明治二十一年	三、四八四、四五一	一、二七九、五九八
明治二十二年	三、七四九、二六八	一、三五六、九三八
明治二十三年	三、五六一、九五二	一、二九〇、一八〇

年次	運送賃	船客人員
全	三、一九七、四三六	一、三三九、六九八
全	三、三六二、四七一	一、三五二、八五八
全	三、六九三、四七二	一、三九二、四八〇
全	五、四〇五、四二八	一、四五九、九六八
全	五、五〇一、〇〇七	一、七〇四、一〇五
全	七、三三八、七〇七	一、九〇二、八七九
全	九、八二〇、一九六	一、八七八、八〇二
全	一〇、八六七、七五二	一、八三〇、八七二
全	一三、五〇九、一六〇	二、一三〇、〇五四
全	一四、八七二、九六四	二、〇九四、二八四
全	一四、五九〇、二七七	二、一七五、七三一

又同社船客人員及運送賃左ノ如シ

年次	運送賃	船客人員
明治	七、八七、四三一	二、三三、八五六
全	八、八六〇、八四	二、六二、七〇二
全	一〇、二四、四六八	二、九一、八七四
全	一〇、〇八六、四四	二、四二、三〇二
全	七、五五、二四六	二、二〇、四九〇
全	六、二五、九二六	一、七三、六六九
全	六、六四、八六一	一、九一、六〇九

年次	運送賃	船客人員
全	六、二六、八三八	一、二〇、八、一二八
全	六、八〇、八六五	二、四〇、二三四
全	四、五四、八〇〇	一、七六、七九九
全	七、三七、六七五	二、四二、二〇六
全	一、二二、九九九	三、一七、〇九三
全	一、三九〇、二四五	二、九八、一一六
全	一、六八三、七五二	二、五二、九七三
全	二、四六、四六〇	二、九七、二二四
全	二、四一九、三四七	三、〇八、〇五〇
全	二、八〇、九二一〇	三、三五、一一六

右ノ表ニ依テ之ヲ觀ルニ荷物運賃ニ於テハ明治十八年度ニ於テ二百七十萬三千七百七十五圓ニシテ二十二年ニ至ル迄ハ漸次増加セシモ二十三年度ニ於テハ十八萬七千三百十六圓ヲ減シ以後兩三年其傾向ヲ繼續シタリト雖モ明治二十七年戰役ノ影響ニヨリ明治二十七年ニ於テハ俄然増進シテ五百四十萬五千四百二十八圓ニ昇リ創業年度ニ倍加セリ爾後急激ナル進步ヲ示シ巴里萬國博覽會等ノ影響ニヨリ三十二年度ニ於テ一千三百五十萬九千圓ヲ收入シ更ニ翌年百三十餘萬圓ノ増加ヲ見三十四年度ニハ一千四百五十九萬圓ニシテ之レヲ創立ノ年度ニ比シ實ニ五倍強ニ當ル誠ニ長足ノ進歩ト謂フヘシ

更ニ船客運賃ニ於テハ十八年度ノ收入七十八萬七千四百三十一圓ニシテ二十一年度ニ至ル迄漸次増加セシモ二十二年度ニ於テ俄ニ二十五萬圓餘ノ減少ヲ見尙減少ノ傾向ハ止マラス

テ二十七年年度ニ至レリ之レ實ニ鐵道延長ノ影響ニシテ其收入ハ四十五萬四千八百圓ニ降レリ之レ戰役ノ爲メ客室ノ設備不充ナル履船ヲナシタルノ結果ニシテ爾來漸次恢復シ二十九年度ニ於テ百萬圓臺ニ上リ爾後長足ノ進歩ヲナシ明治三十四年度ニ於テハ二百八十萬九千二百十圓ニシテ之レヲ創業年度ニ比スルニ三倍半強ニ當レリ

(2) 政府補助金

一 航海補助金

航海補助金ヲ受ケタルハ創立以來二十一年九月迄ハ神戸天津線及小笠原島線ノ二線ニシテ二十一年十月ニ至リ小樽宗谷線二十三年十月ニ至リ神戸琉球線ヲ加ヘ而シテ第七期以後神戸天津線及小樽宗谷線ノ補助止ミ第十一期迄ハ小笠原島線神戸琉球線明治三十一年三月廢線ノ二線ニ止マレリ第十二期ニ至リ新ニ孟買濠洲及臺灣ノ三線ニ對シ補助ヲ得又第十四期後半年度ニ入り木浦鎮南浦及對島寄港ニ對スル補助ヲ加ヘ(明治三十三年九月限り廢線)次テ第十五期ニ至リ更ニ歐洲航路特定助成金(明治三十三年一月以降十ヶ年間)ヲ受ケルコト、ナリ著シク増加セリ又第十六期以降即チ明治三十三年十月ヨリ五ヶ年間本土北海道沿岸及東洋近海航路ニ對シ毎年六十七萬七千三百三十一圓以内ノ航路補助金ヲ得ルコト、ナレリ

二 航海獎勵金

航海獎勵金ハ明治二十九年十月一日實施ノ法律ニヨリ歐洲航路(第十二期後半年度ヨリ)米國航路(第十三期後半年度ヨリ)孟買臨時船(第十三期後半年度)香港浦鹽斯德線(第十四期後半年

度ヨリ)ノ船舶中造船規定ニ適合シタルモノ獎勵金ヲ收入セリ但シ歐洲航路ハ前記ノ如ク特定助成金ヲ受ケルニ及ンテ獎勵金ノ支給止ム

三 政府補助金

政府補助金ハ第一期以降内地沿岸及東洋近海航路ニ對シ毎年八十八萬圓ヲ受ケ第十五期末即チ明治三十三年九月三十日ヲ以テ滿期トナレリ
左ニ同社獎勵認許船舶及獎勵金給與額累年表ヲ掲ク

二十九年年度(十月ヨリ)	三十一年年度	三十二年年度	三十三年年度	三十四年年度	三十五年年度
一	一	一	一	一	一
三、九六七	五七、六五〇	九一、七七五	九五、八三二	二二、八八三	四三、七七二
六三九、一六九	二二、八一、一三	二八、七八三〇七	九四、二六〇二	七〇、三八〇六	三八、八、二二
一	一	一	一	一	一
五	〇	五	一	〇	五

又同社特別助成航路ヲ示セハ左ノ如シ

線	路	補助金年額	命令期間
橫濱「メルボルン」線		五二五六五八	三十四年四月ニ始リ三十九年三月ニ終ル



日本郵船株式會社出品

儀球地圖路航社會式株船郵本日



日本郵船株式會社出品

室話談丸光日

一大坂商船株式會社

(イ) 資本金

拂込資本金額ハ五百五十萬圓ニシテ明治十七年五月ノ創立ニカ、ル同社ノ創立カ從來關西地方ニ於ケル七十餘名ノ船主間ニ蟠リシ競争ノ惡弊ヲ救フニ多大ノ効果アリタリ而シテ創立以後銳意船舶ノ改良ヲ行ヒ臺灣航路ノ經營ニ南清航路ノ擴張ニ勇往直進トグラス會社等ノ競争ニ打勝チテ帝國海運ノ版圖ヲシテ大ニ廣カラシメ又二十七八年ノ戰役ニ卅三年ノ清國事變ニヨリ軍國ニ奉公セシハ其効洵ニ渺シトセス

(ロ) 航路

商船會社ノ航路ハ其創業當時ニアリテハ單ニ關西地方ノ内海ノミナリシカ明治廿四年始メテ大坂釜山線ヲ開キ二十五年大坂仁川線ヲ開キ更ニ二十九年ニ於テ臺灣航路ヲ開キ三十一年清國揚子江航路ヲ開キ三十二年南清航路ヲ開キ以テ日清韓交通ノ爲メニ盡セリ
同社ノ航路ハ之レヲ命令航路及自由航路ニ分ツ

命令航路 自由航路	内 國		外 國		合 計
	一三	一三	一三	一三	
合 計	二六	二六	一五	一五	四一
	一三	一三	一六	一六	二五

航路運數累年比較左ノ如シ

年	命令航路運數	自由航路運數	合計
創業時		四、九八六	四、九八六
明治七年		四、七四四	四、七四四
八年		六、〇四三	六、〇四三
九年		六、二五六	六、二五六
十年		七、五二九	七、五二九
十一年		三、五〇一	三、五〇一
十二年		三、五〇一	三、五〇一
十三年		一、九二〇	一、九二〇
十四年		一、九二〇	一、九二〇
十五年		一、六九九	一、六九九
十六年		四、四六八	四、四六八
十七年		七、八三	七、八三
十八年		七、八三	七、八三
十九年		六、二八	六、二八
二十年		一、八八〇	一、八八〇
二十一年		二、一一六	二、一一六
二十二年		四、三一九	四、三一九
二十三年		六、七五三	六、七五三
二十四年			
二十五年			
二十六年			
二十七年			
二十八年			
二十九年			
三十年			
三十一年			
三十二年			
三十三年			
三十四年			
三十五年			
三十六年			
三十七年			
三十八年			
三十九年			
四十年			
四十一年			
四十二年			
四十三年			
四十四年			
四十五年			
四十六年			
四十七年			
四十八年			
四十九年			
五十年			
五十一年			
五十二年			
五十三年			
五十四年			
五十五年			
五十六年			
五十七年			
五十八年			
五十九年			
六十年			
六十一年			
六十二年			
六十三年			
六十四年			
六十五年			
六十六年			
六十七年			
六十八年			
六十九年			
七十年			
七十一年			
七十二年			
七十三年			
七十四年			
七十五年			
七十六年			
七十七年			
七十八年			
七十九年			
八十年			
八十一年			
八十二年			
八十三年			
八十四年			
八十五年			
八十六年			
八十七年			
八十八年			
八十九年			
九十年			
九十一年			
九十二年			
九十三年			
九十四年			
九十五年			
九十六年			
九十七年			
九十八年			
九十九年			
第一百年			

年	命令航路運數	自由航路運數	合計
全卅五年	一一、五九五	六、七三三	一八、三二八
全卅四年	一一、〇二四	八、七〇三	一九、七二七

即明治三十五年航路運數ハ創業當時ノ四倍弱ニ當レリ

(ハ) 船舶

明治三十五年十二月三十一日現在ノ同社所有船舶左ノ如シ

汽 庫 倉	蒸 庫	汽 船	隻 數	噸 數		公 稱 馬 力
				總 噸 數	登 簿 噸 數	
汽 船	七 七	六三、四九三	三九、〇四三	五九	六、四三六	
小 汽 船	二 一	五八、五四六	三〇、九六五	四五	二、九八	
倉 庫 船	四	四六、三三二	三三、七七二	一八		

左ニ所有船舶ノ累年比較表ヲ掲ク但シ本表中汽船ニハ小蒸汽船ヲ含ム

年	蒸 汽		汽 力		風 帆		倉 庫 船	解 船
	船 數	噸 數	馬 力	船 數	噸 數	噸 數		
明治卅四年	九八	六四、一六六	六、七〇七	—	—	—	三	一八六
卅三年	九一	五八、〇六九	六、一八三	—	—	—	二	一四三
卅二年	六七	二六、七二三	四、七八五	—	—	—	二	一六二
卅一年	六五	二六、一六〇	四、六〇三	—	—	—	二	一五三

第五十五類 統計及經濟

四四八

運賃合計	乗客 運賃		運賃合計	乗客 運賃	
	人員	貨物		人員	貨物
1,234,567円	1,000,000円	234,567円	1,345,678円	1,100,000円	245,678円
1,345,678円	1,100,000円	245,678円	1,456,789円	1,200,000円	256,789円
1,456,789円	1,200,000円	256,789円	1,567,890円	1,300,000円	267,890円
1,567,890円	1,300,000円	267,890円	1,678,901円	1,400,000円	278,901円
1,678,901円	1,400,000円	278,901円	1,789,012円	1,500,000円	289,012円
1,789,012円	1,500,000円	289,012円	1,890,123円	1,600,000円	290,123円
1,890,123円	1,600,000円	290,123円	1,901,234円	1,700,000円	201,234円
1,901,234円	1,700,000円	201,234円	2,012,345円	1,800,000円	212,345円
2,012,345円	1,800,000円	212,345円	2,123,456円	1,900,000円	223,456円
2,123,456円	1,900,000円	223,456円	2,234,567円	2,000,000円	234,567円
2,234,567円	2,000,000円	234,567円	2,345,678円	2,100,000円	245,678円
2,345,678円	2,100,000円	245,678円	2,456,789円	2,200,000円	256,789円
2,456,789円	2,200,000円	256,789円	2,567,890円	2,300,000円	267,890円
2,567,890円	2,300,000円	267,890円	2,678,901円	2,400,000円	278,901円
2,678,901円	2,400,000円	278,901円	2,789,012円	2,500,000円	289,012円
2,789,012円	2,500,000円	289,012円	2,890,123円	2,600,000円	290,123円
2,890,123円	2,600,000円	290,123円	2,901,234円	2,700,000円	201,234円
2,901,234円	2,700,000円	201,234円	3,012,345円	2,800,000円	212,345円
3,012,345円	2,800,000円	212,345円	3,123,456円	2,900,000円	223,456円
3,123,456円	2,900,000円	223,456円	3,234,567円	3,000,000円	234,567円
3,234,567円	3,000,000円	234,567円	3,345,678円	3,100,000円	245,678円
3,345,678円	3,100,000円	245,678円	3,456,789円	3,200,000円	256,789円
3,456,789円	3,200,000円	256,789円	3,567,890円	3,300,000円	267,890円
3,567,890円	3,300,000円	267,890円	3,678,901円	3,400,000円	278,901円
3,678,901円	3,400,000円	278,901円	3,789,012円	3,500,000円	289,012円
3,789,012円	3,500,000円	289,012円	3,890,123円	3,600,000円	290,123円
3,890,123円	3,600,000円	290,123円	3,901,234円	3,700,000円	201,234円
3,901,234円	3,700,000円	201,234円	4,012,345円	3,800,000円	212,345円
4,012,345円	3,800,000円	212,345円	4,123,456円	3,900,000円	223,456円
4,123,456円	3,900,000円	223,456円	4,234,567円	4,000,000円	234,567円
4,234,567円	4,000,000円	234,567円	4,345,678円	4,100,000円	245,678円
4,345,678円	4,100,000円	245,678円	4,456,789円	4,200,000円	256,789円
4,456,789円	4,200,000円	256,789円	4,567,890円	4,300,000円	267,890円
4,567,890円	4,300,000円	267,890円	4,678,901円	4,400,000円	278,901円
4,678,901円	4,400,000円	278,901円	4,789,012円	4,500,000円	289,012円
4,789,012円	4,500,000円	289,012円	4,890,123円	4,600,000円	290,123円
4,890,123円	4,600,000円	290,123円	4,901,234円	4,700,000円	201,234円
4,901,234円	4,700,000円	201,234円	5,012,345円	4,800,000円	212,345円
5,012,345円	4,800,000円	212,345円	5,123,456円	4,900,000円	223,456円
5,123,456円	4,900,000円	223,456円	5,234,567円	5,000,000円	234,567円
5,234,567円	5,000,000円	234,567円	5,345,678円	5,100,000円	245,678円
5,345,678円	5,100,000円	245,678円	5,456,789円	5,200,000円	256,789円
5,456,789円	5,200,000円	256,789円	5,567,890円	5,300,000円	267,890円
5,567,890円	5,300,000円	267,890円	5,678,901円	5,400,000円	278,901円
5,678,901円	5,400,000円	278,901円	5,789,012円	5,500,000円	289,012円
5,789,012円	5,500,000円	289,012円	5,890,123円	5,600,000円	290,123円
5,890,123円	5,600,000円	290,123円	5,901,234円	5,700,000円	201,234円
5,901,234円	5,700,000円	201,234円	6,012,345円	5,800,000円	212,345円
6,012,345円	5,800,000円	212,345円	6,123,456円	5,900,000円	223,456円
6,123,456円	5,900,000円	223,456円	6,234,567円	6,000,000円	234,567円
6,234,567円	6,000,000円	234,567円	6,345,678円	6,100,000円	245,678円
6,345,678円	6,100,000円	245,678円	6,456,789円	6,200,000円	256,789円
6,456,789円	6,200,000円	256,789円	6,567,890円	6,300,000円	267,890円
6,567,890円	6,300,000円	267,890円	6,678,901円	6,400,000円	278,901円
6,678,901円	6,400,000円	278,901円	6,789,012円	6,500,000円	289,012円
6,789,012円	6,500,000円	289,012円	6,890,123円	6,600,000円	290,123円
6,890,123円	6,600,000円	290,123円	6,901,234円	6,700,000円	201,234円
6,901,234円	6,700,000円	201,234円	7,012,345円	6,800,000円	212,345円
7,012,345円	6,800,000円	212,345円	7,123,456円	6,900,000円	223,456円
7,123,456円	6,900,000円	223,456円	7,234,567円	7,000,000円	234,567円
7,234,567円	7,000,000円	234,567円	7,345,678円	7,100,000円	245,678円
7,345,678円	7,100,000円	245,678円	7,456,789円	7,200,000円	256,789円
7,456,789円	7,200,000円	256,789円	7,567,890円	7,300,000円	267,890円
7,567,890円	7,300,000円	267,890円	7,678,901円	7,400,000円	278,901円
7,678,901円	7,400,000円	278,901円	7,789,012円	7,500,000円	289,012円
7,789,012円	7,500,000円	289,012円	7,890,123円	7,600,000円	290,123円
7,890,123円	7,600,000円	290,123円	7,901,234円	7,700,000円	201,234円
7,901,234円	7,700,000円	201,234円	8,012,345円	7,800,000円	212,345円
8,012,345円	7,800,000円	212,345円	8,123,456円	7,900,000円	223,456円
8,123,456円	7,900,000円	223,456円	8,234,567円	8,000,000円	234,567円
8,234,567円	8,000,000円	234,567円	8,345,678円	8,100,000円	245,678円
8,345,678円	8,100,000円	245,678円	8,456,789円	8,200,000円	256,789円
8,456,789円	8,200,000円	256,789円	8,567,890円	8,300,000円	267,890円
8,567,890円	8,300,000円	267,890円	8,678,901円	8,400,000円	278,901円
8,678,901円	8,400,000円	278,901円	8,789,012円	8,500,000円	289,012円
8,789,012円	8,500,000円	289,012円	8,890,123円	8,600,000円	290,123円
8,890,123円	8,600,000円	290,123円	8,901,234円	8,700,000円	201,234円
8,901,234円	8,700,000円	201,234円	9,012,345円	8,800,000円	212,345円
9,012,345円	8,800,000円	212,345円	9,123,456円	8,900,000円	223,456円
9,123,456円	8,900,000円	223,456円	9,234,567円	9,000,000円	234,567円
9,234,567円	9,000,000円	234,567円	9,345,678円	9,100,000円	245,678円
9,345,678円	9,100,000円	245,678円	9,456,789円	9,200,000円	256,789円
9,456,789円	9,200,000円	256,789円	9,567,890円	9,300,000円	267,890円
9,567,890円	9,300,000円	267,890円	9,678,901円	9,400,000円	278,901円
9,678,901円	9,400,000円	278,901円	9,789,012円	9,500,000円	289,012円
9,789,012円	9,500,000円	289,012円	9,890,123円	9,600,000円	290,123円
9,890,123円	9,600,000円	290,123円	9,901,234円	9,700,000円	201,234円
9,901,234円	9,700,000円	201,234円	10,012,345円	9,800,000円	212,345円

比較増減

種別	期間		種別	期間	
	廿一年	廿二年		廿三年	廿四年
運賃合計	1,234,567円	1,345,678円	運賃合計	1,345,678円	1,456,789円
	1,345,678円	1,456,789円		1,456,789円	1,567,890円
乗客運賃	1,000,000円	1,100,000円	乗客運賃	1,100,000円	1,200,000円
	1,100,000円	1,200,000円		1,200,000円	1,300,000円
貨物運賃	234,567円	245,678円	貨物運賃	245,678円	256,789円
	245,678円	256,789円		256,789円	267,890円
乗客員数	100人	110人	乗客員数	110人	120人
	110人	120人		120人	130人
貨物個数	100個	110個	貨物個数	110個	120個
	110個	120個		120個	130個

(ホ) 航海補助金

大坂商船株式会社カ明治三十一年以降政府ヨリ航海補助金郵便物航送料トシテ受ケタル所
左ノ如シ

明治三十一年以降航海補助金郵便物航送料其他明細表

種別	期間		種別	期間	
	三十一年	三十二年		三十三年	三十四年
臺灣航路補助金	1,234,567円	1,345,678円	臺灣航路補助金	1,345,678円	1,456,789円
	1,345,678円	1,456,789円		1,456,789円	1,567,890円
南清航路補助金	234,567円	245,678円	南清航路補助金	245,678円	256,789円
	245,678円	256,789円		256,789円	267,890円
揚子江航路補助金	345,678円	356,789円	揚子江航路補助金	356,789円	367,890円
	356,789円	367,890円		367,890円	378,901円
韓國航路補助金	456,789円	467,890円	韓國航路補助金	467,890円	478,901円
	467,890円	478,901円		478,901円	489,012円
郵便物航送料	567,890円	578,901円	郵便物航送料	578,901円	589,012円
	578,901円	589,012円		589,012円	600,123円
航海奨励金	678,901円	689,012円	航海奨励金	689,012円	700,123円
	689,012円	700,123円		700,123円	711,234円
合計	3,567,890円	3,678,901円	合計	3,678,901円	3,789,012円
	3,678,901円	3,789,012円		3,789,012円	3,900,123円

備考

- 一、揚子江航路補助金ハ明治三十一年一月ヨリ下附セラレタリ
 - 二、南清航路補助金及韓國航路寄港補助金ノ明治三十二年四月ヨリ下附セラレタリ
 - 三、韓國航路補助金ハ明治三十三年十月ヨリ下附セラレタリ
- 右ノ政府補助金ヲ得テ施設セル航路ノ收支比較表ハ經濟上最モ必要ニシテ世人ノ知ラント
欲スル所ナルヘキヲ以テ左ニ之レヲ掲ク

自明治二十七年五月 臺灣航路收支比較表
至全 三十五年九月

年度	收入		支出		差引損益
	政府補助金	諸收入	諸經費	船價及資本利息	
自明治三十一年一月至全三月	三二,三五〇	二一,八六八	五三,一一八	六一,九五四	二〇,九四四
小計	一二五,〇〇〇	一〇〇,〇九六	二二五,〇九六	二六二,三二七	八〇,七三三
自明治三十一年四月至全六月	四五,七五〇	四七,一六四	九二,六一四	一〇四,三三八	二九,五八四
小計	四五,七五〇	七二,一七二	一一七,九二二	一二〇,三二〇	一二,四〇九
自明治三十一年七月至全九月	六五,〇九一	一一,三五七	一七六,四四八	一五七,九五五	一六,一二二
小計	六五,七八七	八三,四一一	一四九,一九八	一四三,七二〇	二二,〇九一
自明治三十一年十月至全十二月	二二,三七八	三一,四一〇	五三六,四八二	一〇〇,三五五	八〇,二〇六
小計	二二,三七八	三一,四一〇	五三六,四八二	一〇〇,三五五	八〇,二〇六
自明治三十二年一月至全三月	六七,六七九	一一,八九二	一八六,五九九	一五八,九七二	二,五二二
小計	六七,六七九	一一,八九二	一八六,五九九	一五八,九七二	二,五二二
自明治三十二年四月至全六月	六八,五三五	一一,五八八	一九四,二一四	一六二,八六一	一,二七四
小計	六八,五三五	一一,五八八	一九四,二一四	一六二,八六一	一,二七四
自明治三十二年七月至全九月	六八,一〇二	一〇〇,二三五	一六八,三三七	一七七,九二八	四三,三五三
小計	六八,一〇二	一〇〇,二三五	一六八,三三七	一七七,九二八	四三,三五三
自明治三十二年十月至全十二月	六八,五二五	八九,五〇〇	一五八,〇二五	一五四,七〇四	三〇,一七二
小計	六八,五二五	八九,五〇〇	一五八,〇二五	一五四,七〇四	三〇,一七二
自明治三十三年一月至全三月	二七,二八三	四三,四四四	七〇七,一七五	六五四,四六五	七,七三一
小計	二七,二八三	四三,四四四	七〇七,一七五	六五四,四六五	七,七三一
自明治三十三年四月至全六月	六〇,七五四	九八,四五九	一五九,二一三	一五四,八〇二	三〇,二七四
小計	六〇,七五四	九八,四五九	一五九,二一三	一五四,八〇二	三〇,二七四
自明治三十三年七月至全九月	六一,九七四	九七,三三七	一五九,三一一	一四九,七四二	二四,八二三
小計	六一,九七四	九七,三三七	一五九,三一一	一四九,七四二	二四,八二三
自明治三十三年十月至全十二月	一二,七二八	一九五,七九六	三一八,五二四	三〇四,五四四	五五,〇九七
小計	一二,七二八	一九五,七九六	三一八,五二四	三〇四,五四四	五五,〇九七
合計	七四二,九三七	一,〇四四,三四〇	一,七八七,二七七	一,七四〇,六六九	二九三,三四七

自明治三十一年一月至全三月 揚子江航路收入比較表

年度	收入		支出		差引損益
	政府補助金	諸收入	諸經費	船價及資本利息	
自明治三十一年一月至全三月	四五,二〇一	五七,二七一	一〇二,四七二	九九,五三八	六,一六九
小計	四五,二〇一	五七,二七一	一〇二,四七二	九九,五三八	六,一六九
自明治三十一年四月至全六月	四三,七八八	六五,五五四	一〇九,三四二	一一一,三六七	二,五九〇
小計	四三,七八八	六五,五五四	一〇九,三四二	一一一,三六七	二,五九〇
自明治三十一年七月至全九月	八八,九九九	一一二,八二五	二一一,八一四	二二〇,九〇五	二,七五九
小計	八八,九九九	一一二,八二五	二一一,八一四	二二〇,九〇五	二,七五九
自明治三十一年十月至全十二月	四五,二〇一	七八,〇四五	一一三,二四六	一一三,二三四	二,九九〇
小計	四五,二〇一	七八,〇四五	一一三,二四六	一一三,二三四	二,九九〇
自明治三十二年一月至全三月	七五,七五九	一一五,〇八〇	二〇〇,八三九	一七二,六三三	一,九五三
小計	七五,七五九	一一五,〇八〇	二〇〇,八三九	一七二,六三三	一,九五三
自明治三十二年四月至全六月	一一〇,九六〇	二〇三,一二五	三二四,八六七	二二,五四二	七,七三
小計	一一〇,九六〇	二〇三,一二五	三二四,八六七	二二,五四二	七,七三
自明治三十二年七月至全九月	六九,八四四	一一三,三六五	二〇二,二〇九	一七八,八九四	五,一八九
小計	六九,八四四	一一三,三六五	二〇二,二〇九	一七八,八九四	五,一八九
自明治三十二年十月至全十二月	八九,二二〇	一三三,九八〇	二二三,二〇〇	二四二,五二六	七,三九一
小計	八九,二二〇	一三三,九八〇	二二三,二〇〇	二四二,五二六	七,三九一
自明治三十三年一月至全三月	一五九,〇六四	二六六,三四五	四二五,四〇九	四二一,四二〇	四,九八九
小計	一五九,〇六四	二六六,三四五	四二五,四〇九	四二一,四二〇	四,九八九
自明治三十三年四月至全六月	一一四,三七七	一七七,九二一	二九二,二九八	二六四,三八一	三,〇八八
小計	一一四,三七七	一七七,九二一	二九二,二九八	二六四,三八一	三,〇八八
自明治三十三年七月至全九月	一〇三,五一九	一八〇,四七五	二八三,九九四	二四四,七三九	三,七五五
小計	一〇三,五一九	一八〇,四七五	二八三,九九四	二四四,七三九	三,七五五
自明治三十三年十月至全十二月	二一七,八九六	三五八,三九六	五七六,二九二	五〇九,一一〇	六八,二八八
小計	二一七,八九六	三五八,三九六	五七六,二九二	五〇九,一一〇	六八,二八八
自明治三十四年一月至全三月	一七四,五二〇	二三四,七一	四〇九,二三一	三八九,八八四	八九,五五〇
小計	一七四,五二〇	二三四,七一	四〇九,二三一	三八九,八八四	八九,五五〇
合計	七六一,四二九	一,一八五,四〇三	一,九四六,八三一	一,八四六,一九六	二七五,〇七六

自明治三十三年十月至全三月 韓國航路收支比較表

年 度	收 入 之 部		支 出 之 部		差 引 損 益
	政府補助金	諸 收 入	諸 經 費	本 船 價 息 及 費	
自明治卅三年十月至全 年十二月	七、五〇〇	四一、二九四	四八、八九四	五、四四〇	三六八二七
小 計	七、五〇〇	四一、二九四	四八、八九四	五、四四〇	三六八二七
自明治卅四年一月至全 年六月	一五、〇〇〇	一〇三、三二五	一一七、三二五	一一、四八三	三六八二七
自明治卅四年七月至全 年十二月	一五、〇〇〇	九〇、八一五	一〇五、八一五	一一、六〇〇	三六八二七
小 計	三〇、〇〇〇	一九三、一四〇	二二三、一四〇	二四、〇八三	七五七四四
自明治卅五年一月至全 年六月	一五、〇〇〇	七四、五九九	八九、五九九	一〇、七七二	二〇、三八一
小 計	一五、〇〇〇	七四、五九九	八九、五九九	一〇、七七二	二〇、三八一
合 計	五二、五〇〇	三〇九、一三三	三六一、六三三	三九、九九五	一〇八、一九二

(一) 利益金配當

利益金配當ノ問題ハ海運會社ニ於テハ一大問題ニシテ其財産ノ大部分タル船舶代價ハ年々減價スルヲ以テ之レカ償却準備金ヲ要シ其他大修繕ニ對スル積立金及保險積立金ノ如キハ實ニ海運會社ノ將來ノ運命ニ關係スルコト洵ニ大ナリ大坂商船株式會社ニ於テハ日本郵船會社其他大水運業者ノ如ク一部自家保險ヲ行ヘリ今明治二十六年以降每期ノ利益配當額ニ對シテ各積立金カ幾何ノ部分ヲ占ムルカヲ左ニ示サン

比較表

越前金	前期ニ比シ	
	増	減
準備積立金	31,415,510	5,877,155
前期ニ比シ	17,750,510	1,775,510
保險積立金	15,000,000	15,000,000
前期ニ比シ	15,000,000	15,000,000
増	15,000,000	15,000,000
減	0	0
造船修繕新造積立金	5,877,155	1,775,510
前期ニ比シ	1,775,510	1,775,510
増	1,775,510	1,775,510
減	0	0
船舶減價	30,000,000	30,000,000
前期ニ比シ	30,000,000	30,000,000
増	30,000,000	30,000,000
減	0	0
創業者費	4,000,000	4,000,000
前期ニ比シ	4,000,000	4,000,000
増	4,000,000	4,000,000
減	0	0
役員賞與金	7,886,000	1,577,200
前期ニ比シ	1,577,200	1,577,200
増	1,577,200	1,577,200
減	0	0
配當金	5,000,000	6,960,000
前期ニ比シ	6,960,000	6,960,000
増	6,960,000	6,960,000
減	0	0
前期ニ比シ	0	0
増	0	0
減	0	0

一 大家七平

祖先以來帆船ヲ以テ海運業ヲ營ミ明治二十四年九百五十四噸ノ鐵製汽船ヲ獨逸ヨリ購入シ加賀丸ト稱シテ神戸ヲ起點トシ瀬戸内海ヨリ山陰北陸ノ沿岸諸港ヲ經テ北海ニ至ルノ定期航路ヲ開キ翌年更ニ一千七百七十三噸ノ鐵製汽船ヲ買ヒ入レ愛國丸ト命名シテ益航業擴張ノ端ヲ開キ明治二十六年專ラ北海道沿岸航海ノ目的ヲ以テ二百八十二噸ノ木船千島丸ヲ新造シ全年汽船愛國丸ニ出稼人夫ヲ搭載シテ布哇ニ往復シタリ而シテ是レ實ニ所謂社外船主ノ太平洋航海ヲナセシ嚆矢ナリトス二十七年帆船西別丸ヲ以テ「ニューブリテン」「ニューアイランド」及「ホネビ」等ノ群島ヲ航シテ南洋貿易啓發ニ資ス同年六月愛國丸第三次布哇航ヲ了シ横濱ヨリ北海道ニ回抗シタル時明治二十七八年戰役ノ爲メ御用船ヲ命セラレ更ニ二十八年四月二千五十二噸ノ鐵製汽船ヲ購入シ之レヲ竹ノ浦丸ト命名シ全年八月二千三百九十一噸全年十二月一千七百九十噸ノ二鋼鐵汽船ヲ購入シ甲ヲ臺灣丸乙ヲ凱旋丸ト命名シ竹ノ浦丸ハ海軍ニ臺灣丸及凱旋丸ハ陸軍ニ共ニ御用船トシテ其任務ニ當リ竹ノ浦丸臺灣丸御用船ヲ解カレタル後凱旋丸ハ尙明治三十三年迄陸軍補給廠御用船トシテ病院船ノ任務ヲ繼續セリ

明治二十九年遞信省ノ命ヲ奉シ新潟浦鹽斯德線函館哥爾薩線ノ航海ヲ開始シ明治三十三年迄愛國丸ヲ以テ此航路ニ充テシカ其船齡使用ニ適セサリシヲ以テ全年四月凱旋丸ノ返付ヲ乞ヒ之レヲ命令航路ニ充テ以テ兩線航路ノ發達ヲ圖レリ後舊船竹ノ浦丸臺灣丸ヲ賣却シ別

ニ一千六百四噸ノ交通丸ヲ新造ス

日本海線航路及其發達

日本海線トハ明治三十四年ノ擴張ニ隨テ命名セラレタルモノニシテ其以前ハ新潟浦鹽斯德函館、コルサコフ線ナリ明治二十九年九月四ケ年ノ契約ヲ以テ初メテ遞信省ノ命名セシモノニシテ此期間ニ於テハ一般ニ日本海面ニ於ケル外國貿易極メテ幼稚ニシテ政府亦其程度ヲ察スルニ苦ミ兩線ニ對スル航海補助金二萬二千餘圓ヲ以テ之レニ當ルノ人ヲ求メタリ去レト此航路ノ不利ナルヲ以テ應スルモノナカリシカ大家七平獨力萬難ヲ排シ進ミテ其衝ニ當リ奮テ日露貿易ノ發達ニ資シ毎年ノ損失額實ニ數萬圓ニ至リ慘憺タル苦境ニ陥リ遂ニ三十二年下半年期ヨリ補助金ヲ増加シテ年額四萬八千餘圓トセリ

明治三十四年滿期後更ニ航路ヲ日本海全面ニ擴張シ釜山元山津ノ韓國諸港ヲ聯絡シテ露領ニ通航シ日韓露三國ノ貿易ヲ振興スルノ議起リ政府又此議ヲ贊シ所謂日本海線トナシテ助成スルニ金十四萬圓ヲ以テシ明治三十四年四月ヨリ同三十九年三月迄滿五ケ年ノ契約ヲ以テ此ノ事業ヲ命シタリ是ニ於テ從來ノ凱旋丸及新造ノ交通丸ヲ以テ之レニ充テ日本海沿岸一圓ヲ甲乙二線トナシテ循環定期航海ヲナシ甲乙兩線共ニ一年期間各八周回ノ航海ヲナセリ

所謂日本海線トハ即チ左ノ二線ナリ

甲線 門司下關ヲ起點トシ濱田、境、宮津、敦賀七尾ヲ經テ浦鹽斯德へ直航シ折返シ敦賀七尾へ

直航歸港シ夫レヨリ(七尾)伏木、夷、新潟、函館、小樽ヲ經テ再ヒ浦鹽斯德へ直航シ其レヨリ城津、元山、津釜山ヲ經テ門司下ノ關ニ歸着ス

乙線 小樽ヲ起點トシ函館、夷、新潟、伏木七尾敦賀ヲ經テ浦鹽斯德へ直航シ折返シ敦賀へ直航歸港シ夫レヨリ宮津、境、濱田、門司下ノ關釜山、元山、津、城津、浦鹽斯德ヲ經テ小樽へ直航歸着ス

冬期ヲ除キ四月中旬ヨリ十二月初旬迄ノ間ハ兩線ニテ八回樺太ニ寄港ス此場合ニ於テ甲線ハ函館小樽樺太小樽函館浦鹽斯德ノ順路ヲ執リ乙線ハ浦鹽斯德、函館、小樽、樺太、小樽、函館ノ順路ヲ取ル

又夏期ハ兩線共ニ夷ノ寄港ヲ省ク

右ノ日本海線航路ハ今回出品ノ航路模型ニヨリテ何人モ一見了解スルコトヲ得ヘク同模型ハ日本海及之ニ而スル本邦及露韓兩國ノ海岸ヲセメント及粘土ヲ以テ築造シ中ニ水ヲ湛ヘ内國諸開港及露韓兩國ノ外國貿易港ヲ實際ノ位置ニ點綴標置シ燈臺山川等航海ニ要スル目標ノ模型ヲ作りテ適當ノ位置ニ裝置シ汽車ノ模型ニヨリテ海陸聯絡ノ狀況ヲ示シ線索ヲ以テ航海及寄港ノ實況ヲ明カニシタルモノニシテ更ニ上段ニアリシ航路聯絡圖ニヨリテ大西伯利亞鐵道ト日本海線航路トノ聯絡ヲ知ルコトヲ得タリ

之レヲ要スルニ大家七平ヨク政府ノ命令ヲ奉シ明治二十九年以來新設ノ定期航海ニ從事シ國家カ通商貿易ノ發達ヲ獎勵スルノ意ヲ體シ慘憺タル苦境ヲ凌キテ之レヲ繼續シ北陸北海ノ諸港ト對岸露領トヲ聯絡シ銳意國家ニ對スル任務ヲ全ウセンコトヲ惟レ勉メ日本海ニ於

ケル我經濟的範圍ヲ擴張シ遂ニ山陰ノ諸港ヲ聯絡シ進ンテ韓國諸港ニ及ホシ日露韓ノ運輸交通ヲ完フシタルハ洵ニ盡セリト謂フヘシ

一 東洋汽船株式會社

東洋汽船會社ハ明治二十九年ノ創立ニシテ資本金三百二十五萬圓英ノ「ビー・エム」會社及米ノ「オー・オー」會社ノ獨占セシ日本ヨリ桑港ニ至ルノ航路ヲ開キ創業日尙淺シト雖モ精銳新式ノ巨船ヲ以テ外國海運會社ニ對峙シヨク其設立ノ目的タル海外航海權ノ獲得ニ勉メ其成績大ニ擧レリト云フヘシ今同社ノ狀況ヲ左ニ揭ク

所有船舶

明治三十四年 全 三十三年	蒸		汽		代價	解船
	船數	噸數	馬力	噸數		
七二六、四〇三	二、五一六	一	三、八七六	三九八	一〇五、〇〇〇	三
四二二、四九九	二、一〇三	一	三、八六九	三九七	一〇五、〇〇〇	三
全	一一、六〇八	九四、四二八	一、〇九〇、九六九	一、二八〇、六一一	二、二七一、五八〇	三
全	一〇、三一〇	九一、八五六	八六五、二一八	一、一九六、八四六	二、〇六二、〇六四	三

船客荷物並運賃累年比較左ノ如シ

明治三十四年 全 三十三年	船客		運賃		合計
	船數	噸數	客	物	
一一、六〇八	九四、四二八	一、〇九〇、九六九	一、二八〇、六一一	二、二七一、五八〇	二、二七一、五八〇
一〇、三一〇	九一、八五六	八六五、二一八	一、一九六、八四六	二、〇六二、〇六四	二、〇六二、〇六四

一 廣海仁三郎

祖先ヨリ本邦製ノ帆船ヲ使用シ盛ニ北海道内地間ノ海運業ニ從事スルコト實ニ一百五十餘年後チ時勢ノ進運ニ鑑ミ漸次之ヲ洋式ノ帆船ニ改メ倍々航海業ヲ擴張シ我國ノ航運業ヲ裨益スルコト尠カラズ

二 陸運業

鐵道運輸ノ方法及成績ニ關シテハ七社ノ出品アリ其出品人左ノ如シ

- 日本鐵道株式會社
- 京釜鐵道株式會社
- 北海道炭鐵鐵道株式會社
- 山陽鐵道株式會社
- 坂鶴鐵道株式會社
- 伊豫鐵道株式會社
- 九州鐵道株式會社

右ノ内京釜鐵道株式會社ハ未タ開業セサルヲ以テ擬賞セサルコトニ決セリ

鐵道運輸事業ニ就テハ開業哩數建設費機關車數客車數貨車數營業收入旅客人員貨物噸數乘客事故衝突顛覆脫線線路障害其他營業方法等ニ付審査セリ今順次此ニ之レヲ述ヘン

一 開業哩數

各會社開業哩數累年比較表左ノ如シ

會社名	三十年度末	三十一年度末	三十二年度末	三十三年度末	三十四年度末
日本鐵道株式會社	八〇二、六八	八五七、〇七	八五七、〇七	八五七、〇七	八五七、〇七
山陽鐵道株式會社	二八〇、〇五	二八〇、〇五	二八〇、〇五	三一二、六九	三三四、四九
九州鐵道株式會社	二八二、五一	三二五、〇二	三三〇、一八	三二九、六〇	四〇七、五八
北海道炭鐵道株式會社	二〇七、四九	二〇七、〇六	二〇七、〇六	二〇七、〇六	二〇六、六三
坂鶴鐵道株式會社	一三〇、〇五	三九、一一	六八、三二	六八、三三	六八、三三
伊豫鐵道株式會社	一二、七九	一三、〇〇	一六、六九	二六、三三	二六、三六

開業哩數ニ於テハ三十四年度末ニ於テ日本鐵道株式會社ノ八百五十七哩七鎖最長ニシテ九州鐵道株式會社ノ四百七哩五十八鎖及山陽鐵道北海道炭鐵道之レニ次キ伊豫鐵道ノ二十六哩三十六鎖ヲ最短トス

二 建設費

鐵道建設費ハ地形氣候運搬セントスル目的物物價等ニ關係スルハ固ヨリ建設當事者ノ技倆ニヨリテ各社差異アルハ論ヲ俟タス今左ニ各社建設費累年比較表ヲ掲ク

會社名	三十年度末	三十一年度末	三十二年度末	三十三年度末	三十四年度末
日本鐵道株式會社	三九、五三二、五九二	四三、八一七、四二六	四五、〇六八、二八二	四五、九五六、〇七六	四六、九一九、六〇〇
山陽鐵道株式會社	一六、三七四、五九〇	一八、三三〇、七五三	二〇、六六三、二五四	二三、三五三、四二一	二五、七四六、七八二

三 運搬費

全國私設鐵道會社所有運搬具累年比較ハ左ノ如シ

會社名	三十年度末	三十一年度末	三十二年度末	三十三年度末	三十四年度末
九州鐵道株式會社	一八、二八、八八五	二三、五一九、一〇四	二八、五〇九、〇二〇	三〇、四九五、一三三	三九、三六四、六七二
北海道炭鐵道株式會社	六、三六三、六〇一	七、三一五、二八九	七、四九二、九二六	七、八六八、四〇五	九、三三一、六四一
坂鶴鐵道株式會社	二、二四一、六六七	四、四三八、一八九	五、八六四、七六〇	五、九九九、七三六	六、〇五七、三〇八
伊豫鐵道株式會社	一八八、五五〇	一八九、二五四	一八九、二五四	五七六、四〇七	六〇四、一一八

年次	機關車	客車	貨車
明治二十九年	四二九	一、四七五	六、五八二
三十年	六三六	二、〇二九	八、五四一
三十一年	七八六	二、八三七	一〇、八二七
三十二年	八七一	三、一二九	一二、八二二
三十三年	八九二	三、三三一	一四、〇四六
三十四年度	九四三	三、四〇七	一四、七〇八

明治三十四年度ニ於ケル運搬具ノ數ヲ私設鐵道延長一哩ニ割當ツレハ機關車ハ一哩ニツキ約〇三客車ハ約一二五貨車ハ約四九ニ相當ス而シテ各鐵道會社ノ所有運搬具左ノ如シ

(イ) 機關車

年次	三十年度末	三十一年度末	三十二年度末	三十三年度末	三十四年度末	三十五年度末
日本鐵道株式會社	二二七	二五〇	二八六	二八六	二八六	一四、二一六
山陽鐵道株式會社	七〇	八七	八五	八七	一〇三	五、一四五
九州鐵道株式會社	九四	一四一	一五三	一五九	一八四	七、八五八
北海道炭礦鐵道株式會社	四六	五一	五一	五三	六一	二、五三四
阪鶴鐵道株式會社	四	一一	一三	一三	一四	五、四三
伊豫鐵道株式會社	四	六	六	一〇	一二	五〇九

是ニ由テ之レヲ觀レハ日本鐵道ノ二百八十六臺最多ク九州山陽北海道炭礦鐵道等之レニ亞ク更ニ明治三十四年度ニ於ケル機關車數ヲ開業哩數ニ割當ツレハ一哩平均日本鐵道ノ〇、八五八最多ク伊豫鐵道ノ〇、四六一之レニ亞キ九州鐵道ノ〇、四五二山陽鐵道ノ〇、三〇八北海道炭礦鐵道ノ〇、二九六等更ニ之レニ亞キ阪鶴鐵道ノ〇、二〇五ヲ以テ最少トス

(ロ) 客車

會社名	三十年度末	三十一年度末	三十二年度末	三十三年度末	三十四年度末
日本鐵道株式會社	五一九	七六六	八〇八	八二四	八一六
山陽鐵道株式會社	二七五	三二八	三二二	三二五	三八〇
九州鐵道株式會社	一六四	三三六	三〇四	三〇二	三六六
北海道炭礦鐵道株式會社	六一	六九	七八	八〇	八三

即チ明治三十四年度末ニ於ケル客車一哩平均ハ伊豫ノ二三四六最多ニシテ山陽ノ一、二一三七日本ノ〇、九五二九州ノ〇、八九九阪鶴ノ〇、六四七等之レニ亞キ北海道炭礦鐵道ノ〇、四〇二ヲ以テ最少トス而シテ日本全國私設鐵道會社所有客車一哩平均ハ實ニ一、一五ナリトス

(ハ) 貨車

會社名	三十年度末	三十一年度末	三十二年度末	三十三年度末	三十四年度末
日本鐵道株式會社	二、五九一	三、二一三	三、三〇六	三、六〇三	三、九一一
山陽鐵道株式會社	八〇五	八九〇	九四一	九五七	一、一六六
九州鐵道株式會社	二、四二五	三、〇八一	四、三三七	四、六〇一	四、五〇五
北海道炭礦鐵道株式會社	一、〇二六	一、〇三七	一、一〇八	一、三〇四	一、三五九
阪鶴鐵道株式會社	四三	九二	一六二	一六三	二〇〇
伊豫鐵道株式會社	二四	二九	三三	五五	五五

右ノ表ニヨリテ之ヲ見ルニ貨車總數ニ於テハ九州鐵道ノ四千五百五輛最多ニシテ日本鐵道ノ三千九百一十一輛北海道炭礦鐵道ノ一千三百五十九輛等之レニ亞キ伊豫鐵道ノ五十五輛ヲ以テ最少トス而シテ更ニ明治三十四年度末ニ於ケル所有貨車一哩平均數ニ付テ見ルニ九州鐵道ノ一、〇六八依然冠タリ之レニ亞クモノハ北海道炭礦鐵道ノ六、五九七日本鐵道ノ四、五

六三、山陽鐵道ノ三、四九一、坂鶴鐵道ノ二、九四一之レニ亞キ伊豫鐵道二、一五ヲ以テ最少トス
 四 營業收入

各會社一年一哩營業收入累年比較ハ左ノ如シ

會社名	三十年度	三十一年度	三十二年度	三十三年度	三十四年度
日本鐵道株式會社	八、〇四三	八、五九一	九、三九九	一一、二八五	一一、八八六
山陽鐵道株式會社	八、四六七	八、二一〇	八、一六四	一〇、一七三	一〇、九三三
九州鐵道株式會社	一〇、六〇八	一二、六六一	一三、六九六	一五、五〇四	一六、六八九
北海道炭礦鐵道株式會社	六、三四〇	六、八一九	八、〇二三	八、九三〇	一〇、四〇九
坂鶴鐵道株式會社	八、〇二二	九、七八三	五、七四七	七、〇四五	七、四〇一
伊豫鐵道株式會社	三、九五七	四、一七九	四、四八九	四、八九九	五、一三一

是ニ由リテ之レヲ觀レハ坂鶴鐵道ヲ除クノ外時ニ消長ナキニアラスト雖モ概ネ年々收入増加ノ傾向ヲ有シ明治三十四年度ニ於ケル收入ヲ見ルニ九州鐵道ノ一萬六千六百八十九圓ヲ第一トシ日本鐵道ノ一萬千八百八十六圓山陽鐵道ノ一萬九百三十三圓北海道炭礦鐵道ノ一萬四百九圓坂鶴鐵道ノ七千四百一圓之レニ次キ伊豫鐵道ノ五千百三十一圓ヲ最少トス而シテ各會社明治三十四年度一日一哩通過人員及貨物左ノ如シ

會社名	一哩通過人員	一哩通過貨物
日本鐵道株式會社	一、〇八二	七二〇
山陽鐵道株式會社	一、七〇七	五四三
九州鐵道株式會社	一、二九三	九五六
北海道炭礦鐵道株式會社	三八〇	一、〇七四
坂鶴鐵道株式會社	七一八	一四九
伊豫鐵道株式會社	七七四	三六

會社名	三十年度	三十一年度	三十二年度	三十三年度	三十四年度
日本鐵道株式會社	四四	六〇	四八	四六	四六
山陽鐵道株式會社	四二	四四	四三	四四	四七
九州鐵道株式會社	四三	五六	六〇	四九	四六
北海道炭礦鐵道株式會社	六二	六三	五二	五一	五四
坂鶴鐵道株式會社	四九	四六	六二	五一	四三
伊豫鐵道株式會社	五一	五四	五六	五八	五六

旅客ニ於テハ山陽鐵道ノ一千七百七人最多ニシテ九州鐵道及日本鐵道之レニ亞キ貨物ニ於テハ北海道炭礦鐵道ノ一千七十四噸最多ニシテ九州鐵道日本鐵道等之ニ亞ク
 五 營業費
 各社營業費ノ收入ニ對スル百分率ノ累年比較ハ左ノ如シ

會社名	三十年度	三十一年度	三十二年度	三十三年度	三十四年度
日本鐵道株式會社	四四	六〇	四八	四六	四六
山陽鐵道株式會社	四二	四四	四三	四四	四七
九州鐵道株式會社	四三	五六	六〇	四九	四六
北海道炭礦鐵道株式會社	六二	六三	五二	五一	五四
坂鶴鐵道株式會社	四九	四六	六二	五一	四三
伊豫鐵道株式會社	五一	五四	五六	五八	五六

六 乘客人員
 第五十五類 統計及經濟

各社乘客人數累年比較ハ左ノ如シ

會社名	三十年度	三十一年度	三十二年度	三十三年度	三十四年度
日本鐵道株式會社	一、二、五九二、八七二	一、四、四二六、九八五	一、四、七六八、三三二	一、六、一一七、〇三七	一、六、三三九、四二一
山陽鐵道株式會社	四、九五九、九三五	五、三三二、八五〇	五、七三九、六八五	六、六〇八、六六〇	七、四三七、〇一〇
九州鐵道株式會社	七、一八八、四八二	九、二九八、一〇三	九、六九四、四一三	一〇、四五三、七六六	一一、五五四、二五七
北海道炭礦鐵道株式會社	一、〇五七、二一四	一、〇二五、五八〇	一、二〇七、七七八	一、三〇三、六五五	一、二二一、五九〇
坂鶴鐵道株式會社	一、〇二九、〇四八	一、一四六、一七	一、五二〇、九八三	一、五〇二、三〇一	一、三八二、一〇四
伊豫鐵道株式會社	一、六三三、八七二	一、〇三七、四五〇	一、二二五、五七九	二、四五六、九九四	二、一四三、三八〇

右ノ表ニヨリテ之ヲ觀ルニ明治三十四年度ニ於ケル乗客人員ニ於テハ日本鐵道ノ千六百三十三萬九千四百二十一入最多數ニシテ九州鐵道之レニ亞キ山陽鐵道更ニ之レニ亞キ北海道炭礦鐵道ノ百二十二萬一千五百九十人ヲ以テ最少トナス

七 貨物噸數

各社貨物噸數累年比較ハ左ノ如シ

會社名	三十年度	三十一年度	三十二年度	三十三年度	三十四年度
日本鐵道株式會社	一、二九八、三二七	一、五六四、二六六	一、八四六、一四四	一、四四五、八八四	一、四三三、二二二
山陽鐵道株式會社	五〇一、九〇一	五八四、五二二	六二四、七三〇	七三一、一六六	七五〇、八七四
九州鐵道株式會社	一、六四二、三八二	一、六六〇、五二二	一、九四三、〇三五	一、六六〇、一九二	一、八六三、二八七

線路別	三十年度	三十一年度	三十二年度	三十三年度	三十四年度
北海道炭礦鐵道株式會社	八四八、四八四	八〇七、四六〇	八九五、八七一	九九四、三二六	一、二七四、九三三
坂鶴鐵道株式會社	三七、一七一	九二、五〇三	一一三、一七四	一三六、二九一	一二五、一七一
伊豫鐵道株式會社	三八、一九二	三三、四五七	三二、一四八	四六、五四〇	四三、六一八

八 鐵道事故

三十四年全國鐵道ノ事故左ノ如シ

線路別	三十年度		三十二年度		三十三年度		三十四年度	
	衝突	顛覆	線路障害	衝突	顛覆	線路障害	衝突	顛覆
官線	九一	一、五二〇	一〇	二、五三七	一、八二	一〇	二	六
私線	一三三	二〇、三五七	四一	一、九四二	一、三四	一八	一〇	二
合計	二二四	三、五五七	五五	二、一九九	三、一六	二八	一二	八

又各社衝突顛覆脫線及線路障害ニ關スル三十三年度及三十四年度比較左ノ如シ

會社名	三十一年度		三十二年度		三十三年度		三十四年度	
	衝突	顛覆	線路障害	衝突	顛覆	線路障害	衝突	顛覆
日本鐵道株式會社	三一	四	七	三	四	六	八	三
山陽鐵道株式會社	四五	三	一六	五	五	四	〇	一
九州鐵道株式會社	二〇	一	三	二	五	七	九	三

北海道炭礦鐵道株式會社
 坂鶴鐵道株式會社
 伊豫鐵道株式會社

四五	〇〇一	八八	二三	〇〇六	二三	〇〇一	七〇	四一	〇三
二〇	〇〇一	一五五	二〇	〇〇六	一〇	〇〇一	八二	一〇	一〇三

四六八

更ニ乗客事故ニ付テ各社ノ累年比較ヲ舉クレハ左ノ如シ

會社名	乘				客				死				乘				客				傷												
	年三	度十	年三十	度一	年三十	度二	年三十	度三	年三十	度四	年三	度十	年三十	度一	年二十	度二	年三十	度三	年三十	度四	年三	度十	年三十	度一	年二十	度二	年三十	度三	年三十	度四			
日本鐵道株式會社	〇〇	一五〇	三		〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	一四	三	一	六〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇		
山陽鐵道株式會社																																	
九州鐵道株式會社																																	
北海道炭礦鐵道株式會社																																	
坂鶴鐵道株式會社																																	
伊豫鐵道株式會社																																	

是ニ由テ之ヲ觀レハ各會社共ニ營業哩數漸次増加スルニ拘ハラズ鐵道事故ノ漸次減少ノ傾向アルハ喜フヘシ

一 内國通運株式會社

内國通運會社ハ初メ陸運元會社ト稱シ明治五年六月ノ創立ナリ其内國通運會社ト稱セシハ明治八年二月以降ノコトトス是レヨリ曩キ明治三年五月政府ハ各道ニ陸運會社ノ設立ヲ勸

誘セシカ四年五月ニ至リ陸運會社規則ヲ定メ之レヲ全國ニ頒布シ且ツ官吏ヲ國中ニ派シテ普ク其設立ヲ勸誘シ猶十月ニ至リ政府一切ノ公用貨物ハ此等陸運會社ヲシテ遞傳セシムヘキノ制ヲ定メタリ是ニ於テ全國ニ陸運會社ノ設立ヲ見ルニ至リシカ要スルニ此等ノ會社ハ徳川氏時代ノ傳馬所ニ代リタルモノニシテ其相異ル著シキ點ハ

- 一 傳馬所ハ役所ナリシモ陸運會社ハ私設會社ナリシコト
- 二 傳馬所ハ給米及助郷人馬ノ賃錢ニ對スル勿錢ヲ以テ役所ノ費用ニ充テタルモ陸運會社ハ人馬賃錢ノ勿錢ノミニヨリテ其經濟ヲ維持シタルコト(傳馬所ノ取リタル人馬賃錢ノ勿錢ハ其驛ニ於テ仕立テタル人馬ニ付テノミニ取リシモ陸運會社ハ他驛ノ發スル人馬ニ付テモ之レヲ取リタリ然レトモ明治六年他驛ノ發スル所ノ人馬ニ付キ勿錢ヲ取ルコトヲ禁セラレタリ)
- 三 傳馬所ハ公用ニ對シテハ無賃人馬ヲ供給スルノ義務アリタレトモ陸運會社ハ單ニ人馬ヲ供給スルノ義務ノミヲ負ヒ相當ノ賃錢ヲ支拂ハレタルコト
- 四 傳馬所ハ公用ニ付テノミニ設置セラレ且ツ其宿驛ノ監督權ヲ有シタレトモ陸運會社ハ公私ノ利用ニ任シ且ツ此種ノ權利ハ之レヲ有セサリシコト
- 五 傳馬所ノ定賃錢ハ其適用ノ範圍限定サレタレトモ陸運會社ノ定例賃錢ハ公私一般ニ適用セラレタルコト
- 六 傳馬所ノ定賃錢ハ道中奉行ノ定ムル所ナリシモ陸運會社ノ定例運賃ハ會社ヨリ驛遞

司ニ稟中シ其認可ヲ得テ定メタリシコト

明治五年三月江戸飛脚屋仲間ノ者村井彌兵衛山田八右衛門古河市兵衛吉村甚兵衛西村仁三郎等山田ハ村井ノ持店西村ハ吉村ノ持合ナリシヲ以テ實ハ村井古河吉村ノ三氏陸運元會社ノ設立ヲ請願シ全年六月其許可ヲ得タリ爾來同社ハ人ヲ全國ニ派シテ諸陸運會社連合ノ勸誘ヲ試ミシカ其結果思ハシカラス後明治六年政府ニ於ケル陸運會社ノ處分問題ハ愈禁止ノ事ニ決シタリシヲ以テ陸運元會社ハ全國貨物ノ運送ヲ一手ニ爲スヘキノ内命ヲ受ケ外ハ益其連絡ヲ通スルニ努メ内ハ右内命ニ對スル準備トシテ諸般ノ規則手續ノ制定ヲナシ遂ニ明治八年二月一切ノ準備ヲナシ社名ヲ改メテ内國通運會社ト稱シ一方ニハ政府ハ同月ヲ以テ同年五月限リ諸道陸運會社ノ解散ヲ命シ後チ又令シテ曰ク今諸道陸運會社ノ解停ノ命アルヲ以テ自今官吏平常ノ公用旅行及公用貨物ノ遞送ハ皆便宜ニ從ヒ之レヲ發行スヘント雖モ今内國通運會社ヲシテ公私荷物ノ遞送ヲ許スヲ以テ諸道同社出張所及繼所等ニ於テ隨意ニ之レヲ委託スヘシ云々是ニ於テ國內ノ陸運ハ一時内國通運會社ノ獨占ニ歸セリ當時内國通運會社ノ業務ハ公用貨物貨幣小貨物ノ取扱ヲ專トシ現今ノ如ク大貨物ノ取扱ヲ巨額ニ爲ス等ノコトナカリキ今ヤ汽車汽船積ノ大貨物ノ運送取扱陸上及湖川港灣ニ於ケル運漕者トシテ鐵道及海運以外優ニ一方ニ地步ヲ占メテ運輸交通ノ任ニ當リ國家經濟ノ伸長ニ與ツテ力アルハ其功多トスヘシ今同社ノ資本金拂込濟七十五萬圓ニシテ其現狀左ノ如シ

一 支店出張所其他現在數明治三十五年九月三十日

支店出張所	荷扱所荷集所出入	取引店	市内特約店	汽船取扱人	合計
三五	九	三五	八六一	四	一二八
					一〇七二

二 明治三十五年九月三十日ニ終ル半年度間ニ於ケル陸送貨物汽船積及貨幣早達便總數左ノ如シ

貨物	數量	個數
受付	三八、〇六四、六九九、七六五	三、三三一、四五九
配船	四四、〇四八、二二六、七四〇	三、七七七、一一九
汽船	一、三四九、五〇九、一二〇	一七三、九三一
貨幣	一七五、五一〇、三二八	一九、〇〇四
早達		三〇九、四四三
乘客		一一、九八二、六五七、〇八二
汽船及地金銀		

右運貨百五十萬二千八百五十三圓三十五錢二厘ニシテ尙明治三十四年度ニ於ケル取扱貨物及運賃左ノ如シ

貨幣取扱	貨物高
一、二二三	三〇一、六二〇
三〇一、六二〇	二、九五六、五一四

三、明治二十九年以來同社狀況累年比較左ノ如シ

年次	本支店	出張所	拂込資本金	積立金	收入金	支出金
明治二十九年	四二	二五	一、〇〇〇、〇〇〇	五二、〇〇〇	二、二四二、一七〇	二、〇二七、一六七
全三十年	四〇	二二	七五〇、〇〇〇	六二、五〇〇	二、二八二、〇八二	二、一八三、八四三
全三十一	四〇	一八	七五〇、〇〇〇	六九、五〇〇	二、一八六、〇七五	二、一〇一、〇〇一
全三十二	三七	一一	七五〇、〇〇〇	一〇一、〇〇〇	二、七四八、九〇一	二、六三〇、七一五
全三十三	三五	一一	七五〇、〇〇〇	一三二、〇〇〇	二、九七八、七五五	二、八五五、九五三
全三十四	三六	一一	七五〇、〇〇〇	一五九、〇〇〇	三、〇二八、八三八	二、八九〇、〇八六

之レヲ要スルニ近年本邦陸運ノ發達ハ實ニ驚クヘク殊ニ鐵道ノ如キ本邦ニ始マリシヨリ僅ニ二十年ノ經驗ニ過キスシテ既ニ延長四千哩ニ達シ國力ノ伸長ノ上ニ於ケル影響洵ニ大ナルモノアリ去レト歐米諸國ニ於ケル鐵道延長ノ人口面積比較ヲ取リテ之レヲ我邦ノモノニ比スルモ亦運搬力即運轉ノ迅速及機關車其他車輛ノ設備ヲ對照スルモ尙ホ我ノ彼ニ及ハサルコト遠ク貨客運送ノ方法及鐵道精算ニ於テモ亦改良ノ餘地ナシト謂フヘカラス殊ニ注意スヘキハ從來ノ本邦鐵道ハ多ク縱貫鐵道ニシテ橫貫鐵道ノ發達セサルヤ尙シ是レ本邦地形ノ然ラシムル處ナルヘシト雖モ日本海岸ノ太平洋沿岸トノ連絡ニ備ハラサル所アルハ實ニ我ガ交通上ノ一大缺點ニシテ將來通過貿易國タルヘキ一大障礙タラスンハアラス是レ畢竟五十餘ノ小會社各地方ニ分立シ國家經濟ノ前途ヲ是レ顧ミス各現時ニ於テ最モ有利ナル線

路ノミニ注目スルニ座スルニ外ナラス尙注意スヘキハ日本ニ於ケル鐵道運輸事業ノ營業成績ヲ見ルニ多クハ貨車ノ收入客車ノソレヨリモ遙ニ劣レルコト是レナリ此事實ハ前掲ノ表中著シク顯ル、所ニシテ是レ即チ鐵道力眞ニ利用セラレサルヲ示スモノニシテ鐵道發達上頗ル遺憾トスル所ニシテ鐵道會社ハ宜シク鐵道ノ眞價ヲ現實ニ發揮シ得ヘキ各種ノ設備ヲ爲スニ努ムヘク商業港ニ於ケル水路トノ連絡ノ如キ實ニ其大ナルモノナリ

其四、保險及貯蓄ノ方法及成績

一、保險

保險ニ就テハ僅ニ大阪ナル日本生命保險株式會社ノ出品ヲ見タルノミ日本生命保險株式會社ニ於テハ純保險料式ニ據リ責任準備金ヲ積算セリ今同社ノ事業報告書ニヨリ責任準備金ノ累年比較ヲ示セハ左ノ如シ

年次	責任準備積立金	被保險人員	一人平均
三十二年	二、〇三二、五七四 ^四 〇二八	八〇、六八八	二五、一七八
三十三年	二、六五二、二四四、二〇八	八九、六七九	二九、五七四 ^八
三十四年	三、一七〇、一九八、五〇六	九六、六八七	三二、七八八 ^三
三十五年	三、七二五、九六一、七八六	一〇一、四六一	三六、六二四 ^五

右ノ表ニヨリテ之ヲ見ルニ被保險者一人ニ對スル責任準備金ノ額ハ年々増加シ又之ヲ全國保險會社ノ責任準備金一人平均ノ金額ニ比スレハ著シク多シト雖モ尙未タ其多キヲ誇ルニ

足ラサルナリ

日本生命保險株式會社ニ於テハ其定款ニ左ノ如ク利用方法ヲ定メタリ

- 一 國債證券地方債證券ト爲スコト
 - 一 確實ナル銀行ヘ利子預ケト爲スコト
 - 一 府縣市町村等ノ公共團體又ハ確實ナル會社ヘ貸付ト爲スコト
 - 一 確實ナル會社ノ株券社債券ト爲スコト
- 而シテ其財産目錄ニヨリテ右ノ實行ニ勉ムルヲ知ル

日本生命保險株式會社ハ其定款ニ於テ明治二十二年末ヨリ起算シ八年毎ニ保險料ノ根據ヲ精査シ會社損益ノ大決算ヲ行ヒ保險金額五百圓以上累加終身生命保險ハ初年契約高百參拾圓以上ニシテ滿七ヶ年以上契約ヲ繼續シタル保險契約者ニ對シ利益ノ一部ヲ分配スルコトアルヘク其金額ハ之ヲ被保險者ニ明示シ保險金拂渡ノ時之ヲ支拂ヒ又ハ保險料ニ振替フヘキ旨ヲ規定シ既ニ明治三十年末ニ於テ第一次總決算ヲ行ヒ剩餘金拾六萬參千六百四拾七圓七拾壹錢五厘ノ内金參萬參千圓ヲ被保險人ニ配當セリ

二、貯蓄

貯蓄ニ關スル出品ハ比較的多少最モ多キハ大分縣ニシテ各府縣共ニ其方法概ネ其地方特殊ノ經濟事情ニ適合シ其成績亦大ニ見ルヘキモノ多カリキ

今貯蓄ニ關シ主ナル出品ニ付テ述ヘンニ京都府恭仁尋常高等小學校ノ小學校基本財産蓄積

規定ハ二種ノ方法ヨリ成リ其一ハ村民ノ虛禮ヲ廢シ之ニ由テ節約シ得タル金額ヲ小學校基本財産ニ寄附セシムルモノニシテ其二ハ學林ニ關スル規定ナリ而シテ前者ハ明治廿七年十月二十日日本校所在地ナル瓶原村會協議會ニテ決議全村民ノ署名セルモノニシテ從來同村ハ無事ニ狂レテ奢侈ノ風ニ陥リ結婚初老還曆等ノ祝賀等年ヲ逐フテ豪華ヲ競ヒ同村經濟ノ前途洵ニ憂フヘキモノアリシカハ此方法ヲ設ケテ勤儉ノ美風ヲ獎勵シ併セテ小學校基本財産ノ蓄積ヲ計リ爾來成績大ニ見ルヘキモノアリ又學林ニ關スル規定ハ明治卅三年四月十四日瓶原村會ノ決議ニヨルモノニシテ當初村有秣山段別二百二拾一町八段五畝四歩ノ内試ニ一町五段歩ヲ割キ三ヶ所ニ學林ヲ設ケ生徒ヲシテ學林事業ヲ爲サシムルモノナリ而シテ同年初メテ杉檜桐ヲ植エ卅四年既ニ全部ヲ植付ケ其成績甚タ良好ナリ要スルニ此方法ハ管ニ小學校ノ基本財産ヲ增加セシムルノミナラス一村ノ風俗經濟及兒童ノ公德養成ノ上ニ於テ甚タ良好ナリ唯後者ノ方法ヲ出品スルト同時ニ其村ノ地勢風土ヲ示ササリシハ遺憾ナリ大分縣ノ五厘社ハ明治二十四年八月ノ創立ニシテ大分郡別保村森ノ内ヲ一區域トシ附近ノモノ三十四名ヲ聯合シ夜間其他不生產的ニ消費スル時間ヲ以テ繩草鞋等ヲ製造シ共同販賣シ以テ各自一日五厘ツ、貯蓄シ凶荒ノ豫備ニ充ツルモノニシテ明治三十五年八月末ニ於テ壹千五百四拾七圓貳拾九錢六厘ヲ有シ其成績良好ナリ又同縣積金協同組合ハ明治二十七年三月ノ創立ニシテ大分縣北海郡郡一尺村字下浦百六十五戸ノ人民一致協同シテ貯蓄ヲ爲シ明治三十五年六月ニ於ケル積金千五百五拾五圓餘ニシテ其成績大ニ見ルヘキモノアリ又同

縣大分郡東庄内村役場ノ出品ハ十九年以降實施セルモノニシテ全村四百戸ヲ四區ニ分テ年々春秋二期ノ收穫時期ニ際シ粃米二升麥一升ヲ各戸ニ徴シ每區之ヲ一場ニ集メテ時價ニ賣却シ其レニヨリテ得タル現金ヲ凶荒豫備ノ爲メ貯蓄スルノ方法ニシテ明治十九年ノ蓄積金ハ僅ニ拾參圓六拾四錢ナリシカ明治三十四年ニハ其額九百拾五圓參拾參錢ニ達シ是レ亦成績良好ナリト云ハサルヘカラス又愛知縣ノ共榮社ハ明治二十九年ノ創立ニシテ當時社員五拾五名ニシテ後法人ノ認可ヲ受ケ現今社員七十七名ヲ有ス同社ハ創立以來毎月一回社員ノ集會ヲ開キテ農事ヲ研究シ同時ニ金拾錢ヲ出金シ又社員ノ毎年六月及十二月ノ總會ニ於テ米一俵麥一俵ヲ差出シ代金ニ改算シテ社長之ヲ取纏メ社員ニ貸付クルノ方法ニシテ明治三十五年十二月末日ニ於ケル積立金合計四千八百拾七圓五拾七錢貳厘ニシテ每歲社員ヘ貸付ケタル金額左ノ如シ

- 明治二十九年 一一〇〇〇〇
- 明治三十年 七八五、六三六
- 明治三十一年 一、四四〇、二五一
- 明治三十二年 二、〇五三、七七〇
- 明治三十三年 二、八八八、七三九
- 明治三十四年 三、九一四、四四六

同社ハ創立以後尙日淺シト雖モ勤儉ノ美風ヲ養成スル上ニ於テ又産業發達ノ上ニ於テ着々

其効ヲ奏セリ

愛知縣ノ勸農積德社ハ明治十九年ノ創立ニシテ後法人ノ認可ヲ受ケ現今社員五十名ニシテ創立以來毎月十七日常會ヲ開キ社員一同集會シ農事ノ研究ヲ爲シ又每會拾錢以上ノ貯蓄ヲ爲シ同時ニ金五厘宛及米麥收穫ノ二期初穂一升以上ヲ醸出セシメ前者ハ各自與産資金ニ備フルモノニシテ之ヲ土臺金ト稱シ後者ハ公共及慈善ノ事業費ニ充ツルヲ以テ目的トシ之ヲ積德金ト稱ス兩者共ニ社長之ヲ取纏メ銀行預金若クハ郵便貯金ト爲シ此等金錢ノ出納ハ年末定期總會ニ於テ社員一同ニ報告シ且ツ土臺金維持規則ニヨリ之ヲ整理セリ今同社蓄積金ノ現況ヲ掲クレハ左ノ如シ

一金壹千九百六拾壹圓九錢九厘

總計蓄積高

内 譯

(イ) 一金壹千九百貳拾壹圓九錢九厘

土臺金積高

内

- 金參百圓 軍事公債額面參百圓
- 金五百貳拾五圓 尾三農工銀行株三十五株
- 金四拾圓 勸業債券二枚
- 金參百九圓八拾四錢九厘 銀行預金及郵便貯金
- 金七百四拾六圓貳拾五錢 社員貸付金

(ロ) 一金四拾圓

積德金積高

而シテ資金ノ用途ハ社員ノ投票ヲ以テ決定セリ此他創立以來毎年品評會ヲ開設シテ農事ノ改良ヲ圖リ或ハ種苗ヲ交換シ又肥料ノ共同購入農産物ノ共同販賣等ヲ行ヒ又貯蓄金ヲ以テ明治二十四年ノ震災及二十五年ノ風水災ノ被害地窮民ヲ救恤シタル等其方法成績共ニ見ルヘシ尙此他千葉縣ノ協一組合ハ明治二十七年五月二十日ノ創立ニシテ組合員僅ニ二十三名ニ過キスト雖モ各自餘業ヨリ生シタル金錢ヲ貯蓄シ組合員ニシテ不得已事情アルトキハ借用人以外ニ逆帶責任者ヲ立テ貸付ヲ爲スコトアリ

此他鳥取縣西伯郡住吉村役場ハ凶荒豫備金積立方法ヲ出品セリ同村ハ明治九年五月ヨリ村民勤儉ヲ守リ同十八年迄十ヶ年間金穀ヲ積立テ凶荒豫備ニ充テタルモノニシテ現在金壹千五拾四圓大麥六拾石ヲ有ス

之ヲ要スルニ今回出品ノ方法ハ蓄積方法ニ於テハ各地方特殊ノ事情ニ從ヒ概ネ良好ナル成績ヲ得タリト雖モ其利殖及運用方法ニ至リテハ尙大ニ研究スヘキ餘地アルヲ見ル此點ニ於テハ愛知縣ノ勸農積德社ノ如キ一步ヲ進メタルモノニシテ不確實ニ陥ラサル程度ニ於テ最モ生産的運用方法ヲ講スヘキナリ

其五 職工勞働者等ノ管理法及成績

職工勞働者等ノ管理法及成績ニ付テハ僅ニ香川縣下津製燧所ノ職工管理法ノ出品アリタルノミニシテ甚タ寂寥ノ觀アリ而シテ該出品カ單ニ其管理法ヲ示シタルノミニシテ之カ實施

ノ成績ヲ共ニ出品セサリシハ洵ニ遺憾ナリ
同所ノ管理法ハ明治十九年ノ制定ニカ、リ分ツテ救助規定、役員勤績賞與規定、職工勤績割増賞與規定、投書規定、善行賞與規定、發明賞與規定、清潔法規定、罰則規則、貯金規定、職工心得、兒童保遊場規定、保母規定、構内共同店規定、保管規定、職工練習規定等ト爲シ皆略々正鵠ヲ得殊ニ勤績割増賞與規定、善行賞與規定、發明規定、練習規定等ハ職工ノ熟練生産費ノ減少ノ上ニ於テモ多大ノ利益アルヘク救助規定ノ實行ハヨク職工ノ危害ヲ防クコトヲ得ヘシ今左ニ創業以來ノ職工人員及同所成績ヲ示セハ左ノ如シ

明治十二年	十三年	十四年	十五年	十六年	十七年	十八年	十九年	二十年	二十一年	二十二年
全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全
九五二	一、八七一	七二三	一、四二五	一、六八七	一、一〇五	一、六四〇	八四〇	一、四三四	一、九〇〇	四、六六八
製造噸數										
二七、二八九	一一、三〇〇	一一、〇七六	一二、三六五	九、一六六	一〇、二八一	一一、〇八八	二四、七九〇			
輸出價格										
二五、四一八	一八、七五六	一六、〇九三	一六、一八九	一六、〇五八	四、四二三	一〇、七〇六	七、〇五六	六、九九四	一二、一六四	二〇、二九〇
内地販賣價格										
二七六	三九八	一九〇	二七七	三一二	一八〇	二四〇	二二一	二三四	二七六	四六〇
職工人員										

滋福石					
賀井川	一五四一				
		二二一			
			一七六一		
合宮大					
計崎分					
	四五二	一〇七			
			二〇四		
				六五五	一二七

四八二

而シテ業ヲ卒ヘ獨立自活スルモノ二百五十人目下救養セル孤兒二百三十八名ニシテ國家ニ
 貢獻スル所洵ニ大ナリト謂フヘク其設備方法亦出色ノ觀アリ

大阪府ノ汎愛扶植會ハ其成績圖三面ヲ出品セリ同會ハ去ル明治二十九年ノ創立以來育兒部
 幼稚園産業學校授業部ノ四部ヲ置キ遍ク孤獨不幸ノ者ヲ救濟シテ之ニ教育ト産業ヲ授ケ以
 テ獨立自營ノ道ヲ得セシメタル等功績洵ニ大ナリ而シテ其入會兒ノ總數二百二十九名現在
 四十四名ニシテ所屬府縣二十ニ及フ又退會兒中成績ノ善良ナル者ハ結婚者十五名養子三名
 獨立自活者十九名商業見習生十八名ニシテ家事退會者四十三名ナリ此救濟ノ趣天聽ニ達シ
 兩陛下ヨリ思召ヲ以テ金七百圓ヲ下賜セララル

東京感化院ハ同院沿革教養及組織統計同院平面圖及寫真ヲ出品シ以テ其成績ヲ示セリ同院
 ハ明治十八年十月ノ創立ニシテ家族組織ニヨリテ惡少年ヲ感化シ十八年間ニ收容セシモノ
 四百五十七名ニシテ府縣ノ數三十二亘リ現在四十五名ヲ有ス同院カ創立以來ヨリ不良少年
 ヲ感化シテ罪惡ノ源泉ヲ涸シ浮浪ノ徒ノ輩出ヲ未然ニ防キ社會ノ安寧ニ功アリシハ洵ニ賞
 揚スヘシ今同院出品ノ統計ニヨリ少年性行不良ノ原因其ノ他ノ百分比例ヲ擧クレハ左ノ如
 シ

少年性行不良ノ原因

愛情ノ過度	二五二
朋友ノ不良	一六〇
冷淡ナル教育	一三七
地方風俗ノ不良	三八
苛酷ナル教育	一九
家庭教育ノ不完全	一三九
遺傳ノ不良	四〇
無教育	〇六
生母ノ不良	三〇
妾腹ニ生レシ子	一三三
不詳	一六〇
合計	一〇〇〇

養育者ノ百分比例

父母	四三四
父	六二二
母	一二四
合計	四八三

繼母	一六三
祖父母又ハ親戚	一五七
他人	三一
孤兒	二九
合計	一〇〇〇
不良少年ノ教育程度百分比例	
中學相當	二五、六
高等小學相當	三三、二
尋常小學	二七、三
僅ニ文字ヲ解ス	九、五
自己ノ姓名ヲ書ク	二、八
一丁字ナキ	一、二、六
合計	一〇〇、〇

静岡縣ノ東海訓盲院ハ同院一覽ヲ出品セリ同院ハ明治三十一年創立以來管ニ縣下ノミナラズ近縣ノ盲人ヲモ教育シ進歩著シク既ニ三回ノ卒業者ヲ出シテ世ヲ益スルコト尠カラズ尙救恤事業ニ付テハ秋田縣川村養助ノ出品アリ同人ハ明治十六年一月以來廢疾老衰幼弱貧困者ヲ救恤スルコト男女合計四千百餘人明治二十六年其功績天聽ニ達シ金五十圓下賜永ク

濟貧ノ實ヲ顯ハサシメ給ヒ益奮勵救恤事業ノ爲ニ努力シ基本財産二萬圓ニ近ク功勞特ニ賞スヘシ
鳥取縣ノ獎惠社ハ獎惠社事蹟ヲ出品セリ同社ハ明治十五年三月二十七日ノ創立ニシテ爾來慈善事業ヲ經營シ救助シタル貧民二千五百二十一人ニシテ其給與ノ金穀ハ米百四十石一斗二升金百參拾四圓貳拾壹錢四厘ニ及ヒ又戰役其他ノ場合ニ於テ軍隊ノ爲ニ支出シタル金額四千五百參拾六圓貳拾參錢貳厘ニ及ヒ尙附帶事業トシテ倉庫業ヲ營メリ

第九部第五十五類ニ於テ擬賞シタルモノ左ノ如シ

品名	擬賞	出品人住所	出品人氏名
海運事業	名譽金牌	東京市麴町區有樂町	日本郵船株式會社
羽二重産額高低表	名譽金牌	福井縣福井市佐佳枝町	福井絹織物同業組合
鐵道運輸事業	名譽金牌	東京府	日本鐵道株式會社
鐵道運輸事業	名譽金牌	福井縣	九州鐵道株式會社
鐵道運輸事業	名譽金牌	兵庫縣	山陽鐵道株式會社
鐵道運輸事業	名譽銀牌	東京市日本橋區佐內町	內國通運株式會社
鐵道運輸事業	名譽銀牌	大阪市北區富島町	大阪商船株式會社
鐵道運輸事業	名譽銀牌	大阪市西區幸町通	大冨家七平
鐵道運輸事業	名譽銀牌	北海道	北海道炭礦鐵道株式會社

城丹蠶業講習所規則 外八點	一等賞牌	京都府何鹿郡綾部町	城丹蠶業講習所
京都府農會組織及成績	一等賞牌	京都府葛野郡桂村	京都府農會
堂島米商沿革 外十點	一等賞牌	大阪府北區堂島濱通	株式會社大阪堂島米穀取引所
龍野醬油釀造成績	一等賞牌	神奈川縣橫濱市海岸通	東洋汽船株式會社
千葉縣農會事蹟	一等賞牌	兵庫縣榎保郡龍野村	龍野醬油釀造同業組合
安原村々是調査成績書	一等賞牌	千葉縣千葉郡千葉町	千葉縣農會
岡山孤兒院現況一覽 附同院寫真	一等賞牌	石川縣金澤市廣阪通	石川縣孤兒院
余土村々是	一等賞牌	岡山縣岡山市門田屋敷	岡山縣孤兒院
八女郡是同附錄 事業成績	一等賞牌	愛媛縣溫泉郡余土村	溫泉郡余土村
石炭標本及統計表類	一等賞牌	福岡縣八女郡	田中慶助
海道運業	一等賞牌	福岡縣遠賀郡若松町	筑豐石炭礦業組合
鐵道運輸事業	一等賞牌	大阪府西區江ノ子島東之町	廣海二三郎
肥後米輸出同業組合成績並米及俵	一等賞牌	大阪府豊能郡池田町	阪鶴鐵道株式會社
東京彫工會成績及統計	二等賞牌	熊本縣飽託郡春日村	肥後米輸出同業組合
織物產額統計地圖	二等賞牌		東京彫工會
東京集散米統計及價格表	二等賞牌		大日本織物協會
農事調查書	二等賞牌		東京廻米問屋市場
京都府博覽會沿革誌	二等賞牌		新宿町農會
相樂郡農會補助規程	二等賞牌		京都府博覽協會
大阪風土篇 外十二點	二等賞牌		相樂郡農會
			大阪府立一等測候所

大日本綿絲紡績同業聯合會ノ組織及成績	二等賞牌	大阪市東區伏見町	大日本綿絲紡績同業聯合會
創立以來統計 外五點	二等賞牌	大阪市東區北濱	株式會社大阪株式取引所
千葉郡農會事蹟	二等賞牌	千葉縣千葉郡千葉町	千葉郡農會
枇杷島蔬菜市場ノ組織及成績	二等賞牌	愛知縣西春日井郡西枇杷島町	青物問屋業組合
長野縣下副產物調查書 外三點	二等賞牌	長野縣長野市旭町	長野縣農會
石川縣河北郡統計書 外一點	二等賞牌	石川縣河北郡津幡町	石川縣河北郡役所
佐川町是	二等賞牌	高知縣高知市	高知縣農會
伊豫織物改良組合定款 外一點	二等賞牌	愛媛縣松山市松前町	伊豫織物改良組合
下津製糖所業務規定	二等賞牌	香川縣高松市三番町	下津製糖所
日本菓物會成績	二等賞牌	兵庫縣津名郡吉波村	日本菓物會
石油標本及統計表等	二等賞牌	新潟縣古志郡長岡町	長岡礦業會議所
宮崎縣米商同業組合成績並米俵	二等賞牌	宮崎縣宮崎郡宮崎町	宮崎縣米商同業組合聯合會
京都府教育會沿革誌 外一點	三等賞牌	京都市上京區間之町姉小路	京都府教育會
汎愛扶植會成績表	三等賞牌	大阪府東成郡生野村	汎愛扶植會
別子山氣象圖 外八點	三等賞牌	大阪府南區鰻谷東之町	住友吉左衛門
農家經濟調查書	三等賞牌	大阪府西區江ノ子島	大阪府農會
生命保險統計掛圖 外五點	三等賞牌	大阪市東區今橋	日本生命保險株式會社
高低相場表 外四點	三等賞牌	大阪市東區北久太郎町	株式會社大阪三品取引所
兵庫實業補習學校統計表	三等賞牌	兵庫縣神戶市永澤町	兵庫縣實業補習學校
神戶氣象觀測成績圖 外四點	三等賞牌	兵庫縣神戶市	兵庫縣神戶測候所
氷上共同社組織管理法及成績	三等賞牌	兵庫縣氷上郡佐治村	氷上共同社

鹿野村	西野村	河合村	東海村	勝間田村	金田村	日生野村	横田村	累年平均氣象圖	山形縣氣象圖	鹽井村	感化事業ノ方法及成績	今富村	松原村	上庄村	大下關村
々	々	々	々	々	々	々	々	外二點	外一點	々	是成績	是報	是會	是村	是村
褒	褒	褒	褒	褒	褒	褒	褒	褒	褒	褒	褒	褒	褒	褒	褒

愛知縣春日井郡西枇杷島町	愛知縣幡豆郡西尾町	愛知縣額田郡河合村	靜岡縣小笠原郡掛川町	靜岡縣榛原郡川崎町	滋賀縣大津市松本町	岐阜縣岐阜市今泉	長野縣長野市縣町	長野縣上高井郡日野村	宮城縣名取村生出村	福島縣廳內	岩手縣下閉伊郡宮古町	青森縣青森市大字寺町	山形縣山形市旅籠町	山形縣東田川郡廣瀨村	山形縣南置賜郡米澤市屋代町	秋田縣秋田市檜山下濱町	福井縣遠敷郡今富村	福井縣敦賀郡松原村	福井縣足羽郡上文珠村	福井縣大野郡下庄村	福井縣坂井郡大關村
--------------	-----------	-----------	------------	-----------	-----------	----------	----------	------------	-----------	-------	------------	------------	-----------	------------	---------------	-------------	-----------	-----------	------------	-----------	-----------

西春日井郡農會	幡豆郡農會	河合村農會	東海村農會	榛原郡農會	滋賀縣農會	岐阜縣農會	長野縣農會	長野縣農會	宮城縣農會	福島縣農會	生野村農會	日出村農會	私立青森縣教育會	山形縣農會	東田川郡農會	南置賜郡農會	川敷郡農會	遠原郡農會	松原村農會	足羽郡農會	下庄村農會
---------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	----------	-------	--------	--------	-------	-------	-------	-------	-------

獎惠社事業附獎惠合資會社事業	境氣象圖	凶荒豫備金積立方法	美保村	山上村	湖山村	高麗村	登米村	瑞穂村	來島農事調查書	氣象統計圖	米作期中氣象比較表	大野村	愛媛縣特有農作物要覽	盤菜同業組合定款並諸規程	東宮水村	友枝村	福岡縣學事概覽	筑紫郡	太宰府町	那珂村	
外三點	外三點	外三點	是	是	是	是	是	是	是	是	是	是	是	是	是	是	是	是	是	是	是
褒	褒	褒	褒	褒	褒	褒	褒	褒	褒	褒	褒	褒	褒	褒	褒	褒	褒	褒	褒	褒	褒

鳥取縣東伯郡橋津村	鳥取縣西伯郡境町	鳥取縣西伯郡住吉村	鳥取縣岩美郡美保村	鳥取縣日野郡山上村	鳥取縣高麗郡湖山村	鳥取縣西伯郡高麗村	鳥取縣八頭郡登米村	鳥取縣東伯郡瑞穂村	鳥取縣松江市中原	岡山縣岡山市西中山下	廣島縣廣島市	和歌山縣和歌山市	香川縣香川郡役所內	愛媛縣松山市千船町	高知縣高知市帶屋町	福岡縣山門郡柳川町	福岡縣築上郡八室町	福岡縣福岡市荒戸町	福岡縣築紫郡那珂村	福岡縣築紫郡那珂村	福岡縣築紫郡那珂村
-----------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	----------	------------	--------	----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------	-----------

獎惠社	鳥取縣西伯郡住吉村役場	美保村農會	山上村農會	湖山村農會	高麗村農會	登米村農會	瑞穂村農會	來島農會	氣象統計圖	米作期中氣象比較表	大野村農會	愛媛縣特有農作物要覽	盤菜同業組合	東宮水村農會	友枝村農會	福岡縣學事概覽	筑紫郡農會	太宰府町農會	那珂村農會
-----	-------------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	-------	-----------	-------	------------	--------	--------	-------	---------	-------	--------	-------

笠原村	友川村	北川村	三星村	北野村	羽野村	吉井村	江井村	福富村	浮羽村	椿子村	大山村	大石村	治石村	主丸村	分村	越村	船越村	水野村	竹野村	柴川村
是	是	是	是	是	是	是	是	是	是	是	是	是	是	是	是	是	是	是	是	是
狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀
福岡縣八女郡笠原村	福岡縣八女郡友川村	福岡縣八女郡北川村	福岡縣八女郡三星村	福岡縣八女郡北野村	福岡縣八女郡羽野村	福岡縣浮羽郡吉井村	福岡縣浮羽郡江井村	福岡縣浮羽郡福富村	福岡縣浮羽郡椿子村	福岡縣浮羽郡大山村	福岡縣浮羽郡大石村	福岡縣浮羽郡治石村	福岡縣浮羽郡主丸村	福岡縣浮羽郡分村	福岡縣浮羽郡越村	福岡縣浮羽郡船越村	福岡縣浮羽郡水野村	福岡縣浮羽郡竹野村	福岡縣浮羽郡柴川村	福岡縣浮羽郡劉村

笠原村	友川村	北川村	三星村	北野村	羽野村	吉井村	江井村	福富村	浮羽村	椿子村	大山村	大石村	治石村	主丸村	分村	越村	船越村	水野村	竹野村	柴川村
農	農	農	農	農	農	農	農	農	農	農	農	農	農	農	農	農	農	農	農	農
會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會

官廳出品

西國東郡町村文字力調査表	積金事業ノ方法及成績	貯蓄ノ方法及成績	旭村々々	中白村々々	野田村々々	山前村々々	氣象ト米作トノ關係	九州沖繩氣象圖	直入郡製紙組合規約書	女子勞働鬼石統計表
表	表	表	表	表	表	表	表	表	表	表
狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀	狀
大分縣西國東郡玉津村	大分縣北海郡一尺屋村	大分縣大分郡別保村	大分縣大分郡東庄內村	大分縣東國東郡旭村	大分縣北海郡白杵町	鹿兒島縣鹿兒島市	栃木縣宇都宮市	佐賀縣佐賀市赤松町	熊本縣熊本市京町	大分縣直入郡玉來村

海軍省出品

西國東郡教育會	積金協同組合	五厘	大分縣大分郡東庄內村役場	大分縣東國東郡旭村	北海郡農會	鹿兒島縣農會	栃木縣農會	佐賀縣農會	熊本縣農會	直入郡製紙組合	女子勞働鬼石統計表
會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會

第九部第五十五類ニ屬スヘキ官廳出品中其主ナルモノヲ掲クレハ左ノ如シ

一、海軍兵學校生徒府縣別明治三十六年一月調

本圖表ハ一學年、二學年、三學年及各學年合計ニ四分シ十人宛ニ分度セルモノニシテ東京ハ六十人以上ヲ示シ佐賀縣ハ四十人以上ヲ示シ山口縣ハ第三位ニシテ三十五人ヲ示シ第四位鹿兒島廣島トモ十人以上ナリ本表ニ由テ海軍ノ高等教育ヲ受クル地方ヲ明カニ一覽シ得ヘシ

二、海軍機關學校統計

全

本統計ハ三十六年一月ノ調査ニシテ一學年、二學年、三學年、四學年及各學年合計ノ五種ニ分ツ東京ハ約四十五人石川ハ二十人ニ近ク山口ハ十五人佐賀ハ十四人十人以下ノ重ナルモノハ鹿兒島、熊本、山形、宮城、靜岡、三重、千葉等ナリ又以テ高等軍事教育ノ地方別一斑ヲ知ルニ必要ナリ

英佛獨露伊西清韓國語區域圖明治三十六年一月調

東京外國語學校出品

本圖ハ現ニ同校ニ於テ教授セル各國語ヲ使用セル區域ノ大略ヲ記セルモノニシテ色別ヲ以テ一目シテ識ルヲ得ヘシ大圖製ニシテ其言語區劃ノ範圍上ヨリ列強ノ如何ナル方面ニ事業ヲ企畫シツ、アルカヲ知ルヲ得ヘシ世界ニ於ケル言語ノ趨勢ヲ知ルニ便ナリ

文部省出品

公立學校教員身長體重胸圍體格視力統計圖
本圖ハ公立學校教員ヲ二十歳以下、廿一—廿五、廿六—卅、卅一—卅五、卅六—四〇、四十一—四十五、四十六—五〇、五十一—五十五、五十六—六〇、及六〇以上ノ十期ニ分チ男女各時期ニ於ケル身長、體重、胸圍及體格等ノ如何ナル狀態ニ在ルヤヲ示シタルモノニシテ先身長ニ於テハ第一期ヨリ第五期ニ至ル迄左程ノ變動ナク少數ノ變動ハ男子ニ於テ之レヲ見ルニ反シ第六期ノ中葉即四十三歳ノ頃ニ至リテ女子ノ身長非常ニ高シ更ニ第七期ノ中葉ヨリ第八期ニ至ルモノハ短縮シ復々伸長スル等非常ノ劇變ヲ示シ又之レカ體重ヲ見ルニ第一期ニ在リテハ男女ノ差僅ニ二基半ニシテ第二期ニ至リ男子ハ俄然三基ノ増加

ヲ爲シ女子ニ於テハ其波動多カラス而シテ男子ニ於ケル體重ノ最高期ハ第七期ニ在リ女子ニ在リテハ第五期即チ三十六—四〇ノ間ニ於テ體重最モ大ナリ胸圍ニ付テハ男女ノ差第一期ニ於テハ三糎ニシテ略々増減ノ時期ヲ同ウシ體格ニ付テ見ルニ第一期ニ於テハ男女殆ント同一ニシテ漸次女子ニ薄弱及中等ナル體格ノモノ多キニ至ル而シテ強健ナルモノ多キ時期ノ二十一—二十五ノ間ナルハ男女其趨キヲ一ニス

更ニ之ヲ視力ニ見ルニ第一期ニ於テハ男女正視者ノ割合殆ント同一ニシテ第二期以後ニ於テハ男子ハ女子ニ劣ルコト數等ナリ

之ヲ要スルニ教育者ノ體格強健ナラサルヲ嘆スルノ聲漸ク高キ時ニ方リ此種ノ統計ハ學校衛生上多大ノ効果ヲ收ムル蓋シ疑ヒナケン

全

官公私立學校表(明治三十四年調査)

本表ハ小學、校、盲啞學校、師範學校、高等師範學校、中學校、高等女學校、高等學校、帝國大學、專門學校、實業學校(實業教員養成所ヲ含ム)及其他各種學校ニ付之ヲ官立、公立、私立ニ分チテ學校數、教員數、學生、生徒、兒童及卒業者ノ數ヲ示シタルモノニシテ一見我カ國教育ノ如何ナル狀態ニ在ルカヲ知ルニ便ナリ而シテ更ニ之ヲ其學校數、教員數、學生、生徒、兒童及卒業者ノ總計ニ付明治三十年ヨリ三十三年ニ至ル四年間ノ累年比較ヲ表ハシ以テ一層觀者ノ印象ヲ明瞭ナラシメタル用意大ニ見ルヘシ今其ノ増加ノ如何ニ速カナルヲ示サンカ爲

左ニ三十年及三十三年ノ計數ヲ抄出セン

學校數	三十年	三十三
教員數	二八、四五二	二八、八六二
學生生徒及兒童	八七、八五五	一〇六、一二七
卒業者	四、一六八、七一七	四、九二五、六七三
人口一萬ニ付公私立中等實業學校生徒道廳府縣比較圖	五七三、七九六	七八八、八八四

本圖ハ公私立實業學校工業學校甲種程度ノ農業山林蠶業工業獸醫水産等ヲ教授スル各學校ノ位置ヲ本邦地圖中ニ挿入シ彩色ヲ施セル種々ナル符號ニテ其位置ヲ示シ且ツ其圓内ニ單線交線ヲ以テ其生徒ノ人口一萬ニ付キ二人未滿二人以上四人未滿四人以上六人未滿六人以上八人未滿八人以上十人未滿等ヲ示セリ實業教育ノ如何ナル地方ニ隆盤ニシテ又如何ナル地方ノ微々タルヤヲ知ルニ便ナリ

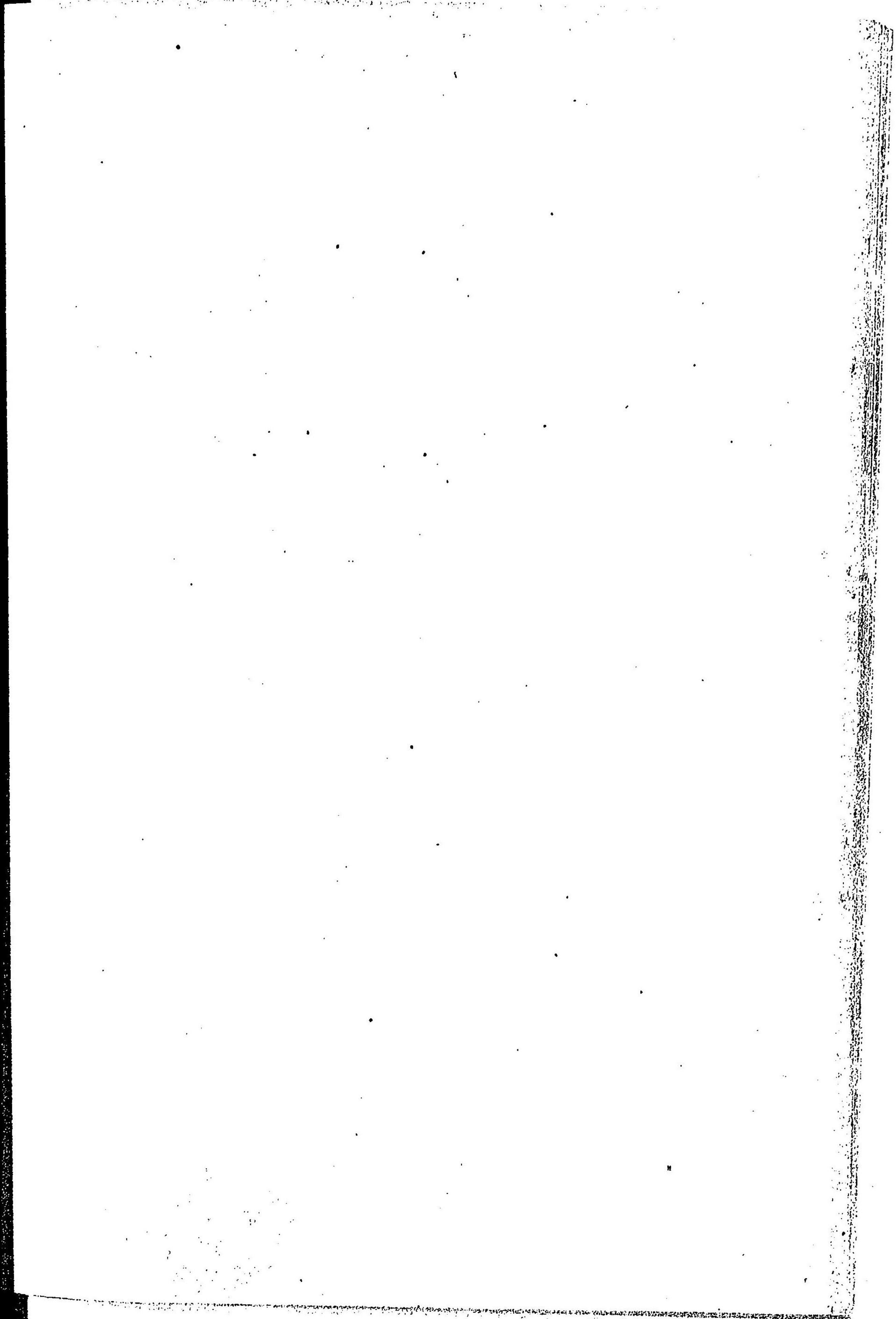
教育費累年比較圖(經常及臨時費)

本圖ハ國庫府縣郡市町村ノ各年度ニ於ケル經費ノ支出ヲ各彩色ニテ顯ハン各年度支出額ノ合計ヲ出シ且ツ表中五拾萬圓ツ、ニ一線ヲ畫シ計算シ易カラシム日清戰爭後ヨリ三十四年ニ至ルノ間順次其金額ヲ増加シ來リ教育事業ノ擴張セラレタルコトヲ費額ノ上ニ於テ明示セリ教育費ノ累年ノ比較ヲ知ルニ至テ簡明ナリ

全

日歐兒童發育比較曲線表

本表ハ日歐兒童五六歳ヨリ十六七歳ニ至ル間ノ男女身身長ノ發達ヲ曲線ノ符號ニテ比較セルモノニシテ其年齡ノ進ムニ從ヒ身重ト身長トノ發達増減ノ關係ヲ知リ兒童身體ノ發達上注意スヘキ時期ヲ示セリ日歐兒童ノ同年齡者ニシテ男女共ニ相對比シテ其身體ノ教育上ノ差違アルコトヲ知ルニ必要ナリ

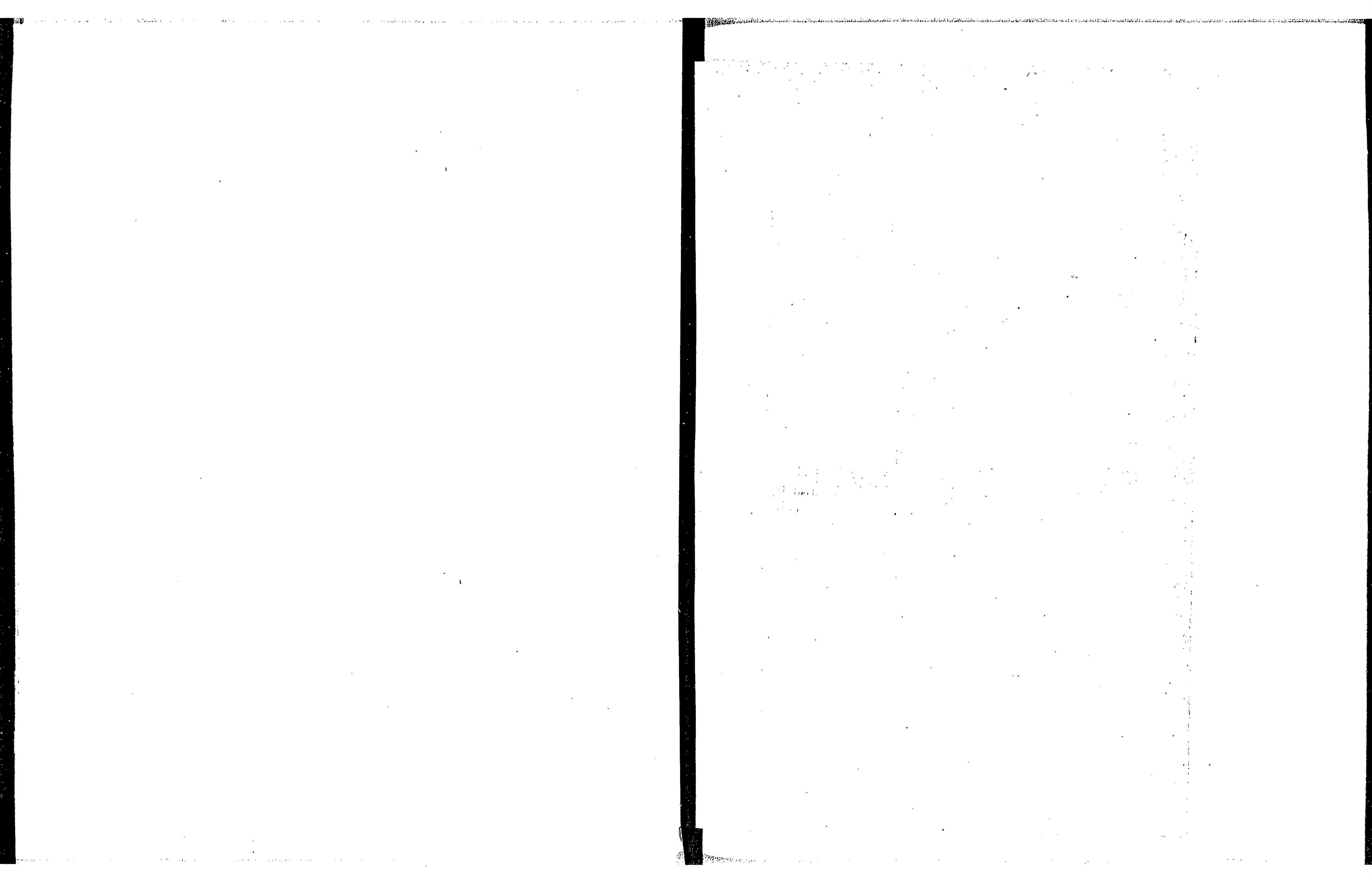


官 公 立 私 立 學 校 表

(明治三十三年四月四年)

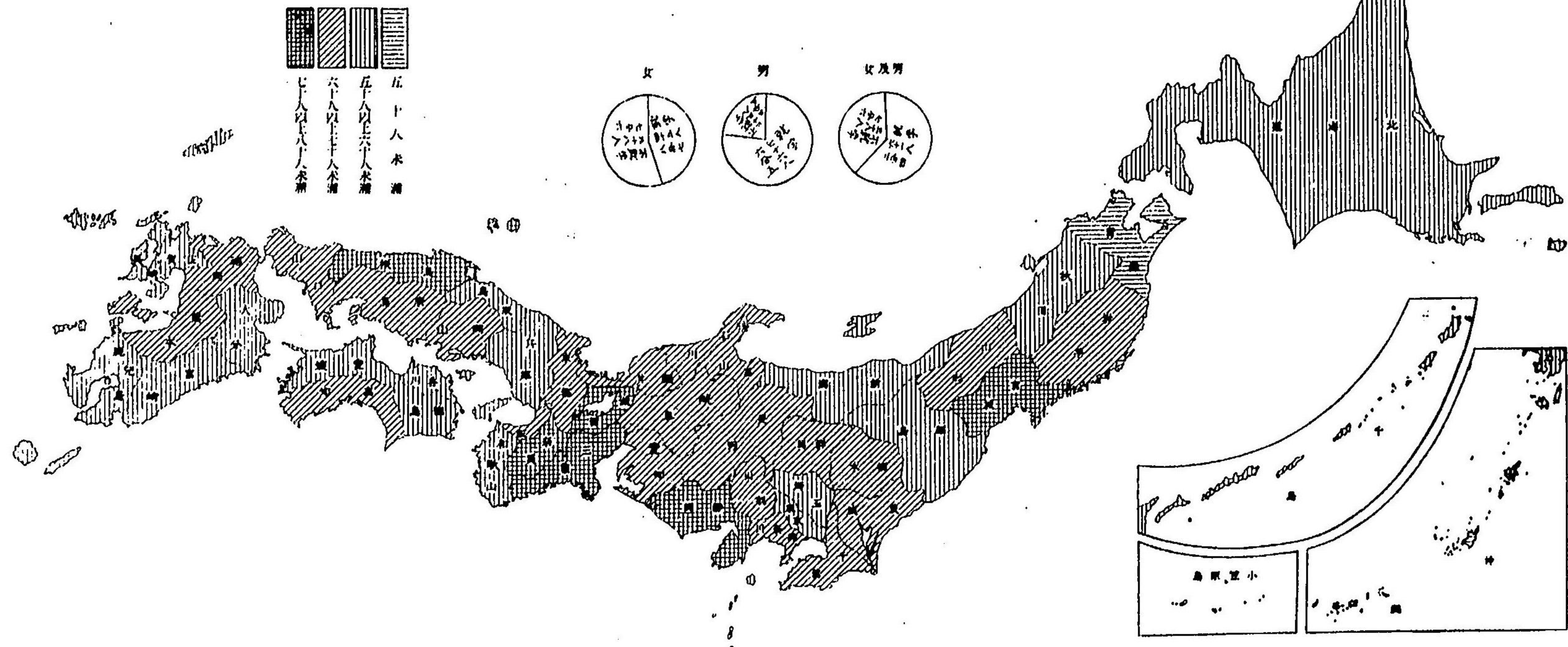
校名	學 校										總計	明治三十三年	同三十二年	同三十一年	同三十年	
	小學校	盲啞學校	師範學校	高等師範學校	中學校	高等女學校	高等學校	帝國大學	專門學校	實業學校						各種學校
學 校	官立	3,698	1	5,500	2	3,000	1	1,000	27	1,100	1,466	1,466	1,466	1,466	1,466	1,466
	公立	2,658	1	5,500	2	3,000	1	1,000	27	1,100	1,466	1,466	1,466	1,466	1,466	1,466
	私立	3,698	1	5,500	2	3,000	1	1,000	27	1,100	1,466	1,466	1,466	1,466	1,466	1,466
教 員	官立	1,015	1	1,015	1	1,015	1	1,015	1	1,015	1,015	1,015	1,015	1,015	1,015	1,015
	公立	1,015	1	1,015	1	1,015	1	1,015	1	1,015	1,015	1,015	1,015	1,015	1,015	1,015
	私立	1,015	1	1,015	1	1,015	1	1,015	1	1,015	1,015	1,015	1,015	1,015	1,015	1,015
學 生 生 徒 及 兒 童	官立	109,800	3	109,800	3	109,800	3	109,800	3	109,800	109,800	109,800	109,800	109,800	109,800	109,800
	公立	109,800	3	109,800	3	109,800	3	109,800	3	109,800	109,800	109,800	109,800	109,800	109,800	109,800
	私立	109,800	3	109,800	3	109,800	3	109,800	3	109,800	109,800	109,800	109,800	109,800	109,800	109,800
卒 業 者	官立	4,500	1	4,500	1	4,500	1	4,500	1	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500
	公立	4,500	1	4,500	1	4,500	1	4,500	1	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500
	私立	4,500	1	4,500	1	4,500	1	4,500	1	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500	4,500

備考 本表ニ官立ト云フハ文部省直轄學校ニシテ其實業學校ノ欄ニハ實業教員養成所ニ係ルモノヲ計入セリ○明治三十三年以前ノ學校、教員、學生生徒ハ曆年末、卒業者ハ曆年間ノ調査ニシテ同三十三年、三十四年ノ學校教員ハ各其翌年三月末日、學生生徒ハ同三月一日、卒業者ハ各其年四月一日ヨリ翌年三月末日ニ至ル間ノ調査ナリ

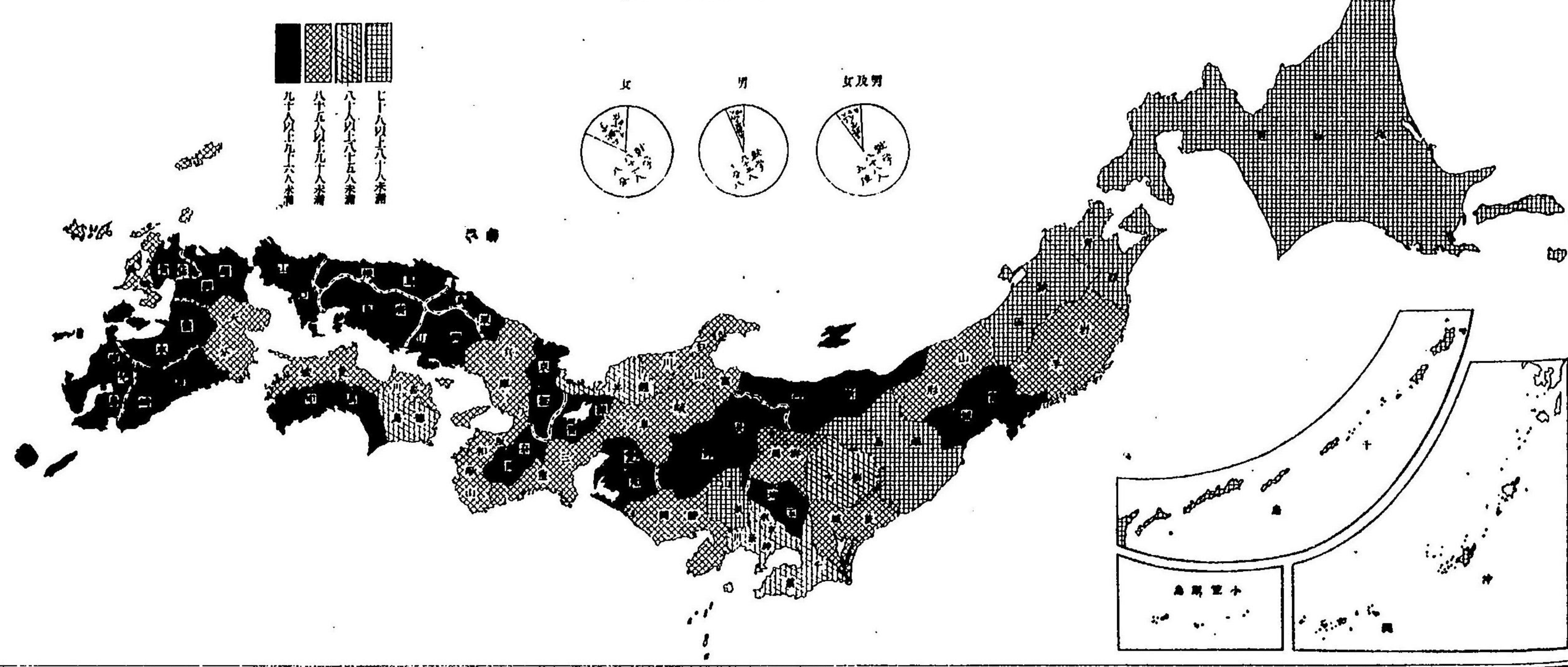


學齡兒童百人中就學道廳府縣比較圖

明治二十八年三月十一日

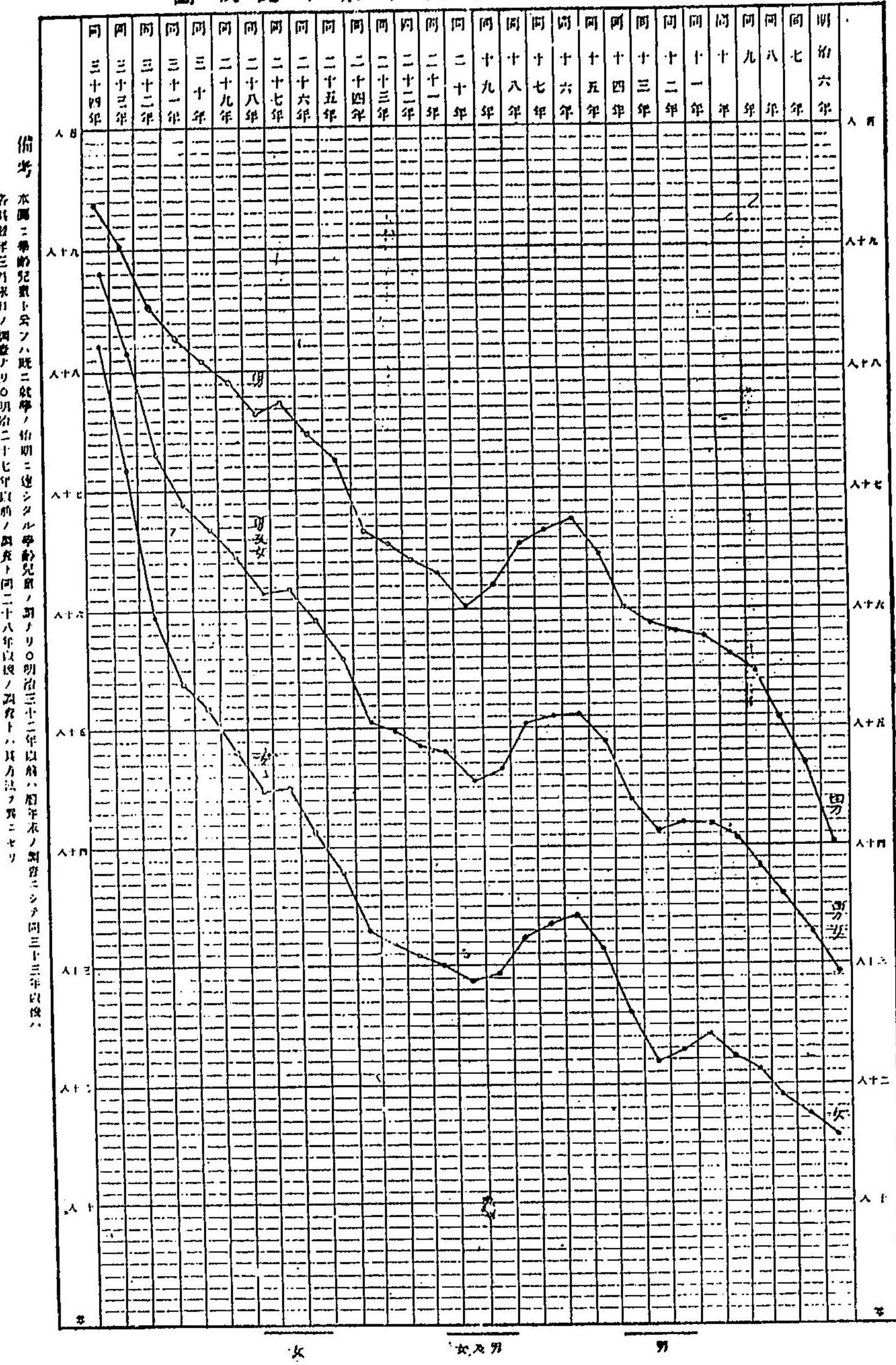


明治三十五年三月十一日



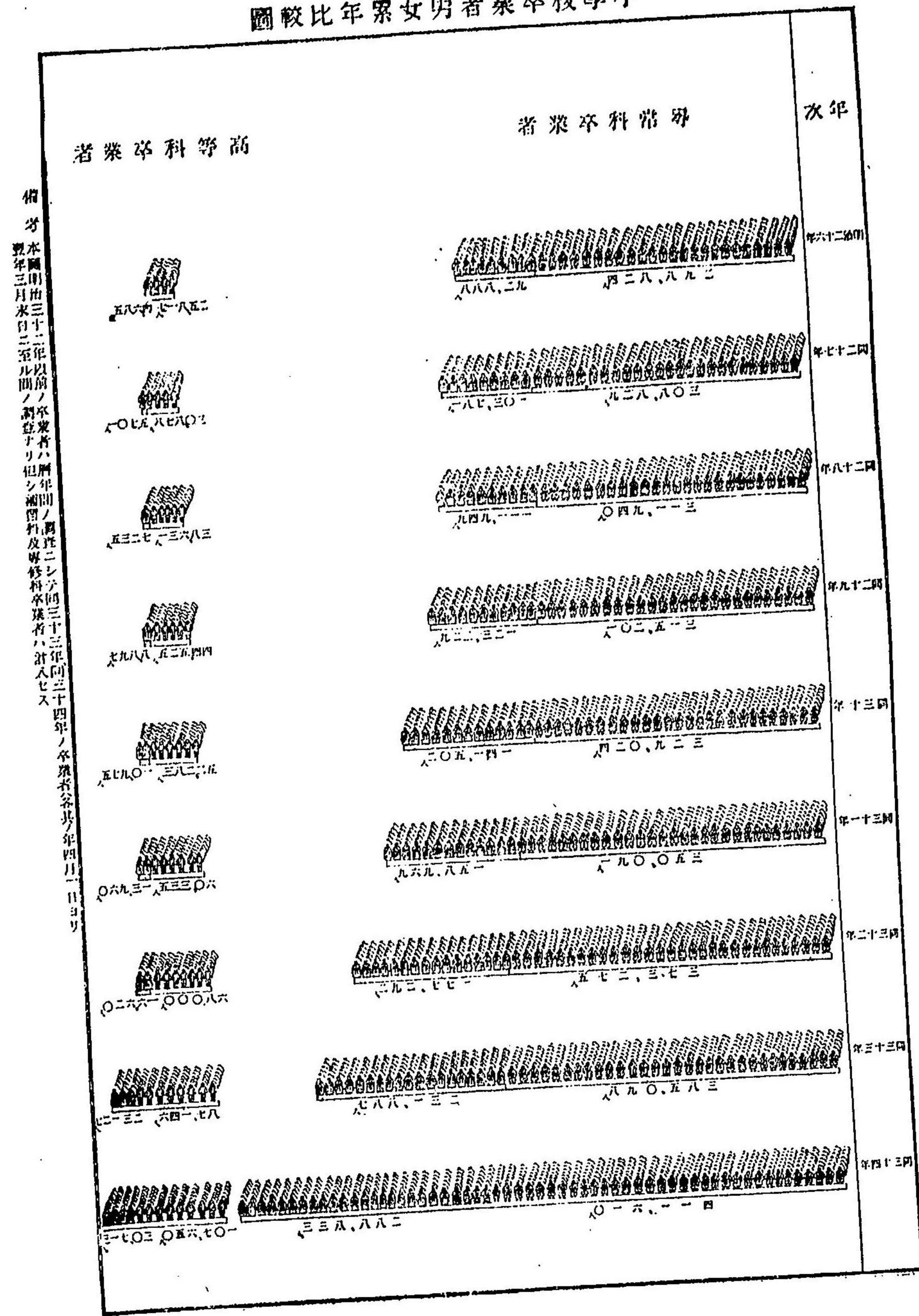
備考 本圖ニ學齡兒童ト云フハ既ニ就學ノ始期ニ達シタル學齡兒童ノ調ナリ

學齡兒童入學率年比較圖



備考 本圖ニ學齡兒童ト云フハ既ニ就學ノ時期ニ達シタル學齡兒童ノ謂ナリ明治三十二年以前ハ前年ノ調査ニシテ明治三十三年以後ハ各年度三月末日ノ調査ナリ明治二十七年以前ノ調査ハ同二十八年以後ノ調査ト其方法ヲ異ニセリ

圖較比年累女男者業卒校學小



備考
 本圖は、昭和十一年三月三十一日以前に卒業したる男女児童の数を示す。但し、昭和十一年四月一日以前に卒業したる児童の数は、昭和十一年の統計に計入せらる。

圖較比縣府廳道徒生校學中立私公付 = 萬一口人

二十人以上二十五人未滿	十五人以上二十人未滿	十人以上十五人未滿	十人未滿
-------------	------------	-----------	------

○ 私立中學校
● 公立中學校

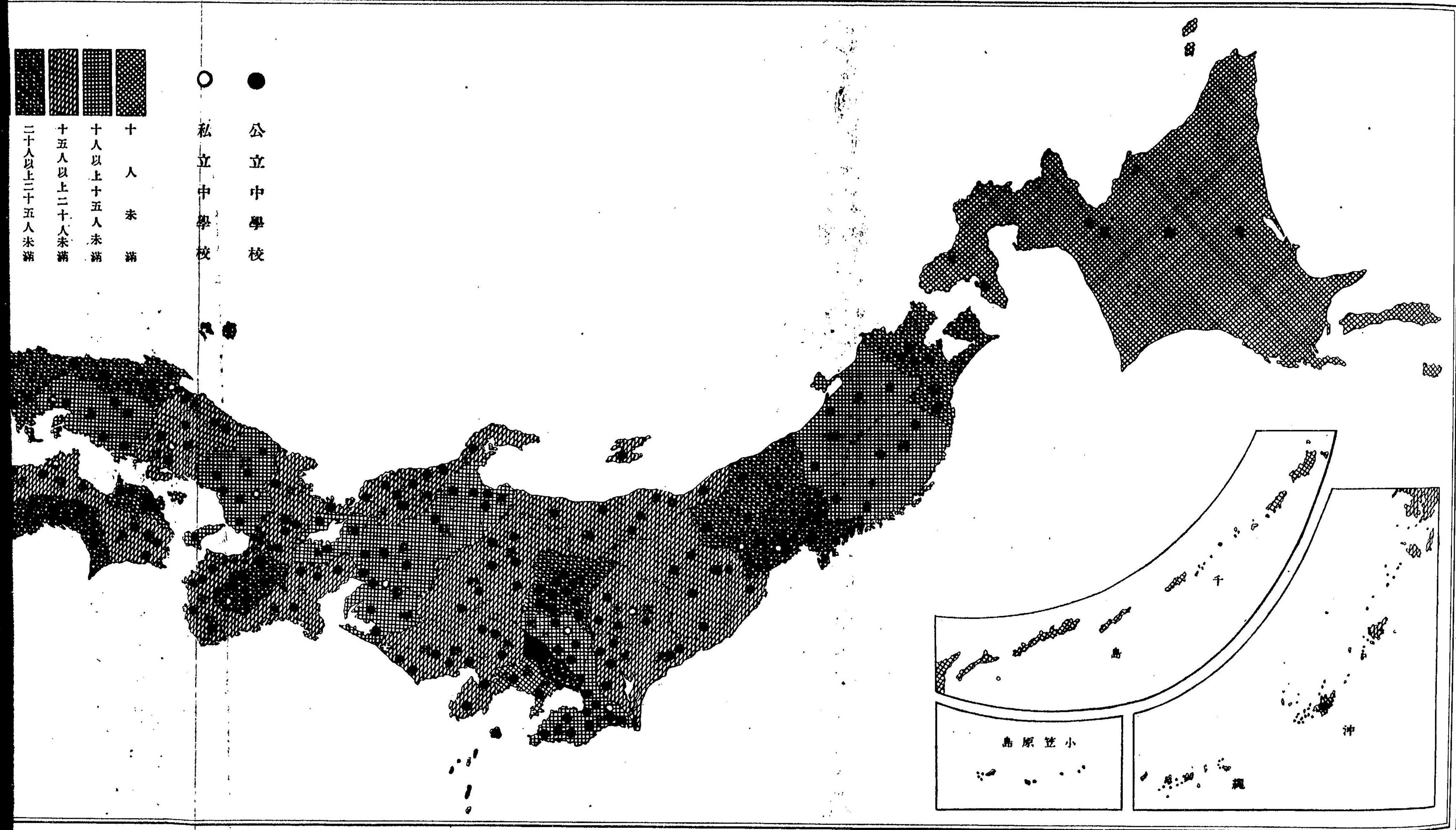
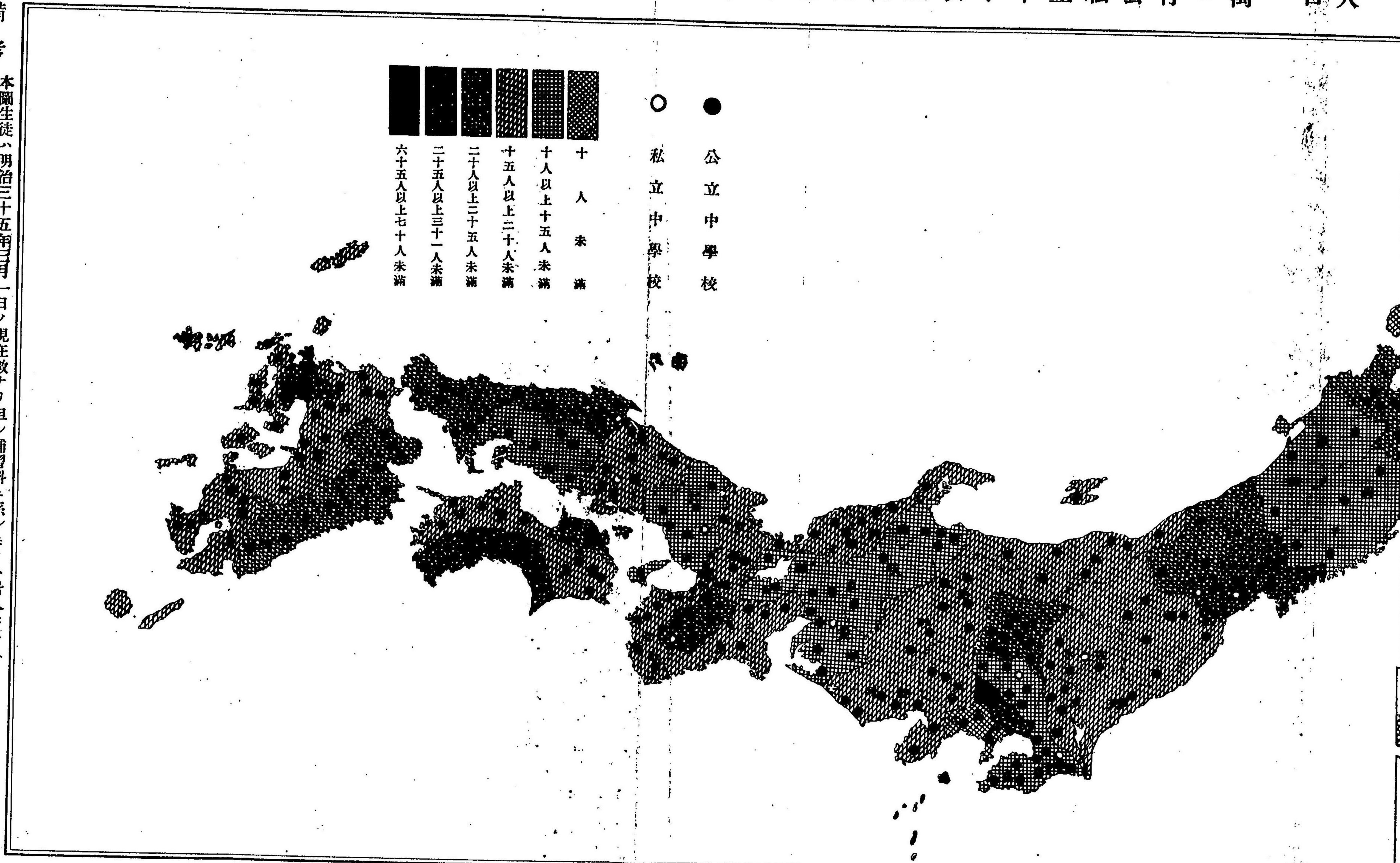


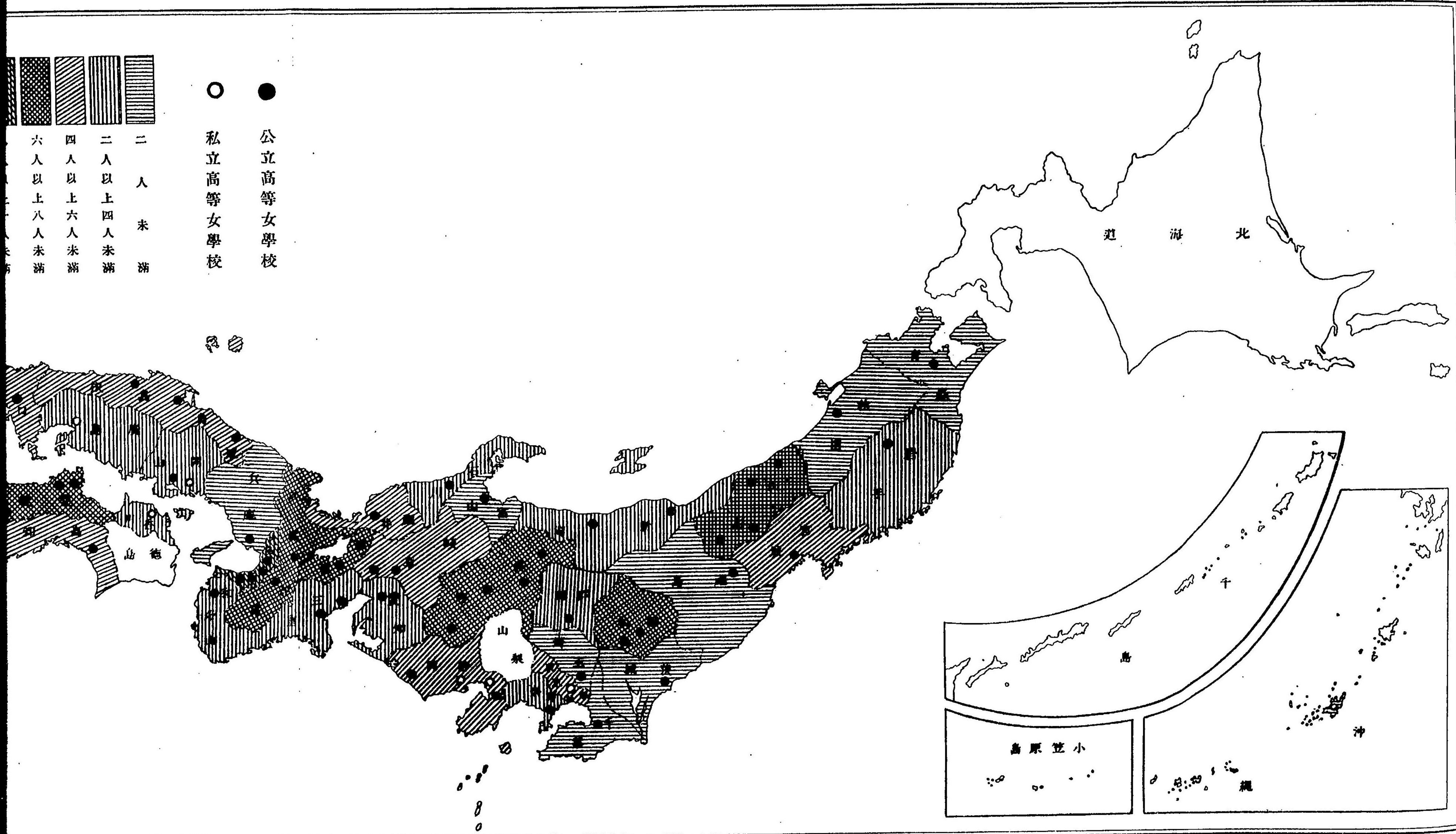
圖 較 比 縣 府 廳 道 徒 生 校 學 中 立 私 公 付 = 萬 一 口 人

備 考

本圖生徒ハ明治三十五年三月一日ノ現在數ナリ但シ補習科ニ係ルモノハ計入セス人
口ハ同三十四年十二月末日ノ現住人口、學校數ハ同三十五年三月末日ノ調査ナリ



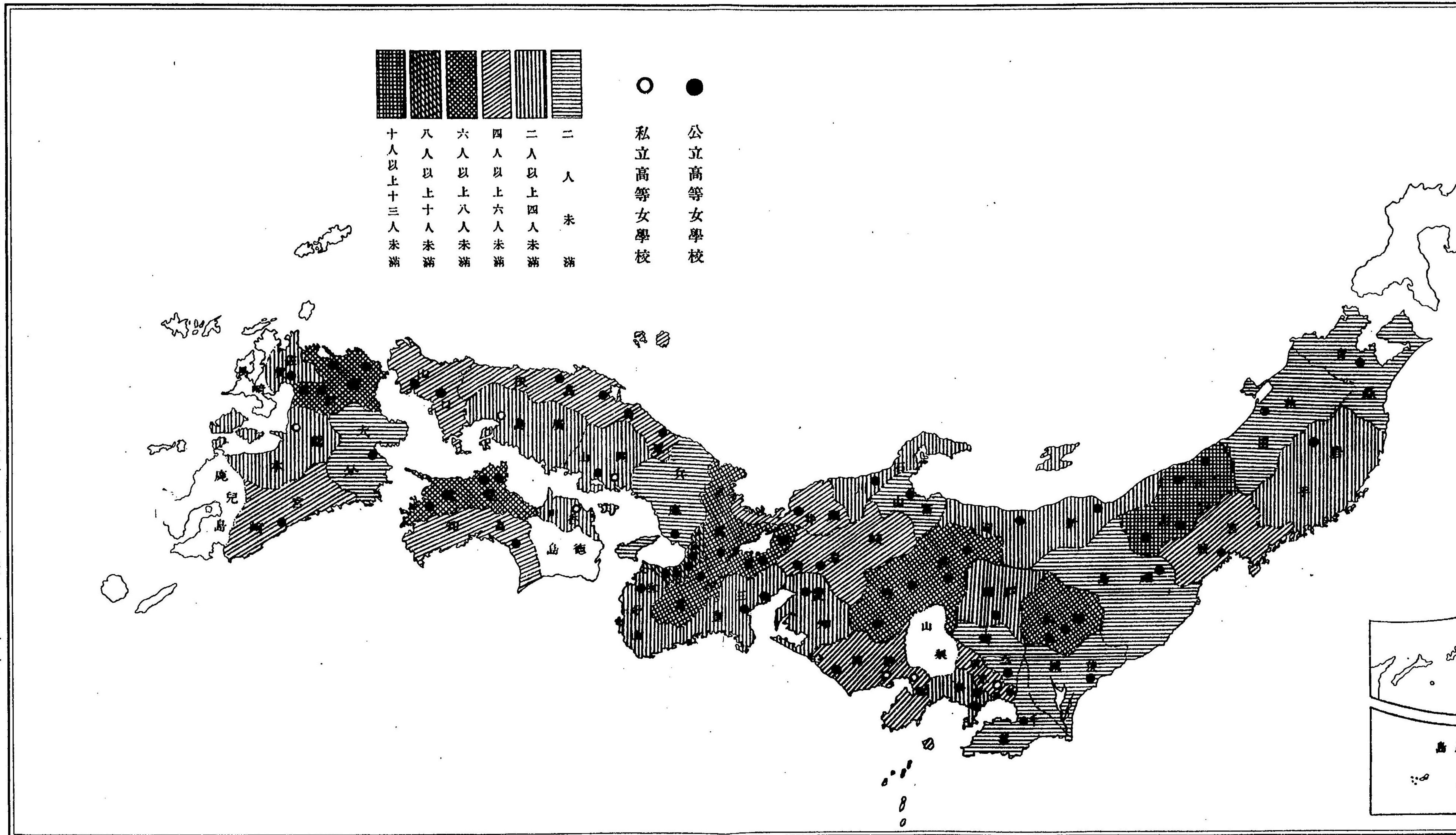
圖較比縣府廳道徒生校學女等高立私公付二萬一口人



圖較比縣府廳道徒生校學女等高立私公付 = 萬一口人

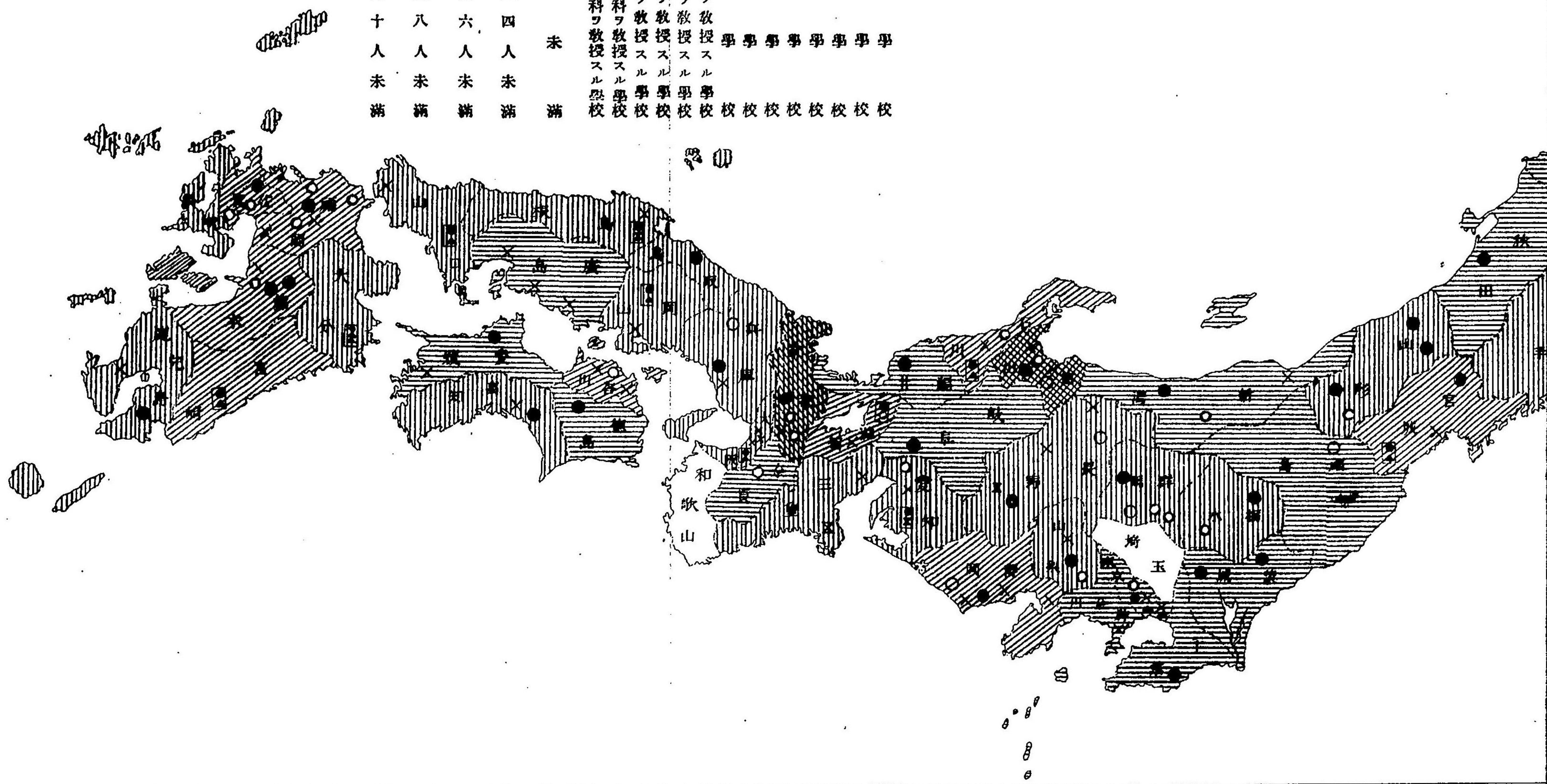
備考

本圖生徒ハ明治三十五年三月一日ノ現在數ナリ但シ專攻科及補習科ニ係ルモノハ計入セ
ス人口ハ同三十四年十二月末日ノ現住人口、學校數ハ同三十五年三月末日ノ調査ナリ

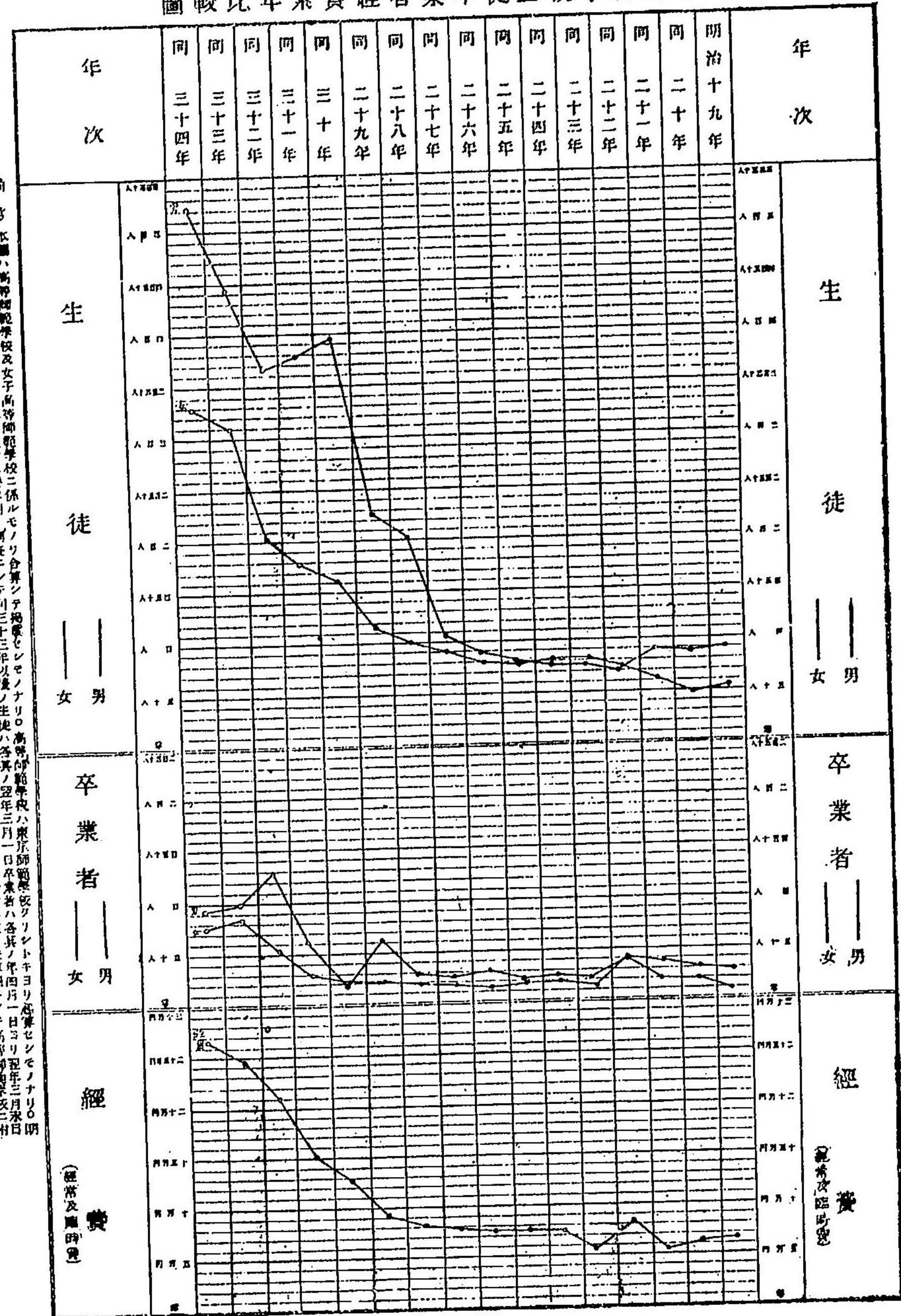


備考

本圖ハ公私立實業學校中工業學校、甲種程度ノ農業、山林、蠶業、獸醫、畜産、水産、商業、商船學校ニ係ルモノニシテ生徒ハ明治三十五年三月一日ノ現在數、人口ハ同三十四年十二月末日ノ現住人口ナリ但生徒中豫科、別科、專攻科ニ係ルモノハ計入セス又學校數ハ同三十五年三月末日ノ調査ナリ

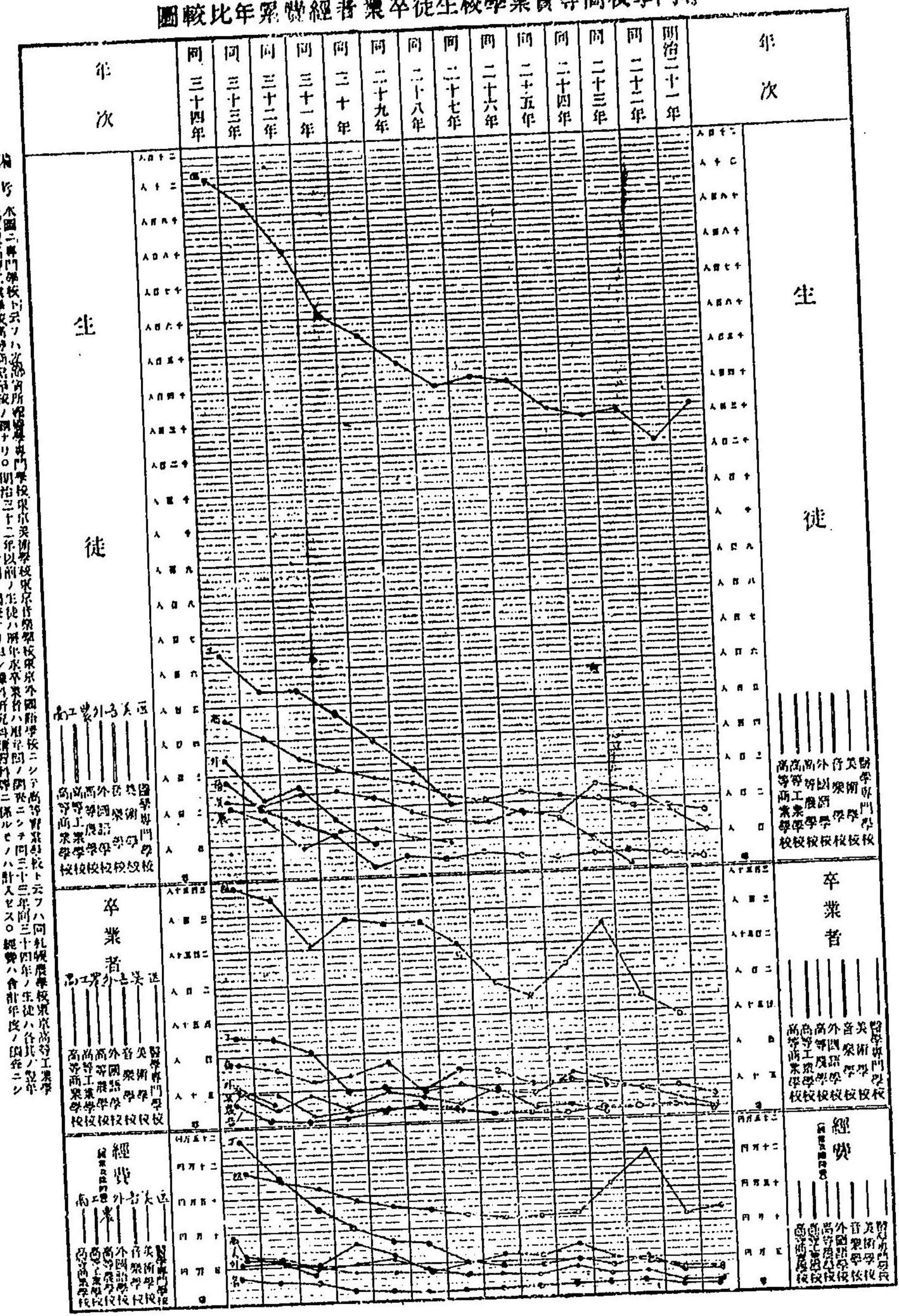


高等師範學校生徒卒業業者年比較圖



備考
 本圖ハ高等師範學校及女子師範學校ニ依ルモノナリ合算シテ掲載セシメナリ
 高等師範學校ハ明治二十三年三月一日ヨリ翌年三月末日
 女子師範學校ハ明治二十三年四月一日ヨリ翌年三月末日
 本圖ハ各年ノ卒業業者ノ数ヲ示スルモノナリ
 卒業業者ハ各年ノ三月末日現在ノ卒業業者ノ数ヲ示ス
 経費ハ各年ノ三月末日現在ノ経費ノ数ヲ示ス
 生徒ハ各年ノ三月末日現在ノ生徒ノ数ヲ示ス
 男女別ノ数ハ各年ノ三月末日現在ノ男女別ノ数ヲ示ス
 本圖ハ各年ノ三月末日現在ノ数ヲ示ス

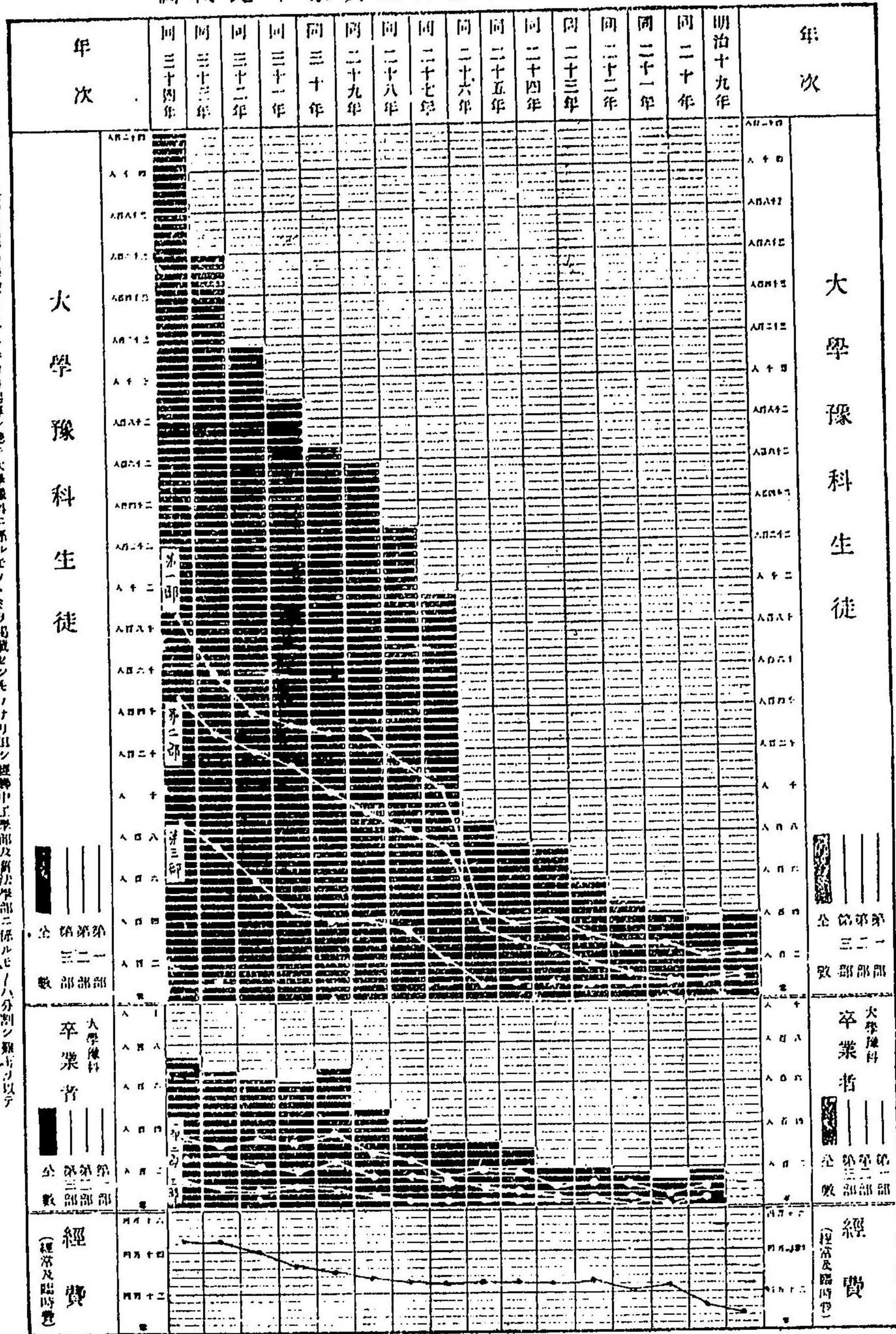
圖較比年累開經者業卒徒生校學業實等高校學門專



備考
 本圖ニ專門學校ノ外ハ各該府縣學務部ニ於テ報告セラルル學校ニ限リ
 凡ソ本圖ニ記載セラルル學校ハ明治三十一年以前ノ生徒ノ畢業ノ
 統計ニ基キテ算出スルモノナリ
 凡ソ本圖ニ記載セラルル學校ハ明治三十一年以前ノ生徒ノ畢業ノ
 統計ニ基キテ算出スルモノナリ
 凡ソ本圖ニ記載セラルル學校ハ明治三十一年以前ノ生徒ノ畢業ノ
 統計ニ基キテ算出スルモノナリ

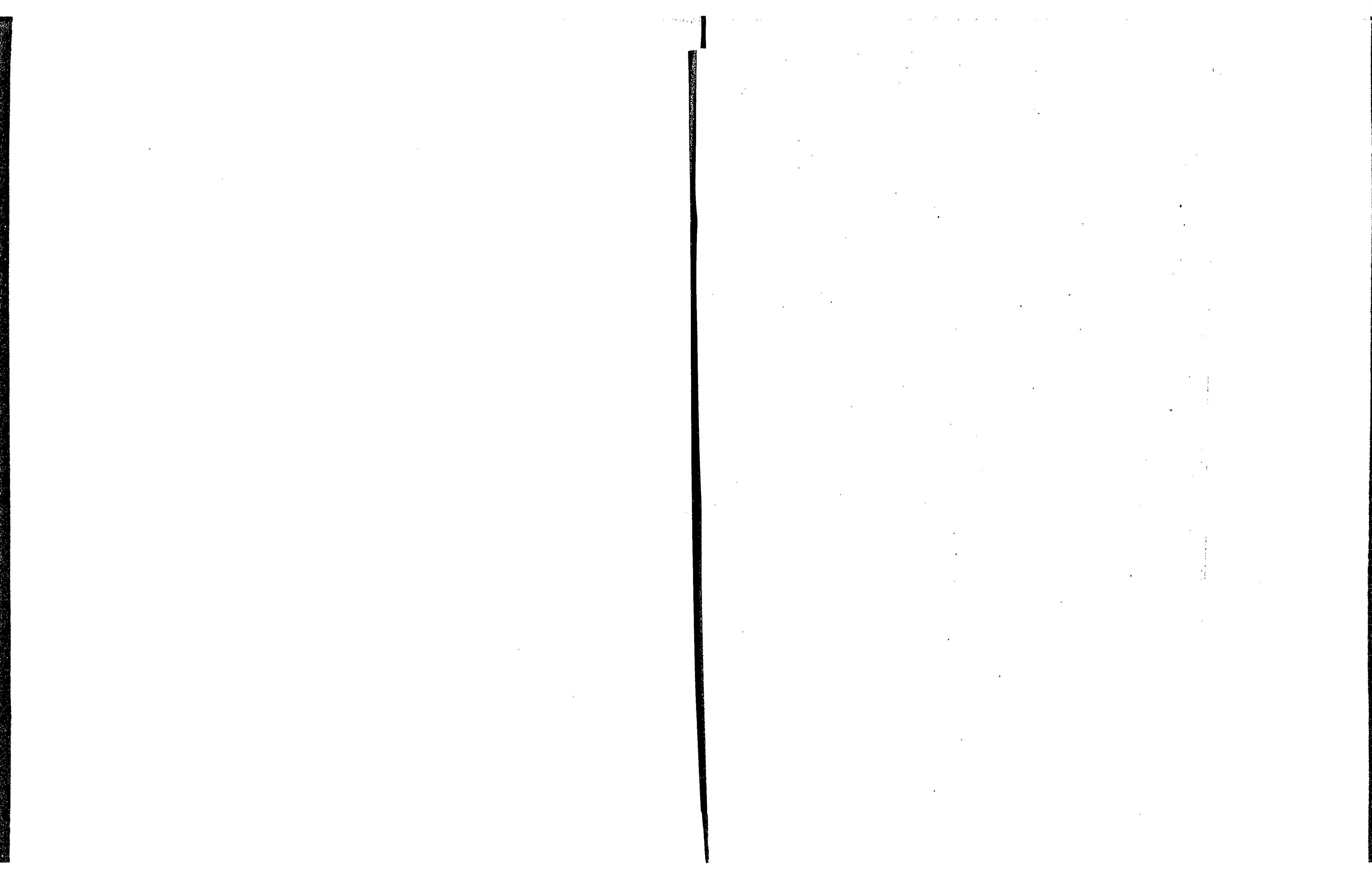
高商外音英醫
 高等專門學校
 高等商業學校
 高等工業學校
 高等農林學校
 高等師範學校
 高等醫學學校
 高等音樂學校
 高等美術學校
 高等體育學校
 高等實業學校
 高等職業學校
 高等師範學校
 高等醫學學校
 高等音樂學校
 高等美術學校
 高等體育學校
 高等實業學校
 高等職業學校

高等學校生徒卒業業者原費比年較圖

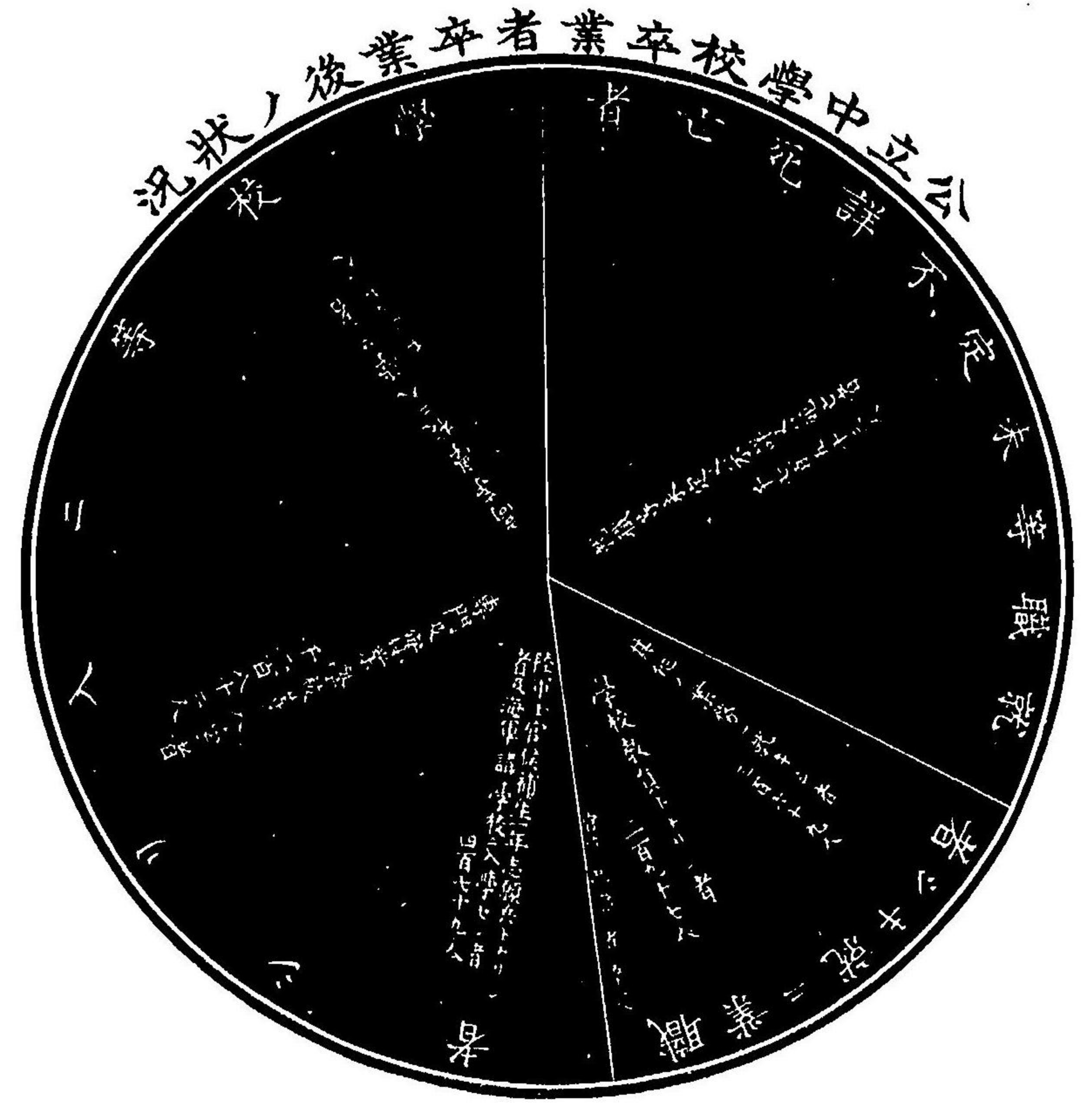
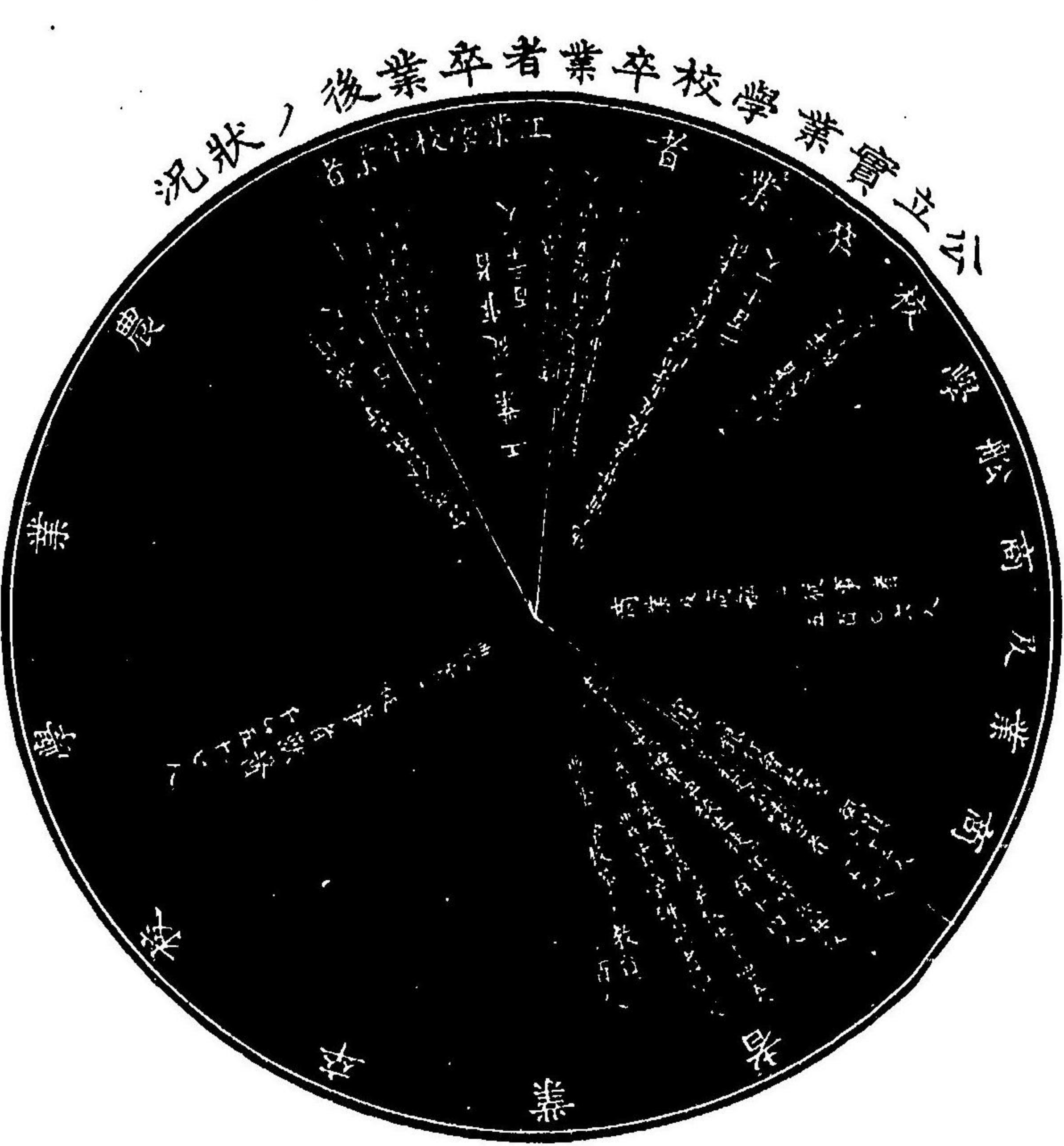
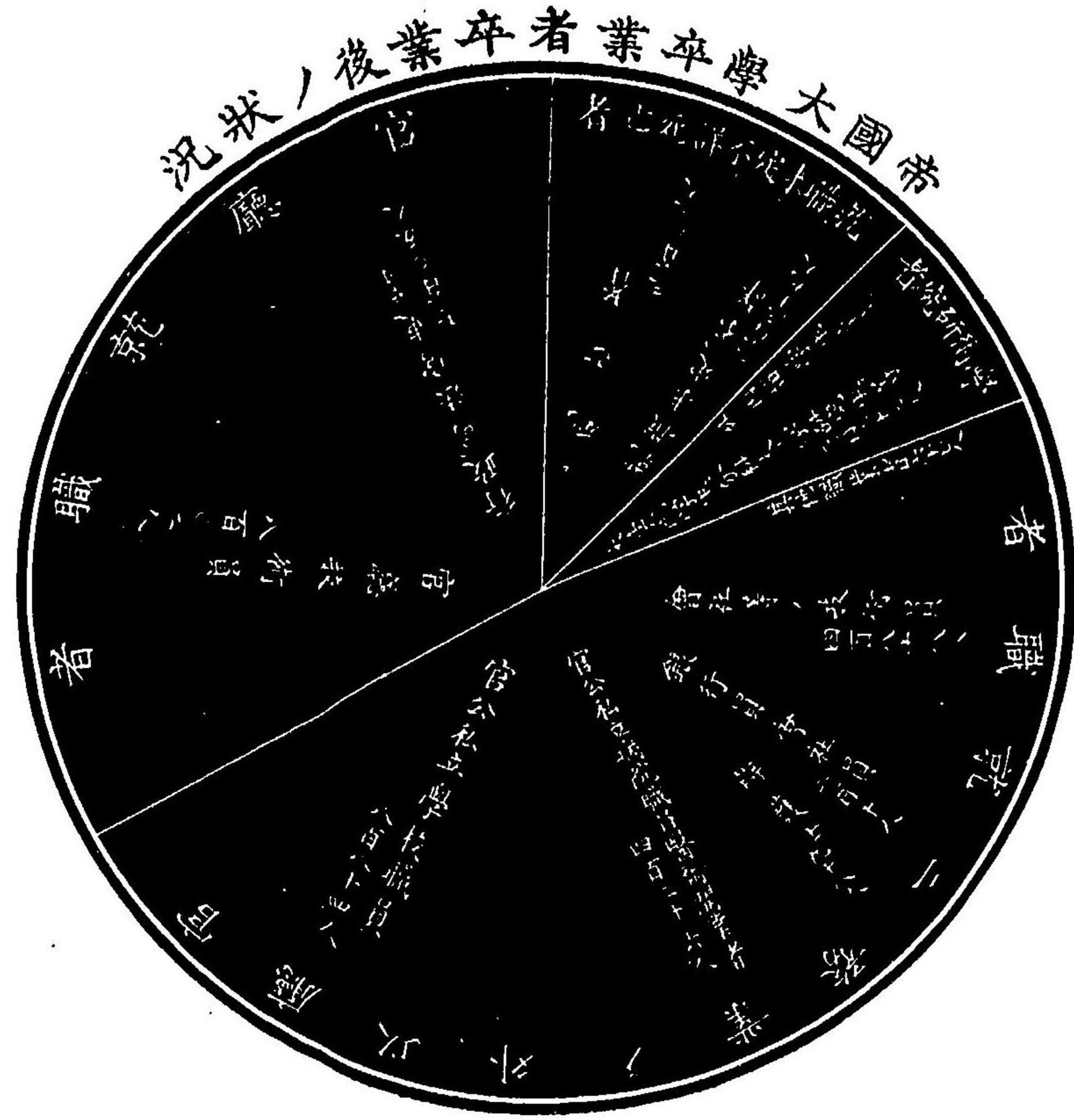


備考
 本圖ハ高等中等學校ヲリテトコロ起算シ總テ大學豫科ニ係ルモノミヲ指シシモナリ但シ總務部及新法學部ニ係ルモノハ分別シテ以テ
 表示スルコトナリ
 又同三十二年以前ハ帝國大學大學法政文學部大學農學部大學醫學部大學理學部大學工學部大學農學部大學醫學部大學理學部大學工學部
 等ニテ表示スルコトナリ
 同三十二年以後ハ帝國大學大學法政文學部大學農學部大學醫學部大學理學部大學工學部等ニテ表示スルコトナリ
 又同三十二年以前ハ帝國大學大學法政文學部大學農學部大學醫學部大學理學部大學工學部等ニテ表示スルコトナリ
 同三十二年以後ハ帝國大學大學法政文學部大學農學部大學醫學部大學理學部大學工學部等ニテ表示スルコトナリ

大學豫科生徒
 第一第二第三第四第五第六第七第八第九第十第十一第十二第十三第十四第十五第十六第十七第十八第十九第二十
 卒業業者
 第一第二第三第四第五第六第七第八第九第十第十一第十二第十三第十四第十五第十六第十七第十八第十九第二十
 經費
 第一第二第三第四第五第六第七第八第九第十第十一第十二第十三第十四第十五第十六第十七第十八第十九第二十

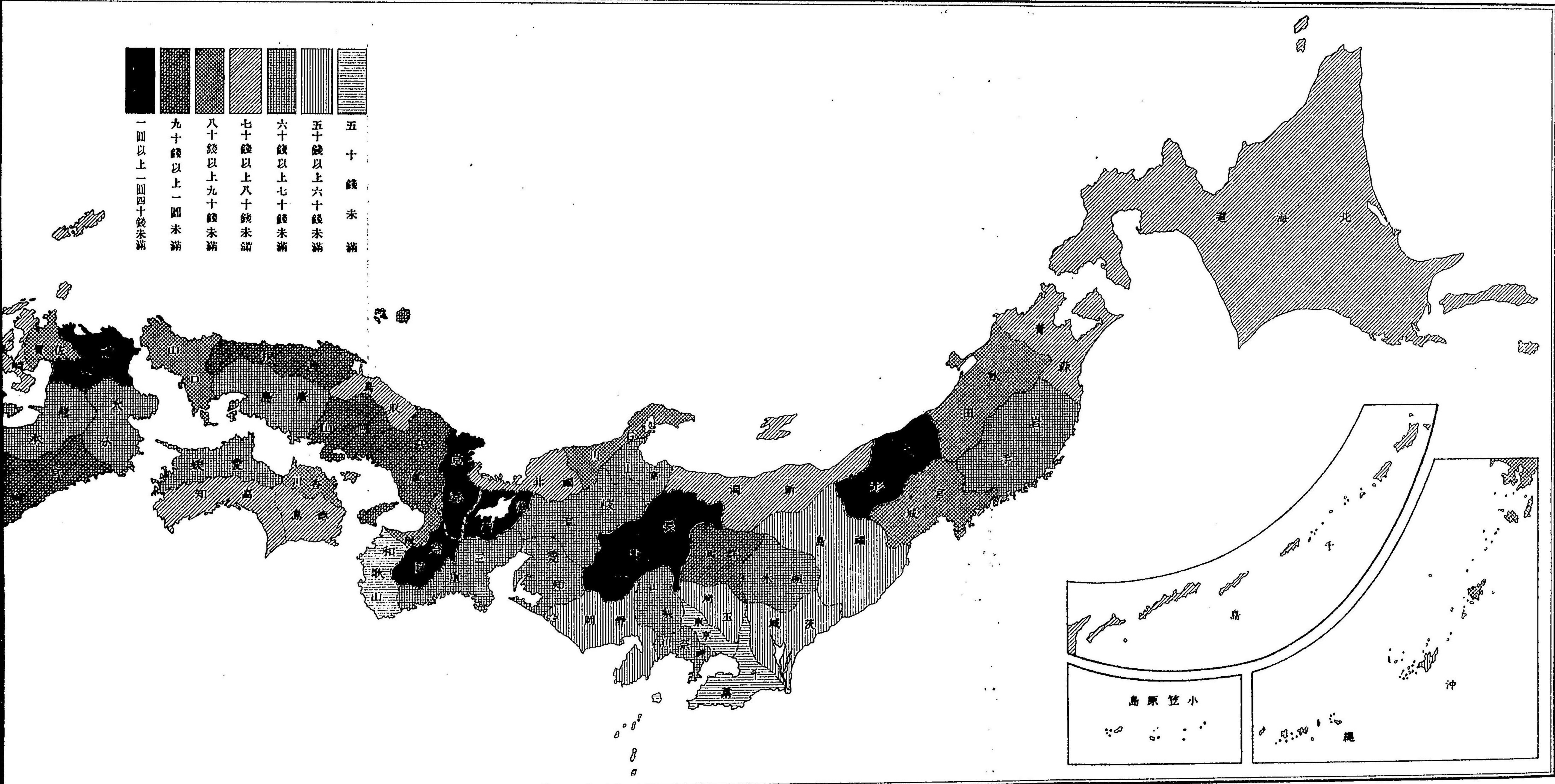


帝國大學公立中學實業學校畢業者後狀圖



備考
 本帝國大學卒業者ハ東京帝國大學及京都帝國大學ニ係ルモノヲ合算シテ掲載セシモノニシテ東京帝國大學ハ東京大學タリシトキヨリ、京都帝國大學ハ其創立ヨリ各明治三十四年九月末日マテニ各學生ノ卒業シタル者ニ就キ同九月末日ニ於ケル現況ヲ示シタルモノナリ。公立中學校、公立實業學校ニ係ルモノハ同三十三年四月一日ヨリ同三十四年三月末日マテニ卒業シタル者ニ就キ同三十五年三月末日ニ於ケル現況ヲ示シタルモノナリ。但シ徒弟學校、實業補習學校ニ係ルモノハ計入セス。卒業者一人ニシテ二種以上ノ事項ニ涉ルモノハ其主ナル一方ニノミ掲載セリ。

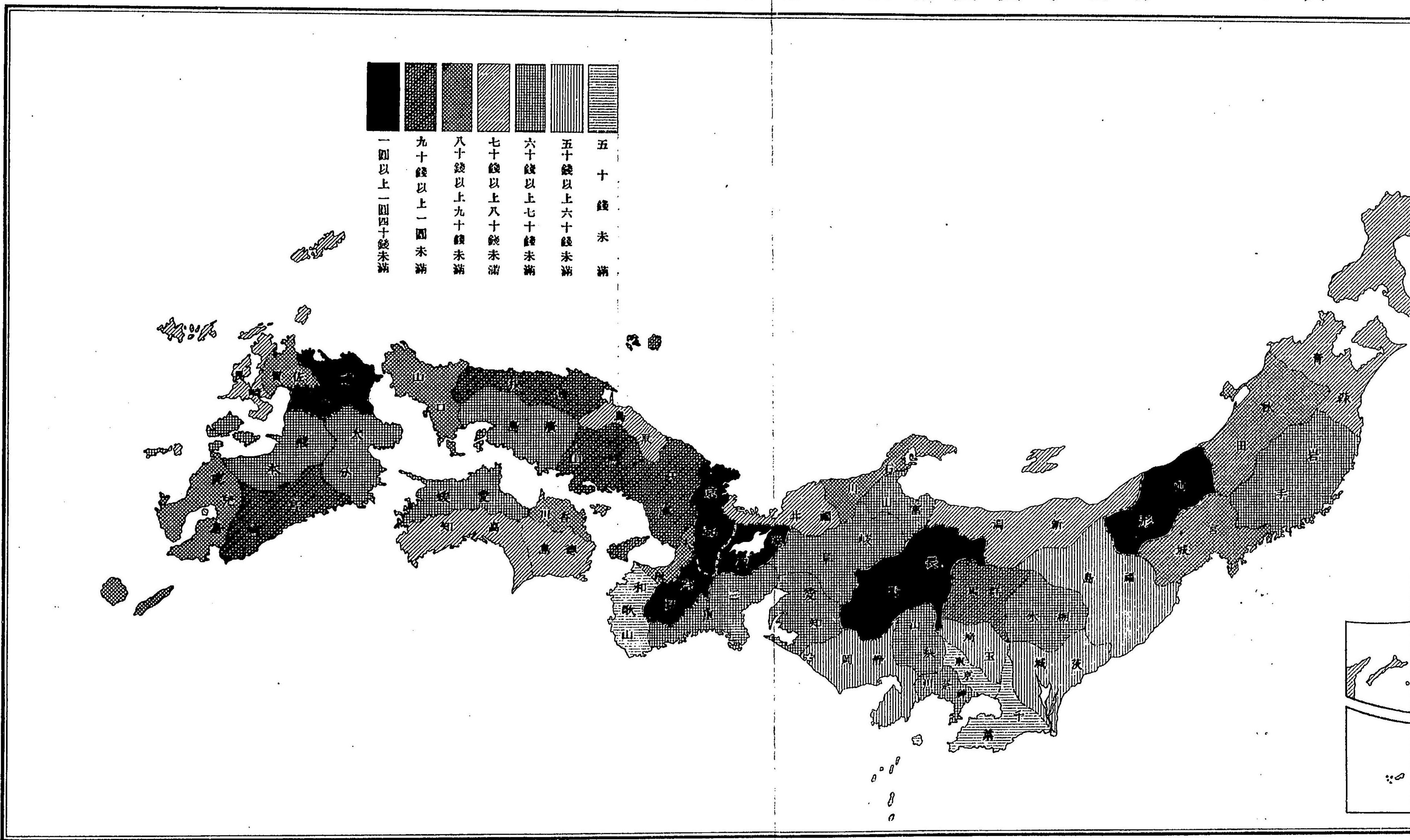
圖 較 比 縣 府 廳 道 額 擔 負 費 學 公 付 = 一 口 人



圖較比縣府廳道額擔負費學公付＝一口人

備考

本圖ニ公學費負擔額ト云フハ公學費支出額ヨリ授業料、寄附金等學校等ニ屬スル收入額ヲ控除シタル殘額即實際人民ノ負擔額ノ謂ニシテ會計年度ニ係ル明治三十四年度ノ決算額、人口ハ明治三十四年十二月末自ノ現住人口ナリ



重要農產物輸出入額累年比較表

農務省出品

本表ノ輸出入額ハ明治二十五年ヨリ三十四年ニ至ル蠶絲類、米、茶、麥、稗、真田、煙草、蔬菜、果實、其他ニシテ輸入ハ綿、米、砂糖、大豆、油粕、羊毛、乾藍等ニシテ年度ニ應シテ其數量ヲ高低表ヲ以テ示シ重要農產物ノ輸出入ヲ明瞭ニ知ラシムルモノニシテ國家經濟上有益ノ表タリ

蠶絲輸出先及輸出價格比較圖明治三十四年調

全

本圖ハ圓周ヲ十二ヶ國ニ分率シ之ニ彩色シテ各國蠶絲ノ輸出先及其輸出價格ヲ明瞭ニ比較シ易カラシムルモノニシテ米國ハ圓周ノ二分ノ一以上ヲ占メ以下順次佛國、伊太利、露國等ニ分チ本邦蠶絲ノ販路ヲ知ルニ便ナリ

世界各國生絲產額對照圖

全

圓周ヲ東亞、西歐及中亞等ニ分チ中ニ各邦國ノ生絲產額ニ應シテ圓分率ヲ大小ニシテ其產出額ノ多寡ヲ知ラシム支那、伊太利、日本、佛蘭西、ベルシヤ等ハ其產ノ大ナルモノニシテ十有餘國ノ名ヲ記セリ蠶業ノ發達ヲ計ルニ於テ外國ノ產額ヲ知リ輸出ヲ盛ナラシメン爲最モ有益ノ圖ナリ

認許遠洋漁業船舶乘組員比較表

全

本表ハ明治三十一年ヨリ三十五年迄ノ調査ニシテ三十一年ニハ乘組員百八十人餘三十二年ニハ四百人餘三十三年ニハ五百五十人餘三十四年ニハ四百四十人餘三十五年ニハ六百人餘ト爲リ益々其員數ヲ増セリ

遠洋漁業獎勵金支出比較表

五〇四

明治三十一年ニハ七百圓三十二年ニハ七千圓三十三年ニハ貳萬壹千圓三十四年ニハ貳萬六千圓三十五年ニハ三萬圓ヲ支出セリ如何ニ此種ノ業ノ獎勵セララルルカヲ知ルヘシ貿易統計表

全

一、累年輸出額一覽表(鮑、乾鮑、海參、鱈、乾蝦、昆布、珊瑚、魚油)

右各海產物ニ付明治元年ヨリ三十五年ニ至ル迄各年次ニ亘リ其輸出額及價格ヲ縱線柱

ニテ顯ハセシモノニテ又之ヲ曲線ニテ一ケ年平均價格ヲ三十有餘年ノ間比較シ來リテソノ歴史ヲ一目明瞭ナラシム

二、内國魚肥料並外國輸入肥料一覽表

内國產魚肥料ヲ分ツテ鱈、鯨、鯨、干鰯、鯨、鯨、鯨、目其他ノ肥料ニ付數量及價格ヲ顯ハシ又外國輸入肥料ニ對シテハ支那豆粕、朝鮮干鰯、獸骨、磷酸肥料、鳥糞、露國搾粕ノ數量及價格ヲ示シ又日清戰爭以後外國輸入肥料中支那大豆ノ輸入増加シテ第一位ヲ占ムルニ至レリ露領亞細亞ノ鯨搾粕ハ第二位ヲ占ムレトモ其金額ハ支那豆粕ノ六分ノ一ニ過キス支那肥料ノ大勢力ヲ占ムルニ至リタルコト實際ノ事實ナレハ我カ農業國ハ正ニ大ニ内地肥料ヲ盛ナラシメテ外國輸入肥料ノ侵入ヲ防クノ策ヲ執ラサルヘカラサルコト本表ヲ見ルモノ、心頭ニ浮フ所ナリ

全

世界鑛產額國別比較表

本表ハ金、銀、銅、鐵、鉛、アンチモン、マンガン、硫黃、石炭、石油ニハ米、英、佛、獨、露ヲ始メトシテ其國產額ノ多寡ヲ年次ニ從ヒ產出ノ高ニ應シ順序ニ記セルモノニシテ一面ニハ其國天與ノ寶庫ニ富メルコト及之カ採掘ニ進歩セルコトヲ知ルヘシ又圓周分率ノ別ヲ以テ之ヲ示セリ

全

主要鑛產物輸出入國別表

本邦ヨリ輸出スル石炭ハ支那、香港、比律賓、英領印度其他ノ諸國ニ向ヒ其年度數量價格ヲ示セリ輸入物ノ鐵ハ英、佛、白、北米其他ヨリ石油ハ北米、露、西、亞、蘭、領、印、度、其、他、ヨリ尙圓周分率ヲ以テ銅、石炭ノ消費等ヲモ示セリ一目シテ主要鑛物ノ價格及輸出入國別ヲ知ルヲ得

全

各種ノ統計表

土石類價格地方別比較表ハ建築石材類等ノ價格及地方別ヲ示シ鑛業稅及鑛區稅地方別累年比較圖ハ鑛業稅及區稅ヲ地方別シ其他鑛業會社種別表、變災死亡數、鐵道延長、地方別鑛業用原動力地方別、就職人員地方別、鑛山就業人員累年比較、主要鑛山產額比較及其價格表、主要土地鑛產額比較圖、地方別鑛山價格累年比較圖、主要鑛產物產額比較、鑛產額累年比較、稼業工數地方別比較、砂金採集地、地方別比較表、鑛區坪數、地方別累年比較、試掘地坪數、地方累年比較數等ニシテ鑛山業ニ到ル本邦諸般ノ觀察最モ精明ニシテ斯業界ニ有力ナル

資料ナリ

全

發明特許登錄意匠登錄商標(三十一年ヨリ三十三年ニ至ル)

第五十五類 統計及經濟

五〇五

本表ハ工業所有權保護同盟國ト未加入國トニ分チ其各國ニ於ケル特許、意匠、商標ヲ示シ
 特許ハ米、英、佛、白ノ順序ニ記載シ意匠ハ佛、瑞、西、英、米、白ノ順序商標ハ佛、英、日、北米、瑞、西、和蘭
 白トシ未加入國ハ獨逸、埃斯利、匈牙利等トシ彩線ノ大ナルモノニテ示シタル大圖ナリ
 特許、意匠、商標ニ關スル出品數及特許又ハ登錄累年比較數

全

本表ハ特許、意匠、商標ノ三種ニ分チ各明治十八年ヨリ三十五年ニ至ル迄ヲ件數別ニ表示
 セリ且ツ出願數ト特許又ハ登錄數ヲ掲ケ大圖面中ニ彩色セル線ヲ以テ明瞭ニ各件ノ關
 係ヲ示セリ

主要礦產物輸出入額模型

全

本模型ハ銅、石炭、鐵、石油ヲ方形又ハ圓形ニテ其形ヲ大小ニシテ其分量ヲ示シ明治八年
 ヨリ三十五年ニ至ル迄ノ輸出入ノ分量ヲ識別シ易カラシム且ツ一方ニ地圖ヲ添ヘテ石
 油及鐵ヲ輸入スル國名銅及石炭ヲ輸出スル國名ヲ線條ニテ示シ相待テ其變遷趨向ヲ知
 ルニ至便ナリ

大日本帝國地總覽土性調查概測(明治三十四年調査)

全

本表ハ日本各國名總面積概測約十五度以下ノ平均現耕地總面積ニ對スル平地百分率平
 地ニ對スル現耕地百分率原野林地トシテ現存ノ分等ニ區別シ各國ニ就キテ細密ニ調査
 セルモノニシテ本表ニ依リテ從來如何ナル國ノ耕地整理セシヤヲ知ルノミナラス又將
 來如何ナル國ニ於テ開墾事業ヲ努ムヘキカヲ知ルニ最モ便利ナリ

主要礦產物產出累年比較模型

全

本模型ハ「アンチモニー」ハ明治十八年ヨリ三十四年迄鉛ハ八年ヨリ三十四年迄「マンガン」
 ハ八年ヨリ三十四年迄種々ナル立體形狀ヲ以テ示シ鐵ハ木製ノ黒柱柵ヲ以テ作り其產
 額ニ依テ柱ヲ高低ニシ八年ヨリ三十三年迄ヲ顯ハシ銀ハ大ナル銀色ノ四角柱ヲ立テ十
 三年ヨリ三十四年ニ至ル各年次ニ應シテ橫線ヲ劃シ其兩橫線ノ距離ノ大小ニヨリテ產
 額ノ多少ヲ知ルコトヲ得金ハ其表ノ顯ハシ方銀ニ同シ唯金色ノ木柱ナルコトノ異ナル
 ノミ其廣狹ニ依テ產額ヲ知ラシム石炭、石油、硫黃ノ三種ハ各明治八年ヨリ三十四年ニ至
 ル迄石炭ハ汽車ノ荷物車形ニ入レタル形狀ニテ石油ハ汽車貨車上ニ横鋪ヲ載セテ其大
 小ニテ示シ硫黃モ亦黃色ノ卵形ニテ示シ銅ハ銅色ノ木製柵柱ノ高低ニテ其產額ヲ顯ハ
 セリ各主要礦物ノ一年一年ト其產出額ヲ増大スル現狀ヲ呈スルコトヲ有形的ニ最モ簡明
 ニ何人ニモ知リ易カラシム意匠巧妙ナリ

全

道廳府縣產業組合數比較表(明治三十五年十二月十五日現在)

本表ハ信用組合、販賣組合、購買組合、生産組合、兼業組合ノ五種ニ分チ全國各府縣ノ數ヲ顯
 ハシタルモノニテ長野、靜岡、富山、石川、山梨、福岡、群馬、京都、東京、大阪等ハ其數ノ大ナルモノ
 ナリ產業組合ノ發達ヲ知ルニ便ナリ

全

總輸出入額ト農產物輸出入額トノ比較

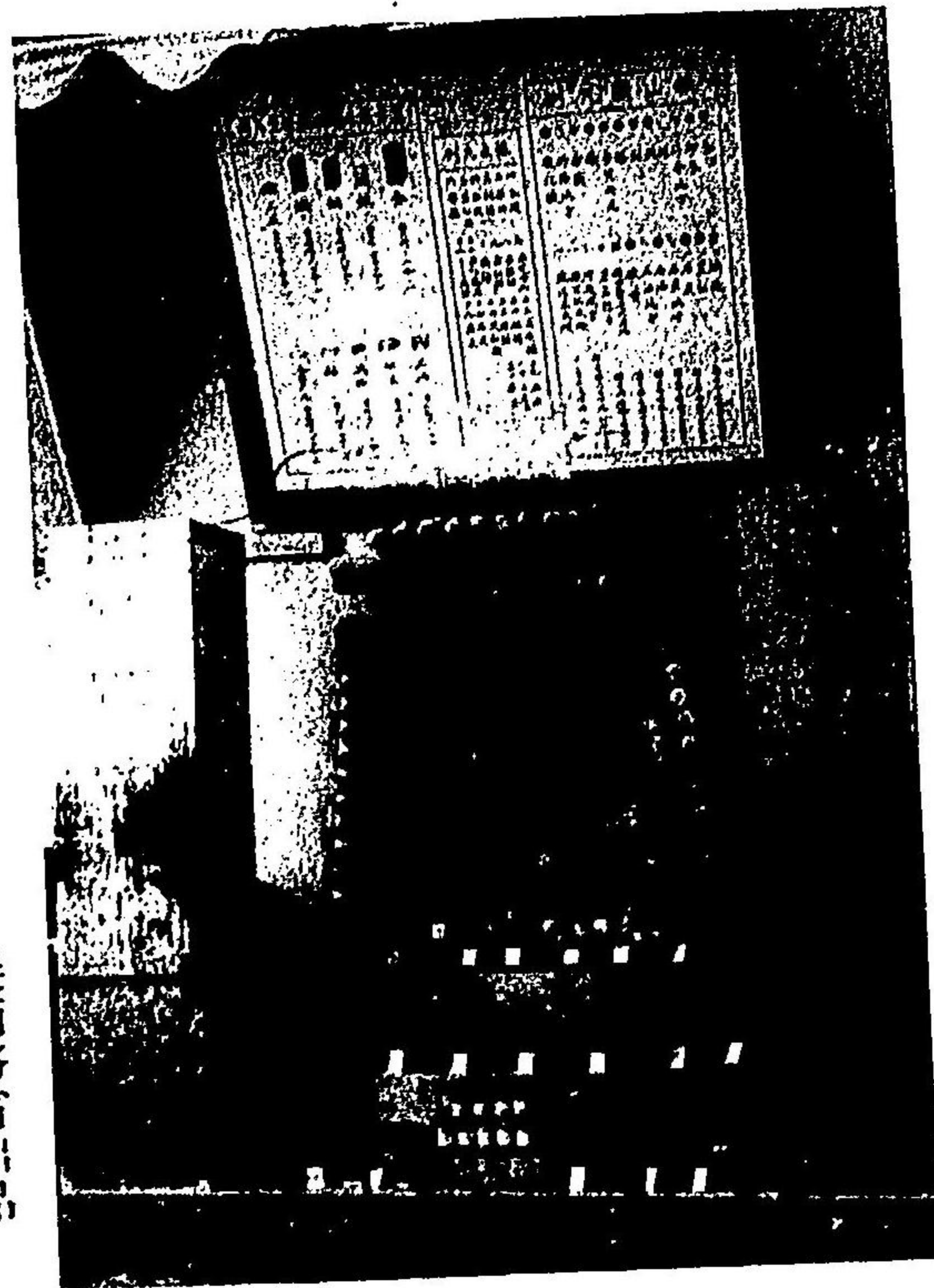
輸出入ニ關シ明治二十五年ヨリ三十四年迄總輸出入額ト農產物輸出入額トニ分チ相對照シ

テ示シ又總輸入額ハ農産物輸入額トヲ對照シテ一ハ輸出額ヲ増大セシムヘキコト及外國輸入農産物ヲ防クヘキ觀念ヲ與フルニ好資料ナリ

輸出品總價格ト蠶種類輸出價格トノ累年對照表

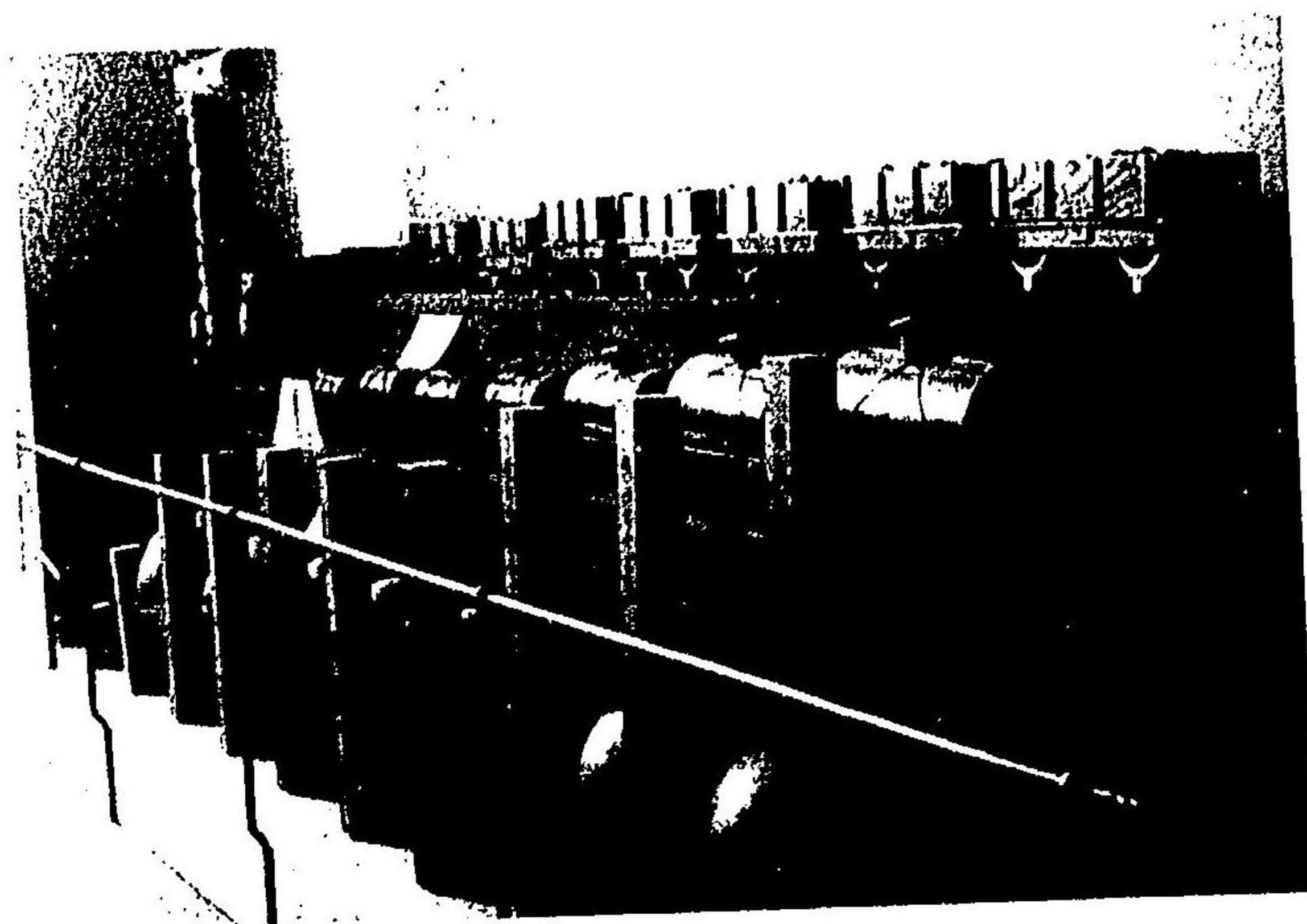
本表ハ蠶種ノ輸出總價格ト又輸出價格トヲ明治元年ヨリ三十四年迄表示セルモノニシテ本邦輸出額ノ大部分ヲ示セリ

全



農務省出品

主要産物輸出入額比較型寫真



農務省出品

主要産物累年比較型

遞信省出品

郵便貯金人員及金額

明治二十五年ヨリ三十四年ニ至ル其人員及貯金金額ヲ異ナル印紙ヲ以テ其高ヲ示シタルモノニシテ貯金事業ノ發達ヲ知ルニ便ナリ

電報通報

官報、私報事務報ノ三種ニ分チ(二十五年ヨリ卅四年ニ至ル)印紙ヲ以テ其高ヲ示シ光線發射狀ニ作レルモノニテ著想新奇ナリ官私報事務報各種ノ電信發達ヲ明示セリ

郵便爲替口數及金額振出し

一線中ニ通常爲替、小爲替電報爲替ノ三種ニ分チ其種類ヲ三種ノ異ナル切手ヲ用ヒテ其口數ノ口計ヲ示シ其口數ハ小爲替通常爲替多クシテ電報爲替少シ金額ハ通常爲替多ク小爲替電報爲替至テ少シ爲替口數及金額振出しノ發達ヲ明瞭ニ知ルヲ得ヘシ

受附郵便物數

通常郵便ヲ書狀、葉書、其他總計ノ四ニ分チ又小包郵便物數ヲ掲ク本表ハ通常郵便及小包郵便ノ發達ヲ知ルニ便ナリ

電話度數及加入者數

加入者ハ各年度末現在度數ハ各年度中ニテ總度數トス圓形表ニ作レリ二十五年ヨリ三十四年ニ至ル加入者及電話度數ヲ印紙ノ高低ニテ顯ハセリ加入者ハ三十一年ヨリ非常ニ増加シ電話度數モ亦増セリ交通機關ノ漸次發達ヲ知ルヲ得ルナリ

全國鐵道進歩一覽圖

全 五一〇

本圖ハ明治二十三年ヨリ三十四年ニ至ル營業哩數面積一千平方哩ニ對スル哩數人口一萬ニ對スル哩數營業費、建築費、純益、營業收入等ヲ記シ更ニ又圓周ヲ分率シテ建設費ヲ圓周ヲ以テ顯ハシタル太陽ト假定シ其支出ヲ圓周ニテ顯ハセル地球ト假定シ純益ヲ圓周ニテ顯ハセル月ト假定シ太陽ト月トノ間ニ地球ノ夾リタル形狀ヲ作リテ其影ニ當レル所即月他ノ所ニ純益ノ部ヲ顯ハシタルモノニシテ意匠甚タ新奇ナリ

最近十二ケ年間鐵道車輛一覽圖

本表ハ明治二十三年ヨリ三十四年ニ至ル各年間ニ乘客人員貨物噸數ヲ記シ且水平照尺ヲ備ヘテ乗客一人若クハ貨物一噸ノ平均運轉ノ哩數ヲ示セリ貨物及乘車人ニ於テハ三十年ヨリ著シク増大セリ

萬國船舶噸數比較圖

全

本圖ニ示ス噸數ハ明治三十四年ノ調査ニテ汽船ハ總噸數百噸以上帆船ハ登簿噸數百噸以上ニシテ汽帆船合計噸數十萬噸ニ達セサルモノハ之ヲ除ク各國其國ノ國旗ヲ用キ其大小ニ依リテ其汽船及帆船ノ二種ニ分テ其噸數ヲ知ラシム英ハ第一ニシテ獨、北米、佛、諾威、西班牙、伊多利、露西亞、日本等以下之ニ次ク故ニ其畫ケル處國旗ノ大小ニヨリテ其國ノ力ヲ海軍ニ注クノ如何ヲ察知スヘシ

氣象觀測諸圖表

臺灣總督府出品

臺灣總督府ノ出品ハ同島ノ氣候ヲ示ス諸種ノ圖及報告等ニシテ能ク全島ノ氣候摸樣ヲ了解セシメ以テ世人ノ同島氣候ニ關スル誤解ヲ氷解セシムルニ足ル等實ニ重要ノ出品ナリトス

大分縣出品

俵米改良ノ方法及成績

大分縣出品ノ俵米改良ノ方法及成績ハ俵米製産及販賣上ノ弊害ヲ矯正スルノ良方法ナリ今大分縣報告ニ基キ其事蹟ヲ掲ク

貢米ノ制度廢止以來年ヲ逐テ米質乾燥粗雜ニ流レ香子鼠臭ノ稱呼ハ豊後米ノ代名詞ナルカ如ク往昔豊國ト謂ヒ碩田ト呼ハレタル美名ト事實全ク反スルニ至レルハ志士ノ常ニ慨歎措ク能ハサル所ナリ而シテ東豊前ハ水吹米多ク甚シキハ瓦礫ヲ混シテ容量ヲ詐リ俵裝ハ一重皮三所結ナルアリ僅カニ數里ヲ搬出スレハ細切レ口破レテ又用ヲ爲サス片道俵ノ名因テ起ルニ至レリ茲ニ於テ明治十三年宇佐郡長洲港ノ米商相謀リテ粗惡防止規約ナルモノヲ締結シ其後各郡ニモ米改良組合ヲ組織シ稍ヤ惡弊ヲ矯メタリト雖モ歩調一ナラサルカ爲ニ十分所期ノ目的ヲ達スル能ハス越エテ三十二年ノ交重要物産同業組合法ニ據リ一縣ヲ一地區トシ米ノ生産諸販賣者ヲシテ同業組合ヲ設ケシメントノ議起リシモ約十四萬ノ營業者ヲ打ツテ一團トナシ些小ノ遺憾ナク取締機關ヲ運轉セシコト地形ノ關係政爭ノ除波其他各種事情ノ存スルアリテ遂ニ之ヲ組成スルニ至ラス本縣ノ情勢上縣事業トシテ米穀検査ヲ行フ事最モ適應セルヲ以テ三十四年四月該規則

ヲ制定發布シ其年十月ヨリ縣下ニ施行セリ其施設大要左ノ如シ

乾燥 從來(香子)蠶臭等ノ惡評ヲ蒙リタタルモノ米種地質ノ關係如何ニ因ルヘシト雖モ主トシテ乾燥不完全ノ結果倉庫堆積中酸酵ヲ促シ異臭ヲ放テルモノ少カラサルカ故ニ規則施行後ハ最モ此點ニ重キヲ置キ刈干粉乾ノ十分ナラサルモノハ粉磨ヲナサシメス一面嚴重ナル制裁ヲ加フルト共ニ一面農事篤志者ニ向ツテ簡易架乾及倉庫内清潔法ヲ實行セシメ漸次一般ニ普及ヲ圖レリ

調選 粳稗赤米土砂其他交雜ノ除去不十分ナリシハ一ハ故意ニ出シモノ多キモ掘車千石篩等ノ調選器具不備ニシテ勞シテ效果ノ顯ハレサルモノアルニ付是等新調又ハ修繕ヲナサシメ一層調製ノ完全ヲ圖リツ、アリ

容量 從來一俵ノ容量三斗三升三斗五升三斗七升四斗四斗二升五斗五斗二升等區々ニシテ取引上ノ不便云フヘカラサルモノアリ依テ斷然四斗入ト規定シ検査履行ノ結果枳廻シノ際少ナキモ二三合多キハ七八合ノ量リ出シアルニ至レリ

俵裝 前記容量ト同シク製俵ノ方法區々ナリシモ規則ニ於テ其製式ヲ一定シ堅固緻密ニ緊括セシムルカ故ニ濕氣ノ浸透及脫粒蝕蝕等ノ損失ヲ除キ而シテ大ニ外觀ノ美ト取扱ノ便トヲ増進シタリ

而シテ検査規則施行後ノ狀況ヲ見ルニ縣下ヲ通シテ俵裝容量ヲ一定シ乾燥調選ヲ完全ナラシメタル結果各輸出地共購客倍蓰シ從前ハ一口千俵以上ノ取組甚タ稀ナリシニ現

今ハ六七千俵ノ手合少カラス輸出ノ盛期ニ當リテハ定期航船ニ託送スルヲ得ス臨時ニ汽船ノ増發ヲ需メ兵阪馬關ノ市場ニ輸出スル事頻繁ナリ而シテ近時新ニ東京廻リトナルモノ亦多シ隨ヒテ價格產地ニ於テ一石ニ付優ニ七八十錢ヲ昂進ス曩ニ堂島取引所受渡米中豐後米ニシテ標準米ヨリ十五錢格上セラル、アリ從前常ニ四五十錢格下ケセラレタルモノ如此ハ同所開始以來始メテノ出來事ナリト云フ唯憾ラクハ縣外輸出ニ限リ比較的良米少カリシハ是迄上米下米ノ價格ニ甚シキ等差ナキヲ以テ其優良ノモノハ縣下ノ酒造家精米業者等カ之ヲ途ニ要シ選拔購買シテ地元消費トナリ不良米ノ混同取引ヲ搬出セラル、有様ニテ本縣米ノ聲價發揚上甚タ障礙トナレルモ今後良否ノ混同取引ヲ防遏シ検査ノ等級ヲモ嚴正區別セルカ故ニ上米ノ輸出漸次増加スルニ至ルヤ疑ヒナシ又米ニナリテ後ノ弊害匡正方法ハ略前記ノ如クナルモ其米ニナル迄ノ所謂品質ノ改良產額増加ノ手段ハ専ラ農事教育ノ普及ト農會其他獎勵機關ノ活動ニ俟タサル可カラサルヲ以テ數年前ヨリ二個ノ縣立農學校ト數箇農業會補習學校ヲ設ケ農家子弟ノ薰陶ニ力メ縣郡農會ニハ農事巡回教師ヲ置キ短期講習或ハ巡回講話ヲナサシメテ直接業ヲ執ル者ヲ啓導シ或ハ苗代品評會立毛品評會俵米差シ米小作米各種ノ品評會ヲ開キ或ハ優旗賞旗ノ授與式ヲ莊嚴ニシ又耕地整理排水模範田設置者ニ獎勵費ヲ下附スル等幾多斯業ノ改善發達ヲ促ス所アリシカ本年度ヨリハ更ニ進ンテ良種ノ普及ト米種ノ一定ヲ圖ル目的ヲ以テ縣下ニ百八十四箇所ノ稻作模範田ヲ置キ栽培上各種改良ノ實績ヲ示スト

共ニ其收穫ノ粗ハ精選ノ上原種用トシテ當業者ニ配附又ハ交換セシムル筈ナリ本年度縣農會ノ經費豫算ハ一萬四千二百四十八圓各郡農會費金三萬千二百四十四圓縣費ヨリ縣農會補助額六千八百圓國庫補助金三千二百四十五圓ナリ

管内森林勞力者及他ノ工藝上ノ勞力者賃金比較圖

福岡大林區署出品

本表ハ機械、木挽指物師、袖炭燒、石工、大工、左官、製紙、桶職、陶器職、下駄職、製茶、染物職、合計等ニ分テ其一日ノ賃金ヲ表示シ各職ノ圖畫ヲ挿シ且ツ其人長ニ依リテ賃金ノ大小ヲ顯ハシタルモノニテ一見シテ工藝上ノ勞力者ノ一日ノ賃金ヲ知ルニ便ナリ

大阪府誌、同附屬業諸統計圖富力及生産力ノ模型

大阪府出品

一、大阪府誌

京都ニハ平安通史アリ神戸ニハ神戸開港三十年史アリ横濱ニハ横濱沿革史アリ今又第五回内國勸業博覽會ニ隨伴シテ大阪府誌大成ス明治三十三年時ノ大阪府知事ハ明治三十三年ヨリ明治三十六年ニ至ル大阪府聯帶勸業費繼續年及支出方法ニ付地方議會ノ決議ヲ得テ内務大臣ノ認可ヲ受ケ臨時勸業委員ヲ置キ三十四年一月ヨリ府縣市町村ノ財政ニ關スル事項、商工、農林、水産諸業ニ關スル事項名勝舊蹟ニ關スル事項、教育、警察、衛生、監獄、測候及他部ニ屬セサル事項等ノ分擔ヲ定メ府廳所在ノ簿冊ニ就キ必要ナル記事ヲ搜索シ或ハ諸家ノ藏スル古文書等ヲ蒐集シ各官廳ノ所管ニ屬スル事項ハ尙該官衙ニ照會シ或ハ古老實業家ノ意見ヲ聞キタル等百方史料ノ蒐集ニ勉メ明治三十五年十二月ニ

至リ完成セリ而シテ之レカ豫算總額ハ二萬六千九百九十三圓九錢九厘ニシテ支出額ハ明治三十三年度千六百三十八圓七十錢四厘三十四年度五千七百七十圓七十六錢四厘三十五年度一萬三千六百二十五圓三十六錢一厘三十六年度六千六百五十七圓二十七錢ニシテ遂ニ府誌五卷成リ又其內容左ノ如シ

總論

地勢及氣候

人口

古今ノ變遷

徳川幕府時代ノ管地及現今ノ町村

日本及世界ニ於ケル大阪ノ地位

商業史

總說

一 商業組織

二 商人ノ種別賣買ノ物品運搬トノ慣習并ニ商家雇人使用法

第一章 内國商業

第一節 藏屋敷

第二節 市場并ニ取引所

第五十五類 統計及經濟

第五十五類 統計及經濟

第三節 同業組合

第二章 外國貿易

第一節 開港以前ノ貿易

第二節 開港以後ノ貿易

第三章 物價ノ趨勢

金融機關史

第一章 維新前ニ於ケル金融機關

第一節 貸借

第二節 兩替屋

第三節 掛屋

第二章 維新後ニ於ケル金融機關

第一節 爲替會社

第二節 銀行

第三節 金融事情

第四節 信用取引機關

工業史

總說

第一章 重要工產物

第一節 機業

第二節 油

第三節 陶磁器

第四節 棉

第五節 瓦

第六節 凍瓊脂

第七節 硝子

第八節 段通

第九節 刻昆布

第十節 燐寸

第十一節 莫大小

第十二節 石鹼

第十三節 毛斯倫友禪

第十四節 洋傘

第十五節 煉瓦

第十六節 紡績

第五十五類 統計及經濟

度量衡誌

特許

富力并生產力

第一章 富力

第一節 土地

第二節 建物

第三節 建物以外ノ工作物

第四節 家具衣服美術品

第五節 貨財

第六節 商品

第七節 機關機械機具

第八節 艦船舟車

第九節 家禽家畜

第二章 生產力

風土誌

第一章 空氣ノ溫度

第一節 一日中氣溫ノ變化

第二節 每日平均溫度

第三節 每半旬平均溫度

第四節 每月平均溫度

第五節 溫度ノ偏差

第六節 最高最低溫度及較差

第七節 雜附雪

第二章 空氣ノ壓力

第一節 一日中氣壓ノ變化

第二節 一年中氣壓ノ變化

第三節 氣壓ノ絕對的最高最低

第三章 風

第一節 一日中風速度ノ變化

第二節 一年中風速度ノ變化

第三節 最大風速度

第四節 方向別風速度

第五節 方向別風ノ觀測回數

第六節 平均風向

第五十五類 統計及經濟